



名城大学要覽

Guide to
Meijo University

2024

立学の精神

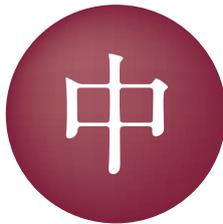
穩健中正で実行力に富み、 国家、社会の信頼に値する人材を育成する



平和であたたかく、
穩やかであること。



秩序と調和と
確実さをもって、
支障なく、
力強く前進すること。



謙虚にもごとの
核心をつかみ、
包容力ある
立場にあること。



ものごとに、折り目、
けじめをつけ、
順逆をわきまえて
筋を通すこと。

■ 大学名の由来

戦後の教育改革で昭和22年に学制が改正され、本学園は名古屋専門学校から新制大学へ移行することとなり、大学名を名城大学と決定しました。その経緯は、世間で「尾張名古屋は城でもつ」といわれるように、名古屋城こと名城は名古屋のシンボルであり、光り輝く金のシャチをいただくお城のようにいつまでも輝く大学でありたいとの願いから創立者の田中壽一氏を中心に合議のうえ、名城大学と命名されたと言われています。
(名城大学75年史から抜粋)

■ 名城大学学歌

河合 逸治 作詞 | 信時 潔 作曲

1 番

朝日に匂う鈴鹿嶺
希望に燃ゆる若人が
学理の泉汲むところ
次代を築く榮えになう
名城・名城自由の学府
おゝ名城

2 番

力と技を競いつつ
正しき理想花と咲く
その意気天を衝くところ
獅子の王座は我にあり
名城・名城自由の学府
おゝ名城

3 番

歴史に尚き名城の
文化の精華享け継ぎて
真理の道を践むところ
健児の行手光あり
名城・名城自由の学府
おゝ名城

■ 名城大学ロゴマーク

本学では、入学式・卒業式を始めとする各式典や、大学全体行事、クラブ活動における大会の応援等において、主に次のロゴマークを使用しています。

名城大学

名 城 大 学

▶ 名城大学(指定文字)

「大学の顔として品格と特徴のある文字をシンボルに」と、1962年に大学協議会で制定。

▶ 校章

新制大学発足時(1949年)から校旗等に採用され、卒業式、入学式等の公式行事に使用。



▶ 鯨のエンブレム

「金の鯨鯨のようにいつまでも光り輝く大学でありたい」と、名城大学の象徴として創設以来使われてきた鯨の図柄を、1993年に意匠化し大学協議会で制定。

▶ マスコット(ライオン)

名城大学学歌2番の「獅子の王座は我にあり」から引用し、名城大学体育会等の学生団体がシンボルとして使用していた図柄を、1993年に統一デザインとして大学協議会で制定。

▶ マスコット(鯨)

文化・学術系課外活動団体のマスコットとして本を持つ鯨をデザインし、1993年に大学協議会で制定。

Contents

立学の精神	1
開学100周年事業	3
開学100周年記念募金	4
アントレプレナーシップ教育	5
データサイエンス教育	6
本学のビジョン	7
大学のあゆみ	9
組織機構図	10
教職員数	12
学生数	13

教育方針	15
学部紹介	17
大学院紹介	19
教職課程・学芸員課程	21
進路・就職支援体制	22
就職実績	25
国際交流	27
産官学連携	29
学術研究	31
教育活動	39

学費・奨学金	45
クラブ活動	48
キャンパスと設備	49
附属図書館	54
愛知県立愛知総合工科高等学校 専攻科	55
附属高等学校	56
校友会	57
交通案内	58

開学100周年事業

REALIZE

実現する、次の100年へ。

世界はいつも、答えを求めている。
社会を発展させるアイデアを。社会課題の解決策を。
手を挙げよう。学んだ先に、いつか必ず。

2026年、名城大学は、開学100年を迎えます。

MEIJOth
MEIJO UNIVERSITY 1926 - 2026

中部から世界へ 創造型実学の **名城大学**



■ 開学100周年事業の意義

100年に及ぶ歴史を礎に、新たな100年の指針を描く、未来志向の100周年事業

本学は、1926年に名古屋高等理工科講習所として開設し、1949年に名城大学として開学しています。1967年、「立学の精神」として本学設置の意義と目的を明確にし、「穏健中正で実行力に富み、国家、社会の信頼に値する人材」を育成すべく、教育、研究、社会貢献に邁進してまいりました。

そして2026年、開学100周年。時代は、大きな変化の渦中にあります。様々な課題が、今後も社会に現れることでしょう。今こそ、積み重ねた歴史を振り返り、原点を見つめ、新たなステージへの一步を。主体的に学び、多様性を知り、専門を深く極め、まだ見ぬ解決策にたどりつく。創造型実学という将来ビジョンを掲げ、先の読めない時代に毅然と顔を上げて、未踏の地を切り拓く人物を育成する、新たな100年へ。

100周年を、学内の意思と行動を束ね、内外に名城大学の存在を示す大きな機会とします。

■ 開学100周年事業の目的

- 1 名城の原点を見つめ直し、100年の歴史の中で積み重ねられた事実を再発見・再整理する機会とする。
- 2 名城大学と附属高等学校とを支えてきた関係者(教育者、卒業生、職員、地域・団体・企業などの支援者)への感謝を伝える機会とする。
- 3 次の100年のスタートとし、学内の施設や教育環境を整え、新しい教育・研究活動を創出する機会とする。
- 4 将来ビジョンのもと、名城大学の新しいブランドを構築する機会とする。
- 5 上記を整理し、発信することで、学内の意思と行動の統一、学外へは名城大学と附属高等学校を改めてPRする機会とする。

■ <次の100年のために>将来ビジョン

中部から世界へ創造型実学の名城大学

世界を変える人は「引力」を持っている。

様々な課題に直面したとき、物事を中心に立ち、解決するための知識、技術、アイデアを集め、具体化する力。それを身につける学びが、名城大学が掲げる「創造型実学」。



開学100周年記念募金

■ 開学100周年記念募金

次の100年に向け「中部から世界へ 創造型実学の名城大学」という将来ビジョンを策定。
先見性、多様性、専門性を身につけ、実行力、実現力を備えた世界で活躍できる人材を育成します。



名城大学開学100周年記念アリーナ完成イメージ

■ テーマ



■ 寄付金の使途

- 名城大学開学100周年記念アリーナ新築
- 開学100周年記念施設
- 「中部から世界へ」国際化推進
- 「創造型実学」奨学金
- 社会連携活動、研究推進 他

■ 2024年3月スタート! 名城大学開学100周年記念アリーナ椅子銘板募金



特別企画「名城大学開学100周年記念アリーナ椅子銘板募金」を開始いたしました。当企画へお申し込みいただくと、天白キャンパスに新設されるアリーナの観客席(背板)に寄付者のご芳名を刻ませていただきます。募集座席数は先着482席で、法人・団体・有志の会・個人が応募いただけます。いただいた寄付金は開学100周年事業のために活用させていただきます。



アリーナ内観客席イメージ



銘板プレート イメージ
※仕様について変更が生じる場合があります。

■ 返礼品付寄付サイト「名城ギフト」



2023年4月、「名城ギフト」を開始いたしました。
「名城ギフト」からご寄付いただくと、バリエーションに富んだ返礼品からお好きな品をお選びいただけます。
いただいた寄付金は開学100周年事業のために活用させていただきます。



返礼品イメージ

アントレプレナーシップ教育



■ 社会の課題に立ち向かい、新たな価値を創り出すアントレプレナーシップ教育

地球規模で起こるエネルギー・資源・食料などの制約や環境問題、国内の少子高齢化や人口減少など、これまでの枠組みや従来の延長では対応できない課題が顕在化しています。アントレプレナーシップとは、自ら課題を発見し、周囲のリソースや環境の制限を越えて行動を起こし、新たな価値を生み出していく精神。本学は、この新たな価値創造の担い手としてアントレプレナーシップを備えた人材育成を推進します。



■ アントレプレナーシップ正課授業・正課外プログラム

正課授業	情報工学部 1年次 「創造的思考法」 イノベーションを創出するプロセスの理解と体験	農学部 2年次 「農学特別講義2」 [食]をテーマとした製品・サービス開発論: デザイン思考、マーケティング、事業創造のノウハウを学ぶ	
	経営・経済学部2年次 「起業講座」 経営者から実践的な組織運営の理念や方法を学ぶ		
	動機形成 意識醸成	コンピテンシー の形成	共創・実践
正課外プログラム	AI・IoT人材育成 (入門編) ものづくりセミナー 起業家育成プログラムEXPLORER (BASIC) 起業家等トークイベント 動機形成セミナー	起業家育成プログラム EXPLORER (ADVANCED) 事業づくり仮説検証プログラム DONUTS ～社会課題に挑む学生起業家向けプログラム AI・IoT人材育成 (実践編)	HackU名城大学 リーダーシップ開発プログラム iMPACT プロスポーツビジネス研究会 産学連携プログラム

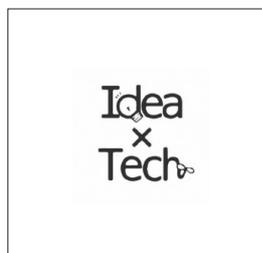
■ コミュニティづくり



起業家精神を育むコミュニティ

MEIJO STARTUP CLUB

起業に関心のある学生や起業を目指す学生が集う団体です。学外のビジネスプランコンテスト等への参加やメンバー同士での学び合いを通じて、起業に必要なスキルやマインドを身につけます。



アイデアと技術力を繋げる

Idea x Tech

アイデアを持つ学生と技術力を上げたい学生を繋げ、コミュニティで作成したアイデアをアイデアソン・ビジネスコンテストに出し入賞を目指します。Web開発・AI開発・ゲーム開発を通じ、開発の楽しさを共有するコミュニティです。

データサイエンス教育

MEIJOth
MEIJO UNIVERSITY 1926...2026

見つける。
ひもとく。
世界を変える。



本学は、2026年の開学100周年を見据え、「中部から世界へ 創造型実学の名城大学」という将来ビジョンを掲げています。創造型実学の実践には数理・データサイエンス・AIの素養が欠かせません。本学は、数理・データサイエンス・AI教育のさらなる充実を目指して新しい取り組みに挑戦していきます。

■ 2024 年度開講：社会人も学べる「データサイエンス・AI 入門」

文部科学省認定プログラム「データサイエンス・AI入門」を、社会人や一般の方々も科目等履修生として受講できるよう開講いたします。この科目はフルオンデマンドで、24時間いつでも受講可能です。単位を修得した履修生には、単位認定証として、デジタル証明書「オープンバッジ」を発行します。

本プログラムは、2023(令和5)年度 文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)」に認定されました。



■ 都市情報学部と情報工学部対象「数理・データサイエンス・AI」の応用基礎レベルプログラム

専門分野で活用できる応用基礎力を修得する目的で、都市情報学部と情報工学部で「数理・データサイエンス・AI」応用基礎レベルのプログラムをスタートします。このプログラムは、数理・データサイエンス・AIを活用して課題を解決するための実践的な能力を身に着けるために必要な知識や技術を体系的に学びます。

■ 2023年4月データサイエンス教育のさらなる充実へ「データサイエンス・AI 副専攻」開始

この副専攻は、多くの産業分野で重要な役割を果たしているデータサイエンスの知識が学べるようにデザインされたプログラムで、全学部の学生が履修できます。所属する主専攻で学んだ専門知識とAI活用能力を使って、変化し続ける社会の中で、さまざまな困難な課題を解決し、より良い未来を作り出すことのできる人材の育成を目指します。

【例】法学部に所属し、「データサイエンス・AI (A)」の副専攻プログラムを履修する場合



副専攻プログラム名称	提供学部	対象となる学生
データサイエンス・AI (A)	都市情報学部	法学部生、経営学部生、経済学部生、人間学部生、外国語学部生
データサイエンス・AI (B)	情報工学部	理工学部生、農学部生、薬学部生

本学のビジョン

本法人は、1926年開設の名古屋高等理工科講習所を源流とし、歴史と伝統に輝く中部地区屈指の教育機関として、これまでに21万人を超える卒業生を輩出してまいりました。

また本法人の立学の精神である「穏健中正で実行力に富み、国家、社会の信頼に値する人材を育成する」のもと、「実学」を重視した教育・研究を展開しています。その結果、本学の卒業生について産業界の皆様から、「実務処理能力に秀でており、困難に直面しても屈しない」と高い評価をいただいております。

今日の社会は、グローバル化、少子高齢化、ロボットやAI（人工知能）の台頭、産業・就業構造の変容、更には新型コロナウイルス感染症の世界的流行により、人々の暮らしや働き

方に大きな変化が生じ、これまでの常識が通用しない、将来予測が困難な時代を迎えています。このような時代には、どのような困難に直面してもくじけず、「先見性、多様性、専門性を身に着けた実行力・実現力」のある人材が必要不可欠であります。

名城大学および名城大学附属高等学校は、社会からの期待に応え、新たな時代を担う人材を育成するために、創設以来の歴史と伝統を受け継ぎ、さらなる成長を目指してまいります。今後とも皆さまのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



学校法人名城大学 理事長 立花 貞司

大阪府出身。京都大学法学部卒業。トヨタ自動車工業株式会社（現 トヨタ自動車株式会社）入社、取締役などを歴任後、トヨタホーム株式会社取締役社長に就任（兼任）。その後、トヨタ自動車株式会社専務取締役、トヨタホーム株式会社取締役会長、ミサワホーム株式会社取締役会長、名古屋商工会議所副会頭、愛知県公安委員会委員、愛知県私立大学協会会長などを歴任。名古屋市長経営アドバイザーを現任。2017年7月から本学理事を務め、18年7月に理事長就任。13年国土交通大臣表彰、15年藍綬褒章。

■ 学校法人名城大学の基本戦略

MS-26

本学では、2015年度から、開学100周年にあたる2026年为目标年とする新たな戦略プラン「Meijo Strategy-2026」【通称：MS-26】を推進しています。

2026年は、本法人の礎となる「名古屋高等理工科講習所」の開設から100年という節目の年になります。

MS-26に掲げるビジョンは、本学の志であり、学生・生徒が卒業・修了後に本学を卒業・修了して良かったと思える大学・高等学校づくりをめざします。

■ 共有する価値観 (VALUE)

生涯学びを楽しむ Enjoy Learning for Life

「生涯学びを楽しむ」という言葉は、すべての学生・生徒が本学の教育によって「学ぶ楽しさ」に気づき、卒業・修了後も、それぞれの多彩なコミュニティの中で、さまざまな人や文化と出会い、人生を楽しみながら生涯学び続けてほしいという願いを込めました。また、教職員に対しても、「学ぶ楽しさ」「教える楽しさ」「仕事の楽しさ」を実感し、有意義な日々を送ってほしいというメッセージが込められています。

昨今、大学を取り巻く環境は、情報通信をはじめとした先端技術の高度化、グローバル化や国際関係の変容、少子高齢化など、様々な要因が複雑に絡み合い、これまで経験したことがないほど不透明さを増しています。加えて2020年から世界中で猛威を振るった新型コロナウイルス感染症拡大を契機に、教育の在り方に関する社会的関心は一層高まり、教育機関には、学生・生徒・社会に対してより魅力ある教育研究機会を提供することが求められています。

こうした状況下において本学では、開学100周年にあたる2026年を目標年とする戦略プランであるMS-26 (Meijo Strategy-2026)を2015年度から推進しています。このプランでは、本学に関わる全ての人達と「生涯学びを楽しむ」という価値観を共有するものとなっており、学生が在学中に「学び」を通じて満足感を体感できる多種多様な

機会を創出し、学生の「学び」に対する主体性を引き出す取り組みを推し進めています。

私は、名城大学を、名実ともに中部地区で最も活力ある大学にすることを目指しています。具体的には、学生諸君が卒業後に幅広い分野で中心的な役割を担う人材として活躍し、社会から高い評価を受け充実した人生を送ることができるよう、専門知識や教養、国際性を身につける学び、友人との出会いの機会に溢れた大学に進化させることを考えています。そのために、教職員の力を結集し、名城大学をワンランク上の大学に押し上げるべく邁進してまいります。

皆様におかれましては、本学の教育・研究活動にご理解とご協力賜りますよう、よろしくお願いいたします。



名城大学 学長 小原 章裕

名城大学農学部農芸化学科卒業後、神戸大学大学院に進学。農学研究科農芸化学専攻修士課程、自然科学研究科資源生物学専攻博士課程を修了し、学術博士の学位を取得。日本栄養・食糧学会中部支部などの国民栄養の向上をめざす学会にも幅広く参与。1998年から本学農学部で教鞭をとり、2019年に学長就任。

OUR VISION (2026年までに達成したいあるべき姿)

名城大学

多様な経験を通して、学生が大きく羽ばたく「学びのコミュニティ」を創り広げる

名城大学附属高等学校

「多様な経験」を創り出す「挑戦する学校」

OUR MISSION (私たちが果たすべき使命)

名城大学

教育ミッション：主体的に学び続ける「実行力ある教養人」を育てる
研究ミッション：「学問の探究と理論の応用」を通して、成果を教育と社会に還元する
社会貢献ミッション：社会との「人的交流」を通して、地域の活性化に貢献する

名城大学附属高等学校

教育ミッション：「主体的に学ぶ力」と「突破力」を備えた生徒を育成する
社会貢献ミッション：「人的交流」や「学習活動」を通して、社会的責任を果たす

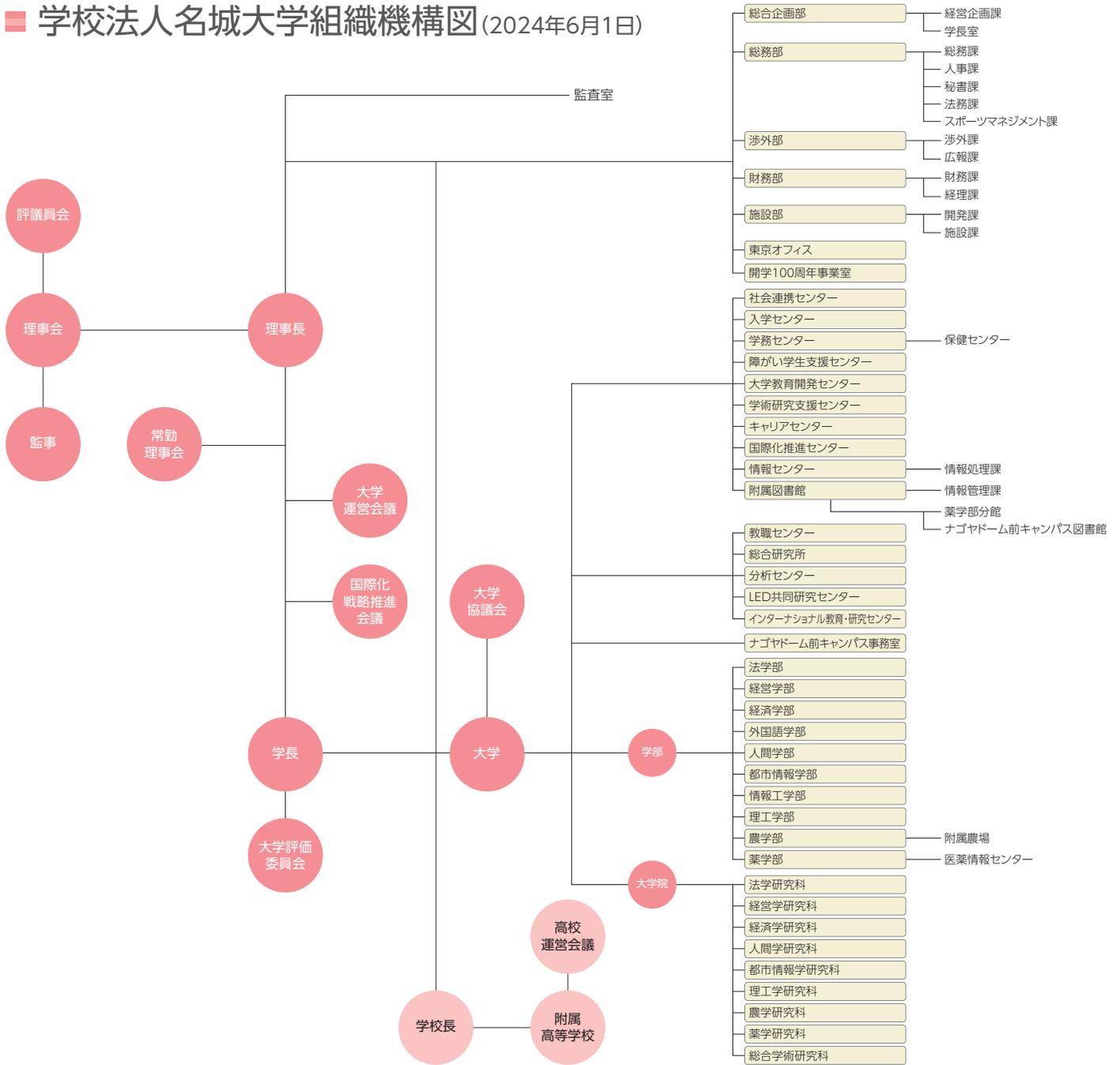
大学のあゆみ

沿革

1926	大正 15年 5月	田中壽一氏により名古屋高等理工科講習所開設	2002	14年 4月	大学院経済学研究科経済学専攻博士後期課程設置 大学院理工学研究科数学専攻博士前期課程・情報科学専攻修士課程・ 電気電子工学専攻博士前期課程・材料機能工学専攻修士課程・機械システム 工学専攻修士課程・交通科学専攻修士課程・建設システム工学専攻修士課程・ 環境創造学専攻修士課程・建築学専攻修士課程設置 大学院総合学術研究科総合学術専攻博士前期課程・博士後期課程設置
1928	昭和 3年 4月	名古屋高等理工科学校開校	2003	15年 4月	人間学部人間学科設置 大学院経営学研究科経営学専攻博士後期課程設置 大学院薬学研究科臨床薬学専攻修士課程・生命薬学専攻修士課程設置
1946	21年 10月	財団法人名古屋高等理工科学園設立		5月	薬学部薬学科・製薬学科廃止
1947	22年 9月	名古屋専門学校設置	2004	16年 4月	理工学部情報工学科設置 大学院法務研究科法務専攻専門職学位課程設置 大学院理工学研究科電気電子工学専攻博士後期課程を電気電子・情報・材 料工学専攻博士後期課程に、同建設工学専攻博士課程を社会環境デザイン 工学専攻博士課程に名称変更
1949	24年 4月	名城大学開学 商学部第一部・第二部設置		7月	大学院薬学研究科修士課程医療薬学専攻・博士前期課程薬学専攻廃止
1950	25年 4月	法商学部第一部法学科・商学科・同第二部法学科・商学科増設 理工学部第一部数学科・電気工学科・機械工学科・建設工学科・同第二部数学科・ 電気工学科・機械工学科・建設工学科増設 農学部農学科増設 商学部、商学部第二部廃止 短期大学部併設、商経科第一部・第二部設置	2005	17年 4月	農学部生物環境科学科設置 5月 大学院理工学研究科修士課程数学専攻・電気電子工学専攻・機械工学専攻・ 土木工学専攻・建築学専攻を廃止 7月 短期大学部廃止
1951	26年 3月	組織変更により学校法人名城大学設立	2006	18年 4月	薬学部薬学科(6年制)設置 大学院大学・学校づくり研究科大学・学校づくり専攻修士課程設置
1954	29年 4月	薬学部薬学科増設 短期大学部電気科第一部・機械科第一部増設 大学院商学研究科商学専攻修士課程設置		5月	商学部第二部商学科廃止 理工学部一部数学科・電気電子工学科・機械工学科・交通機械学科・ 土木工学科・建築学科廃止 農学部農学科・農芸化学科廃止
1965	40年 4月	理工学部第一部交通機械学科増設 薬学部製薬学科増設 12月 本部および法商学部第一部、大学院商学研究科、短期大学部商経科第一部が 駒方校地から天白校地に移転	2007	19年 5月	法学部第二部法学科廃止 理工学部第二部数学科・電気電子工学科・機械工学科・交通機械学科・ 土木工学科・建築学科廃止 12月 理工学部数学科・電気電子工学科・機械工学科・交通機械学科・ 土木工学科・建築学科廃止 大学院商学研究科商学専攻修士課程・博士後期課程廃止
1966	41年 4月	大学院薬学研究科薬学専攻修士課程増設	2008	20年 4月	大学院理工学研究科情報科学専攻修士課程を情報工学専攻修士課程に名称変更 商学部一部商学科・経済学科廃止 6月 法学部一部法学科廃止
1967	42年 4月	法学部一部法学科、同二部法学科設置 商学部一部商学科、同二部商学科設置 大学院法学研究科法律学専攻修士課程増設 理工学部一部電気工学科・機械工学科・交通機械学科が中村校地から 天白校地に移転	2011	23年 4月	大学院人間研究科人間学専攻修士課程設置 理工学部交通科学科を交通機械工学科に名称変更 LED共同研究センター開設 5月 理工学部情報科学科廃止 大学院薬学研究科臨床薬学専攻修士課程・生命薬学専攻修士課程廃止
1968	43年 4月	理工学部一部数学科・建設工学科が中村校地から天白校地に移転 12月 農学部が鷹来校地から天白校地に移転	2012	24年 4月	大学院薬学研究科薬学専攻博士課程(4年制)設置 薬学部医療薬学科・薬学科(4年制)廃止
1969	44年 3月	短期大学部電気科第一部・機械科第一部廃止 4月 大学院法学研究科法律学専攻博士後期課程増設	2013	25年 4月	理工学部応用化学科・メカトロニクス工学科設置 理工学部機械システム工学科を機械工学科に、同建設システム工学科を社 会基盤デザイン工学科に名称変更
1971	46年 4月	大学院薬学研究科薬学専攻博士後期課程増設	2015	27年 1月	大学院薬学研究科薬学専攻博士後期課程廃止 4月 大学院理工学研究科交通科学専攻修士課程を交通機械工学専攻修士課程に名称変更
1972	47年 4月	農学部農芸化学科増設	2016	28年 4月	外国語学部国際英語学科設置
1973	48年 4月	理工学部一部土木工学科・建築学科、同二部交通機械学科・土木工学科・ 建築学科増設 理工学部一部建設工学科、同第二部建設工学科廃止 大学院農学研究科農学専攻修士課程増設	2017	29年 4月	大学院理工学研究科応用化学専攻修士課程・メカトロニクス工学専攻修士課程設置 大学院理工学研究科機械システム工学専攻修士課程を機械工学専攻修士 課程に、同建設システム工学専攻修士課程を社会基盤デザイン工学専攻修 士課程に名称変更 人間学部人間学科、大学院人間研究科人間学専攻が天白キャンパスから ナゴヤドーム前キャンパスに移転 都市情報学部都市情報学科、大学院都市情報学研究科都市情報学専攻が 可児キャンパスからナゴヤドーム前キャンパスに移転
1975	50年 4月	薬学専攻科薬学専攻設置	2019	31年 4月	大学院理工学研究科電気電子・情報・材料工学専攻博士後期課程を電気・ 情報・材料・物質工学専攻博士後期課程に名称変更
1976	51年 4月	商学部一部経済学科増設 大学院農学研究科農学専攻博士後期課程増設	2020	令和 2年 4月	理工学部環境創造工学科設置 7月 大学院法務研究科廃止
1977	52年 3月	短期大学部商経科第二部廃止 4月 大学院工学研究科電気工学専攻・土木工学専攻・建築学専攻修士課程増設	2022	令和 4年 4月	情報工学部情報工学科設置
1986	61年 4月	理工学部一部、二部電気工学科を電気電子工学科に名称変更 大学院工学研究科電気工学専攻を電気電子工学専攻に名称変更	2023	令和 5年 7月	法学部応用実務法学科廃止
1990	平成 2年 4月	大学院工学研究科機械工学専攻修士課程増設	2024	令和 6年 4月	理工学研究科環境創造工学専攻設置
1992	4年 4月	大学院工学研究科機械工学専攻博士後期課程・建設工学専攻博士課程増設			
1993	5年 4月	大学院工学研究科電気電子工学専攻博士後期課程・数学専攻修士課程設置 大学院工学研究科を理工学研究科に名称変更			
1995	7年 4月	都市情報学部都市情報学科設置 大学院商学研究科商学専攻博士後期課程設置 大学院理工学研究科数学専攻博士後期課程設置			
1996	8年 4月	薬学部医療薬学科・薬学科設置 大学院薬学研究科医療薬学専攻修士課程・薬学専攻博士前期課程設置			
1999	11年 4月	法学部法学科・応用実務法学科設置 農学部生物資源学科・応用生物化学科設置 大学院都市情報学研究科都市情報学専攻修士課程設置 商学部一部を商学部に名称変更 理工学部一部を理工学部に名称変更			
2000	12年 4月	経営学部経営学科・国際経営学科設置 経済学部経済学科・産業社会学科設置 理工学部数学科・情報科学科・電気電子工学科・材料機能工学科・機械システム工学科・ 交通科学科・建設システム工学科・環境創造学科・建築学科設置 短期大学部情報国際科設置 大学院経済学研究科経済学専攻修士課程設置			
2001	13年 4月	大学院経営学研究科経営学専攻修士課程設置 大学院都市情報学研究科都市情報学専攻博士後期課程設置			

組織機構図

■ 学校法人名城大学組織機構図 (2024年6月1日)



大学のあゆみ / 組織機構図

▶ 歴代理事長

1949年 4月 1日	田中 壽一
1954年 11月15日	代理 今岡 正益
1955年 9月28日	伊藤 萬太郎
1958年 8月14日	田中 壽一
1959年 11月 5日	大野 富之助
1960年 2月14日	大橋 光雄
1960年 5月11日	田中 壽一
1963年 8月23日	渡邊 捨雄
1972年 1月29日	事務取扱 松本 忠太郎
1973年 11月 1日	中村 新一
1975年 12月22日	松尾 信資
1984年 1月29日	大隈 孝一
1992年 1月29日	八代 健三郎
1995年 10月 1日	佐伯 進
2000年 1月29日	岩崎 正視
2005年 12月16日	大橋 正昭
2012年 1月30日	小笠原 日出男
2018年 7月12日	立花 貞司

▶ 歴代学長

1949年 4月 1日	田中 壽一
1954年 11月15日	事務取扱 野村 均一
1955年 9月30日	大甲 兎代夫
1958年 10月31日	日比野 信一
1963年 8月23日	三雲 次郎
1971年 4月 1日	小澤 久之丞
1972年 4月 1日	川上 幸治郎
1976年 4月 1日	濱口 秀夫
1979年 4月 1日	長戸 一雄
1982年 4月 1日	矢野 勝久
1985年 4月 1日	大塚 昭信
1988年 4月 1日	藤吉 正之進
1991年 4月 1日	丸勢 進
1997年 4月 1日	網中 政機
2003年 4月 1日	兼松 顕
2007年 4月 1日	下山 宏
2011年 4月 1日	中根 敏晴
2015年 4月 1日	吉久 光一
2019年 4月 1日	小原 章裕

▶ 法人

名誉顧問

大橋 正昭
小笠原 日出男
長谷川 士郎
一柳 鍾

顧問

▶ 役員

理事長
学長
常務理事・事務局長
理事(常勤)
理事(常勤)
理事(常勤)
副学長・理事(常勤)
副学長・理事(常勤)
附属高校学長・理事(常勤)

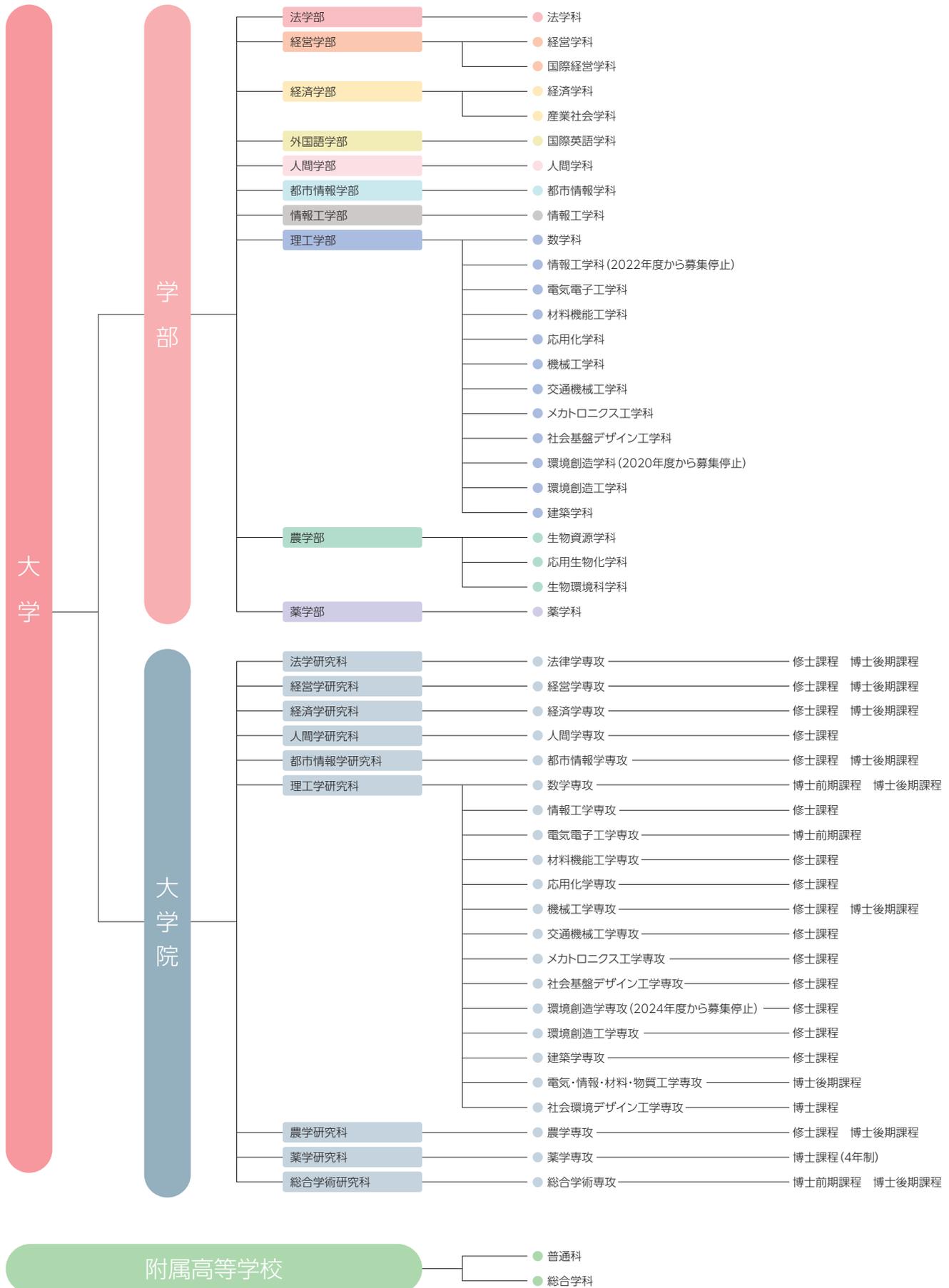
立花 貞司
小原 章裕
武藤 正美
大脇 肇
矢野 幾也
三澤 太輔
野口 光宣
大野 栄治
伊藤 憲人

▶ 役員(2024年6月1日現在)

理事	尾堂 真一 日本特殊陶業株式会社代表取締役会長
理事	神田 真秋 愛知芸術文化センター総長・前愛知県知事
理事	小出 宣昭 株式会社中日新聞社顧問・主筆
理事	河村 幸俊 河村電器産業株式会社代表取締役会長
理事	小笠原 剛 株式会社三菱UFJ銀行顧問
理事	中村 友美 元愛知県議会議員
理事	神谷 優子 弁護士
理事	丹下 富博 株式会社ファインメディカル代表取締役社長
監事(常勤)	余語 弘
監事	山本 光子 パーソルテンプスタッフ株式会社相談役
監事	湯本 秀之 公認会計士

組織機構図

■ 教育組織図 (2024年4月1日現在)



教職員数

■ 教職員数(2024年6月1日現在)

教育職員494人 事務職員等286人 附属高等学校103人 合計883人

■ 教育職員

※()内は外国人教員の内数 (人)

	教授		准教授		助教		講師(特任講師含む)		助手(特任助手含む)		計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
学長	1										1
法学部	23	3	9	6(1)	1				1	1	44(1)
経営学部	17	2	6	2	1(1)						28(1)
経済学部	14(1)	4	6	4	1				1		30(1)
外国語学部	9(3)	2	5(2)	2	1		5(5)	2			26(10)
人間学部	10	5	3(1)	2	1(1)	1					22(2)
都市情報学部	20(1)	2		2	1	1			1		27(1)
情報工学部	11	1	6		4						22
理工学部	87(2)	4	49	6	6	3	3		2		160(2)
農学部	21		15		6	2			5	1	50
薬学部	26	2	24(1)	4	7	2			5	2	72(1)
理工学研究科	3										3
教職センター	5	1	1								7
国際化推進センター								1			1
名城大学	1										1
合計	248(7)	26	124(4)	28(1)	29(2)	9	8	3(5)	15	4	494(19)

■ 事務職員等

(人)

	男	女	計
監査室	2		2
法人及び大学	4		4
総合企画部	8	5	13
総務部	15	10	25
渉外部	7	4	11
財務部	5	7	12
施設部	9	3	12
東京オフィス	2		2
開学100周年事業室	1	1	2
社会連携センター	2	2	4
入学センター	12	6	18
学務センター	15	21	36
障がい学生支援センター	1	2	3
教職センター	2	2	4
大学教育開発センター	2	2	4
学術研究支援センター	10	7	17
キャリアセンター	10	7	17
国際化推進センター	5	4	9
情報センター	6		6
附属図書館	4	5	9
学部事務室等	38	35	73
ドーム前キャンパス事務室	3		3
合計	163	123	286

■ 附属高等学校

(人)

	男	女	計
教諭等	70	26	96
事務職員	2	5	7
合計	72	31	103

学生数

■ 在籍者数一覽(2024年5月1日現在)

学部

(人)

学部	学科	1年次			2年次			3年次			4年次			5年次			6年次			合計			
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
法学部	法学科	263	155	418	322	140	462	274	133	407	308	140	448							1,167	568	1,735	
	法学部 計	263	155	418	322	140	462	274	133	407	308	140	448							1,167	568	1,735	
経営学部	経営学科	101	109	210	122	90	212	141	117	258	152	90	242							516	406	922	
	国際経営学科	46	56	102	43	54	97	40	53	93	55	58	113							184	221	405	
	経営学部 計	147	165	312	165	144	309	181	170	351	207	148	355							700	627	1,327	
経済学部	経済学科	162	60	222	182	50	232	165	62	227	192	47	239							701	219	920	
	産業社会学科	74	36	110	69	42	111	61	40	101	83	37	120							287	155	442	
	経済学部 計	236	96	332	251	92	343	226	102	328	275	84	359							988	374	1,362	
理工学部	数学科	68	24	92	79	16	95	55	16	71	81	15	96							283	71	354	
	情報工学科				2		2	8		8	152	21	173							162	21	183	
	電気電子工学科	167	9	176	163	8	171	137	6	143	158	5	163							625	28	653	
	材料機能工学科	68	15	83	81	13	94	66	12	78	75	12	87							290	52	342	
	応用化学科	49	28	77	52	19	71	42	34	76	46	21	67							189	102	291	
	機械工学科	116	6	122	147	12	159	138	11	149	121	4	125							522	33	555	
	交通機械工学科	125	5	130	144	11	155	132	4	136	119	10	129							520	30	550	
	メカトロニクス工学科	84	7	91	80	10	90	70	4	74	82	7	89							316	28	344	
	社会基盤デザイン工学科	85	19	104	74	20	94	84	11	95	74	17	91							317	67	384	
	環境創造工学科	54	26	80	69	15	84	51	17	68	65	15	80							239	73	312	
	環境創造学科										2		2								2		2
	建築学科	94	56	150	115	42	157	105	44	149	106	56	162							420	198	618	
	理工学部 計	910	195	1,105	1,006	166	1,172	888	159	1,047	1,081	183	1,264							3,885	703	4,588	
農学部	生物資源学科	57	52	109	56	43	99	64	70	134	62	52	114							239	217	456	
	応用生物化学科	33	80	113	24	74	98	37	74	111	38	76	114							132	304	436	
	生物環境科学科	58	56	114	85	65	150	70	58	128	71	50	121							284	229	513	
	農学部 計	148	188	336	165	182	347	171	202	373	171	178	349							655	750	1,405	
薬学部(6年)	薬学科	86	209	295	111	226	337	91	193	284	88	172	260	80	172	252	87	167	254	543	1,139	1,682	
	薬学部(6年) 計	86	209	295	111	226	337	91	193	284	88	172	260	80	172	252	87	167	254	543	1,139	1,682	
都市情報学部	都市情報学科	175	68	243	214	59	273	161	69	230	168	58	226							718	254	972	
	都市情報学部 計	175	68	243	214	59	273	161	69	230	168	58	226							718	254	972	
人間学部	人間学科	58	174	232	74	187	261	58	178	236	63	179	242							253	718	971	
	人間学部 計	58	174	232	74	187	261	58	178	236	63	179	242							253	718	971	
外国語学部	国際英語学科	45	99	144	47	95	142	44	95	139	33	108	141							169	397	566	
	外国語学部 計	45	99	144	47	95	142	44	95	139	33	108	141							169	397	566	
情報工学部	情報工学科	154	31	185	190	28	218	130	16	146										474	75	549	
	情報工学部 計	154	31	185	190	28	218	130	16	146										474	75	549	
学部 合計		2,222	1,380	3,602	2,545	1,319	3,864	2,224	1,317	3,541	2,394	1,250	3,644	80	172	252	87	167	254	9,552	5,605	15,157	

研究生

(人)

区分	学部・研究科	男	女	計
学部	法学部			
	経営学部			
	経済学部			
	理工学部			
	農学部			
	薬学部			
	都市情報学部			
	人間学部			
	外国語学部			
	情報工学部			
小計	0	0	0	
大学院	法学研究科			
	経営学研究科			
	経済学研究科			
	理工学研究科	1		1
	農学研究科			
	薬学研究科			
	都市情報学研究科			
	人間学研究科			
	総合学術研究科			
	小計	1	0	1
合計	1	0	1	

科目等履修生

(人)

区分	学部・研究科	通常の科目等履修生			交換留学生			科目等履修生合計		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計
学部	法学部				1	2	3	1	2	3
	経営学部				4	9	13	4	9	13
	経済学部									
	理工学部	2		2				2		2
	農学部	1		1				1		1
	薬学部									
	都市情報学部	10	2	12				10	2	12
	人間学部				1	5	6	1	5	6
	外国語学部				6	8	14	6	8	14
	情報工学部									
教職課程										
学芸員課程										
小計	13	2	15	12	24	36	25	26	51	
大学院	法学研究科	4	1	5				4	1	5
	経営学研究科									
	経済学研究科									
	理工学研究科									
	農学研究科									
	薬学研究科									
	都市情報学研究科									
	人間学研究科									
	総合学術研究科									
	小計	4	1	5	0	0	0	4	1	5
合計	17	3	20	12	24	36	29	27	56	

研究科

(人)

研究科	専攻・課程	1年次			2年次			3年次			4年次			合計			
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
法学研究科	法律学専攻	修士課程	3	1	4	3	5	8						6	6	12	
経営学研究科	経営学専攻	修士課程	3	2	5	3	3	6						6	5	11	
経済学研究科	経済学専攻	修士課程	1		1									1		1	
理工学研究科	数学専攻	博士前期課程	3		3	5		5						8		8	
	情報工学専攻	修士課程	40	2	42	18	4	22						58	6	64	
	電気電子工学専攻	博士前期課程	45	1	46	41	2	43						86	3	89	
	材料機能工学専攻	修士課程	45	3	48	22	2	24						67	5	72	
	応用化学専攻	修士課程	18	7	25	11	4	15						29	11	40	
	機械工学専攻	修士課程	31		31	24	2	26						55	2	57	
	交通機械工学専攻	修士課程	19	2	21	20	2	22						39	4	43	
	メカトロニクス工学専攻	修士課程	29	5	34	31	2	33						60	7	67	
	社会基盤デザイン工学専攻	修士課程	6	1	7	9		9						15	1	16	
	環境創造工学専攻	修士課程	1		1									1		1	
	環境創造学専攻	修士課程				3	1	4						3	1	4	
	建築学専攻	修士課程	14	7	21	10	2	12						24	9	33	
	理工学研究科計			251	28	279	194	21	215						445	49	494
農学研究科	農学専攻	修士課程	34	19	53	36	14	50						70	33	103	
都市情報学研究科	都市情報学専攻	修士課程	4		4	2		2						6		6	
総合学術研究科	総合学術専攻	博士前期課程	2		2		1	1						2	1	3	
人間学研究科	人間学専攻	修士課程		2	2	1		1						1	2	3	
修士課程・博士前期課程 合計			298	52	350	239	44	283						537	96	633	
法学研究科	法律学専攻	博士後期課程				1		1	1	2	3			2	2	4	
経営学研究科	経営学専攻	博士後期課程															
経済学研究科	経済学専攻	博士後期課程							1		1			1		1	
理工学研究科	電気・情報・材料・物質工学専攻	博士後期課程	2		2				1		1			3		3	
	社会環境デザイン工学専攻	博士課程							5	1	6			5	1	6	
	数学専攻	博士後期課程				1		1						1		1	
	機械工学専攻	博士後期課程	2		2	3		3	5		5			10		10	
理工学研究科計			4		4	4		4	11	1	12			19	1	20	
農学研究科	農学専攻	博士後期課程		1	1	4		4	3		3			7	1	8	
都市情報学研究科	都市情報学専攻	博士後期課程				2		2	1		1			3		3	
総合学術研究科	総合学術専攻	博士後期課程		1	1	1		1						1	1	2	
薬学研究科(4年)	薬学専攻	博士課程	3	2	5	2	1	3	4		4	1		1	10	3	13
博士課程・博士後期課程 合計			7	4	11	14	1	15	21	3	24	1		1	43	8	51
大学院 合計			305	56	361	253	45	298	21	3	24	1		1	580	104	684

学生数

大学院研修生

(人)

区分	研究科	男	女	計
大学院	法務研究科	1	4	5
合計		1	4	5

特別聴講生

(人)

区分	研究科	男	女	計
大学院	法学研究科			
	経営学研究科			
	薬学研究科			
合計		0	0	0

在籍者数集計

正規生 (人)

区分	男	女	計
学部	9,552	5,605	15,157
研究科	580	104	684
合計	10,132	5,709	15,841

社会人特別履修生

(人)

区分	研究科	男	女	計
大学院	薬学研究科	6	1	7
合計		6	1	7

非正規生

(人)

区分	男	女	計
研究生	1		1
科目等履修生	29	27	56
特別聴講生			
単位互換履修生	2		2
大学院研修生	1	4	5
社会人特別履修生	6	1	7
特別研究生			
合計	39	32	71

特別研究生

(人)

区分	研究科	男	女	計
大学院	薬学研究科			
合計		0	0	0

単位互換履修生

(人)

区分	研究科	男	女	計
学部	法学部			
	経営学部			
	経済学部			
	理工学部			
	農学部			
	薬学部			
	都市情報学部			
	人間学部			
	外国語学部	2		2
	情報工学部			
合計	2	0	2	

■ 名城大学の3つのポリシー、アセスメント・ポリシー

卒業の認定に関する方針(学位授与方針) [ディプロマ・ポリシー]

名城大学は、「穏健中正で実行力に富み、国家、社会の信頼に値する人材を育成する」という立学の精神に基づき、次の資質・能力を身につけた学生に学位を授与します。

- 1 幅広い教養を身につけ、広い視野に立って物事の公正な判断をすることができる。
- 2 専門分野に熟達し、社会における諸問題の解決のためにその知識・能力を活用できる。
- 3 主体的に学び続け、学んだことを分かち合い、共に成長することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針 [カリキュラム・ポリシー]

名城大学は、各学科の教育目標を達成し、学位授与方針に示す資質・能力を身につけさせるため、次のような教育課程を編成し、実施します。

- 1 人文・社会・自然科学、語学、情報技術、体育等からなる教養教育課程を体系的に編成し、様々な価値観に触れ、物事を正しく理解し表現できるようにする。
- 2 専門教育課程を体系的に編成し、講義・演習・実験・実習等を適切に組み合わせた授業を実施することにより、専門分野の知識・能力を確実に修得し、問題解決のために活かすことができるようにする。
- 3 初年次教育や演習・実験・実習科目を中心に能動的学修の要素を取り入れることにより、生涯にわたって主体的に学び、他者との相互理解や意見交換ができるようにする。
- 4 学修成果に対する厳格な成績評価と単位認定を行うとともに、学修行動調査やGPA、修得単位数に基づく個別指導を行うことにより、個々の達成度と将来計画に応じた学修を進めることができるようにする。

入学者の受入れに関する方針[アドミッション・ポリシー]

名城大学は、高等学校等における学習を通して、次のような資質・能力を身につけている人を受入れます。

- 1 大学での学修の基礎となる高等学校における各教科の基本事項を修得している。
- 2 入学を希望する学科での学修成果を社会で活かすという目的意識がある。
- 3 大学在学中だけでなく、卒業後も学び続ける意欲がある。

アセスメント・ポリシー

名城大学では、ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)に掲げる能力・資質等について、以下の評価方法によって学修到達目標の達成状況を確認し、教育の改善を図ります。

大学及び学科レベルでは、ディプロマ・ポリシーの科目群ごとのGPAの数値に加えて、単位取得状況、学修行動調査、卒業時調査及び学生アンケートにより評価する。

科目レベルでは、シラバスに記載してある方法で成績評価を行う。

評価は、テストやレポートなど科目の内容に合わせた方法で実施する。

卒業研究については、各学部が定める評価基準に基づいて卒業論文等の成果を評価し、大学及び学科レベルでは、その集計値で評価する。

学部紹介

より幸福な社会をつくるために
リーガルマインドを持つ人材を育成。

法学部

Faculty of Law

- 法学科

キャンパス/天白キャンパス 学部開設/1967年(昭和42年)
[1950年(昭和25年)法商学部として誕生、1967年(昭和42年)改組]

私たちは、さまざまな場面で常に判断を求められていますが、独りよがりには陥らないためには、正確で広範な知識が必要です。さらに、人と議論し価値観を共有していくスキルや、社会の変化を敏感にとらえる感性も欠かせません。法学部ではこれらを総合したリーガルマインドを身につけ、現代社会の複雑な課題を解決できる人材を育成します。公務員をめざす「行政専門コース」、法の専門職をめざす「法専門コース」、幅広い法分野の基礎を確実に修得する「法総合コース」の3コースを設置しています。さらに、法的素養に加えて語学力の向上をめざす「国際法文化プログラム(英語)」と「アジア法政プログラム(中国語)」を設置しています。

身近な生活と国際社会の接点で変動する、
さまざまな組織と人の未来を考える。

経営学部

Faculty of Business Management

- 経営学科 ● 国際経営学科

キャンパス/天白キャンパス 学部開設/2000年(平成12年)
[1949年(昭和24年)商学部として誕生、2000年(平成12年)改組]

経営学では、企業だけではなく自治体や学校、NPOなどさまざまな組織体が学びの対象となります。また、消費者や生活者である人間の心理や行動なども対象になります。同時に、ヨーロッパの財政危機やアジア諸国の急成長は、私たちが日頃接している地元の企業や商店などにどのような影響をおよぼしているかなど、新聞やテレビなどで話題になった身近な問題も取り上げます。このような学びを通じて、広汎な教養と実践的能力、さらに開拓者精神にあふれる創造的な知性と、豊かな人間性を備えた、これからの社会で活躍できる人材を養成します。

世界、日本、地域社会、そして自分…
経済を知ること、あらゆる未来が見えてくる。

経済学部

Faculty of Economics

- 経済学科 ● 産業社会学科

キャンパス/天白キャンパス 学部開設/2000年(平成12年)
[1949年(昭和24年)商学部として誕生、2000年(平成12年)改組]

「経済」は常に時代とともにあり、社会の動きすべてにかかわっています。いわば「経済」は社会の基盤ともいえます。国内外の経済が大きな転換期を迎えている今、経済学はさまざまな問題を解決していく使命を担っています。経済学部では、自ら体験し、実感し、考える豊富な機会を通じて、教科書の中の理論に留まることなく、世界、日本、地域社会の動きを読み解いていきます。経済という一つの窓を通じて社会を見つめ、多様化・複雑化する社会に柔軟に対応できる人材の育成をめざしています。

国境、分野を越[超]えた
共修と協働を実現する世界人材に。

外国語学部

Faculty of Foreign Studies

- 国際英語学科

キャンパス/ナゴヤドーム前キャンパス
学部開設/2016年(平成28年)

グローバル化が進展する社会では、ツールとしての語学力だけでなく、社会を構成する多様な価値観を理解し、国や分野の異なる人々と共に学びながら新たな関係を構築する力が求められます。本学科では、実践型英語カリキュラムと豊富な留学・国際研修、企業や海外大学とのコラボ授業、副専攻制度などを通じて、実践的な「英語力」、世界の人々と共に学び、多様な価値観を知る「国際理解」、実社会で専門の異なる人々とチームで活躍するための「協働力」などを養成。国境も分野も越[超]えて共修・協働し、新たな価値を創りだすGlobal Communicator【世界人材】を育成します。

国際社会で広く活躍できる
人間性豊かな実践的教養人を育成。

人間学部

Faculty of Human Studies

- 人間学科

キャンパス/ナゴヤドーム前キャンパス
学部開設/2003年(平成15年)

現代社会で求められるのは、豊かな人間性に裏打ちされた広い視野と深い教養を持ち、時代の変化や国際化にも自在に対応できる、行動力とコミュニケーション能力を備えた人材です。人間学部では「幅広い教養の修得」「人間性の追究」「グローバル・マインドの養成」を教育理念に、「心理系」「社会・教育系」「国際・コミュニケーション系」の3領域で専門教育分野を構成。また、海外研修などの体験科目やゼミナールを充実することで、どのような場面でも活躍できる人材の育成をめざします。

エネルギー、環境、交通、防災など…
あらゆる都市問題を解決するサービスサイエンスを学ぶ。

都市情報学部

Faculty of Urban Science

● 都市情報学科

キャンパス／ナゴヤドーム前キャンパス
学部開設／1995年(平成7年)

「都市」と「情報」をテーマとした、文理融合の幅広い学びを展開。今、世界中の「都市」を動かしているのは、行政や企業などが提供する「サービス」であるといっても過言ではありません。この「サービス」に対して、最先端の情報技術や社会科学の知見を駆使して科学的に追究し、現代の都市が抱えるさまざまな問題を解決していきます。

情報の収集、整理・分析などの能力修得を目的とする「アナリストコース(理系志向)」、計画の立案・設計などの能力修得を目的とする「プランナーコース(文系志向)」の2つのコースで、文・理どちらの志向にも柔軟に対応しています。

実践力×連携力を身につけた
次世代の情報エンジニアを育成する。

情報工学部

Faculty of Information Engineering

● 情報工学科

キャンパス／天白キャンパス
学部開設／2022年(令和4年)

社会のあらゆる分野でAI(人工知能)、ビッグデータ、IoT(Internet of Things)、サイバーセキュリティなどの情報通信技術が必要とされています。情報工学部では情報工学の考え方や技術を深く体系的に学ぶ「総合コース」と、実社会で利用されている技術を実践的・体験的に学ぶ「先進プロジェクトコース」を配置。さらに情報工学の広い領域にまたがる4つのプログラムを組み合わせた多彩な学びを、興味や適性に応じて自ら組み立てることができます。時代のニーズに応える先進的な学びにより、多種多様な分野で活躍できる次世代の情報エンジニアを育成します。

伝統と革新が融合する独自の教育研究により
世界で活躍できる科学技術者を育てる。

理工学部

Faculty of Science and Technology

● 数学科 ● 電気電子工学科 ● 材料機能工学科
● 応用化学科 ● 機械工学科 ● 交通機械工学科 ● メカトロニクス工学科
● 社会基盤デザイン工学科 ● 環境創造学工学科 ● 建築学科

キャンパス／天白キャンパス
学部開設／1950年(昭和25年)

理工学部では、まもなく100年を迎える長い歴史の中で培った充実した教育体制を基盤に、これからの時代を見据えた教育プログラムを推進することで、幅広い素養を備え、社会に通用する専門知識とその応用力を養います。また、実験や調査など数多くの実習や、実際の「ものづくり」の現場を肌で体感するプログラムなどを積極的に取り入れた実感教育も実施しています。これらにより、将来、科学技術者として自らの手で新しい分野を創造的に切り開いていく人材を育成していきます。

「生命・食料・環境」に関する
専門的学識と洞察力を備えた人材を育成。

農学部

Faculty of Agriculture

● 生物資源学科 ● 応用生物化学科 ● 生物環境科学科

キャンパス／天白キャンパス
学部開設／1950年(昭和25年)

食料不足、エネルギー危機、環境汚染など、地球の未来を左右するさまざまな問題が深刻化するなか、農学の果たすべき役割は大きく広がり、また高度化しています。こうした時代の変化に対応するため、農学部では生物資源学科、応用生物化学科、生物環境科学科の3学科を配置。独自の教育と研究を通じて、生命・食料・環境に関する専門的学識と洞察力を養い、現代社会が直面する諸問題の解決に向けて積極的に取り組むことができる人材の育成をめざしています。

人々の健康と福祉の向上に
広く貢献できる薬剤師・薬学研究者の養成をめざす。

薬学部

Faculty of Pharmacy

● 薬学科

キャンパス／八事キャンパス
学部開設／1954年(昭和29年)

第109回
薬剤師国家試験合格率
95.63%

全国No.1

※全国平均68.43%(厚生労働省)

薬剤師の職能は、ますます広がり続けています。近年、薬剤師は病院などの臨床現場で医師、看護師などとチーム医療を推進する一員としてその存在感が高まり、さらに超高齢社会の中で、予防医学や地域医療、在宅医療の担い手としての期待も大きく高まっています。2014年に創立60周年を迎えた薬学部では、薬剤師が医療に携わる重要性に早くから着目し、日本における臨床薬学教育をリードし続けてきました。一方で、バイオテクノロジーなど先端の研究活動も積極的に推進。高度な教育と研究を両輪として、将来にわたり人々の健康と福祉の向上に貢献できる薬剤師・医療人、薬学研究者の養成をめざしています。

大学院紹介

海外との知的交流のもとに、高度な専門知識を修得

法学研究科

- 修士課程／法律学専攻
- 博士後期課程／法律学専攻

本研究科では、大学院生の多様な研究目的に対応できる、幅広く高度な専門知識を修得可能な授業科目を配置しています。また、修士課程1年次から指導教員を決定し、研究上のきめ細かい指導が行えるような体制を整えています。さらにハワイ大学ロースクールや中国の清華大学、韓国の高麗大学校等との間に学術交流協定を締結し、定期的に研究者を招聘しています。また、税理士志望者や実務界からのニーズに対応するために、2020年度から「租税法」を専修分野として新設するとともに科目の充実を図りました。なお、この地区の愛知学院大学・中京大学・名古屋経済大学・南山大学の各大学院法学研究科とは単位互換協定を締結しています。また、言葉のハンディを克服して博士後期課程をめざす外国人留学生も多く、日本人学生に大きな刺激を与えています。

経営のグローバル化に対応する2つのコースを設置

経営学研究科

- 修士課程／経営学専攻
- 博士後期課程／経営学専攻

本研究科では、「経営学・ものづくりシステムコース」、「会計学・ファイナンスコース」の2コース制を導入。経済、経営のグローバル化に対応する高度専門職業人の養成をめざしています。「ものづくり」関連科目においては、わが国製造業の第一線企業の実務家等を講師に招き、産学協同、文理融合型の特色ある実践的教育・研究を進めています。企業から派遣されている社会人学生は、職場に根ざした問題の解決策をまとめ、高い評価を得ています。また、学部卒業生や外国人留学生のみならず、社会人にも広く門戸を開放し、関連資格の取得をめざす者への支援も行っています。

経済理論と現実社会との接点を考察

経済学研究科

- 修士課程／経済学専攻
- 博士後期課程／経済学専攻

経済社会の発展に寄与できる高度職業人の育成を目的とし、経済理論、財政政策、金融政策、国際経済、アジア経済、環境経済、現代企業、地域産業政策などに関する科目を多彩に開講しています。大学院生は、「理論経済・経済史分野」「経済政策分野」「現代産業構造分野」の三つの専修分野の中から一つの専修分野を定め、指導教員のもとで研究論文の作成をめざします。また、学部卒業生や外国人留学生のみならず、社会人にも広く門戸を開放し、関連資格の取得をめざす方への支援も行っています。

高次の実践力と創造的な知見を備えた人材を養成

人間学研究科

- 修士課程／人間学専攻

本研究科は、人間に関するテーマを探究・展開できる研究能力とともに、総合的で柔軟な判断力、多元的・複雑化した社会で求められるコミュニケーション能力、高い公共性と倫理性を備えた人材を養成することを目的として開設されました。1990年代以降、急速に進んだグローバル化の中で、さまざまなカタチで顕在化してきた課題に対して、「現実を踏まえ粘り強く交渉する能力」「意見の対立を調停する能力」「新しく、独創性のある発想を伴った創造力」を持つ人材を育て、経済格差のひろがり、民族間・宗教間対立の深刻化、止まらない環境破壊など、人間の抱える課題の解決をめざします。

サービスサイエンスを志向する都市科学研究

都市情報学研究科

- 修士課程／都市情報学専攻
- 博士後期課程／都市情報学専攻

都市情報学研究科は、「社会システム学」「都市創造学」の2つの専修分野から構成され、サービスサイエンスの観点を取り入れた、新しい時代の理想的な都市社会を創造するエキスパートの養成を目的としています。都市情報学研究科での新たな学びを通して、既存の方法では解決しない問題を、AIを含む革新的な技術及びデータサイエンス手法等で解決する能力や、異分野で開発された解決策を創造的にアレンジし適用する能力を培い、大学院修了後の社会実践力を養成してまいります。

多彩な分野で最先端の研究を展開

理工学研究科

- 修士・博士前期課程／数学専攻*1、情報工学専攻、電気電子工学専攻*1、材料機能工学専攻、応用化学専攻、機械工学専攻、交通機械工学専攻、メカトロニクス工学専攻、社会基盤デザイン工学専攻、環境創造工学専攻、建築学専攻
- 博士・博士後期課程／数学専攻*2、電気・情報・材料・物質工学専攻、機械工学専攻*2、社会環境デザイン工学専攻

*1 博士前期課程 *2 博士後期課程

学部各学科の専門基礎教育を基盤とする修士課程、さらに修士課程の各専攻での研究を基盤とする博士後期課程を設けています。各専攻では、学生と教員が一体となって最先端分野の研究テーマに取り組み、その研究成果を国内外の学会に発表しています。こうした教育研究活動の実績とポテンシャルの高さは広く認められており、文部科学省によるさまざまな学術研究高度化推進事業の拠点として選定されています。また、近年企業の採用も大学院修了者を重視する傾向があり、高度な教育研究活動を通じて自己の付加価値を一層高めることをめざして、進学希望者も年々増加しています。

農学へのニーズの広がり高い水準で対応

農学研究科

- 修士課程／農学専攻
- 博士後期課程／農学専攻

中部圏私大で唯一の大学院農学研究科であり、修士課程と博士後期課程を設置しています。栽培植物生産学、遺伝学、生物保護学、生物資源経済学、生命科学、食品科学、分子化学、生物制御科学、環境生物学、物質動態学、環境修復・応答学、ランドスケープ・デザイン学の12専修分野からなり、修士課程ではさらにフィールド生産科学専修分野が加わります。学生はひとつの専修分野を選択し、講義や演習を通じて専門分野の学識を高め、さらに指導教員の指導のもとで最先端の研究テーマに取り組み、修士論文・博士論文を作成します。それらにより、生命科学、食料・健康科学、環境科学における高度な専門知識と洞察力を有し、専門領域や関連学術領域における総合的な応用力、創造力及び実践力を備えた専門技術者及び研究者を養成することを目的としています。

薬学のスペシャリストを養成

薬学研究科

- 博士課程(4年制)／薬学専攻

薬学研究科薬学専攻博士課程(4年制課程)は、薬学領域における学術高度化に貢献でき、国民の健康維持・増進と医療の発展をより一層推進できる独創的で創造的な高い研究力、新しい職能を開拓できる高度な専門性と技術・指導力を兼ね備えた“薬学のスペシャリストの養成”を目的として研究に取り組んでいます。4年間の教育課程を通して、最新の医療・生命科学にかかわる情報を理解・修得できる能力、薬剤師の職能の現状にとらわれず柔軟な発想と時代の先を見渡す洞察力や、自らが時代を切り拓くことができる行動力を身につけた医療人の養成をめざした教育を行っています。

「自然と人間の共生」をテーマに学際的研究を推進

総合学術研究科

- 博士前期課程／総合学術専攻
- 博士後期課程／総合学術専攻

学部を基礎としない独立研究科として2002年度(平成14年度)に設置。総合大学ならではの理系・文系からなる学際的な研究科です。研究者および高度専門職業人養成を目的として、「自然・環境科学」と「人間科学」の2つの専修分野をもとに、博士前期課程では「物質・環境科学」「生物・環境科学」「心理学」「生命科学」の各分野の特論を学びながら、専攻した科目の研究を行い、学際的なものの見方を養成します。博士後期課程では「物質・環境科学」「生物・環境科学」「心理学」「生命科学」の4つの分野で学位取得に向けた研究を進展させます。独立研究科として、春季・秋季入学の実施、社会人に対応した開講時間の設定など、学部からの進学者とともに社会人も積極的に受け入れる体制を整え、社会に関わった研究科づくりを進めています。

教職課程・学芸員課程

名城大学では、薬学部を除くすべての学部で教職課程および学芸員課程を開設し、教職センターが中心となって運営しています。教職課程では、教育職員免許状取得に必要な教育課程を提供するとともに、教員養成を目的とした質の高い教育、教職をめざす学生に対する責任ある教育の実現と、組織的な取り組みを含めた教職指導体制の充実をめざしています。学芸員課程では、博物館等で資料収集、調査研究、展示、情報提供等において専門的な仕事を担当する専門職である「学芸員」の資格取得希望学生に対して、所属する学部の専門分野を生かして博物館活動を担える、実践力のある学芸員養成を目的とした教育を行っています。

名城大学で取得可能な免許状(2024年度入学生)

学部・学科	校種と免許教科	
	中学校教諭一種免許状	高等学校教諭一種免許状
法学部	社会	地理歴史、公民
経営学部	—	商業
経済学部	社会	地理歴史、公民、商業
外国語学部	英語	—
人間学部	社会、英語	地理歴史、公民、英語
都市情報学部	—	公民、情報
情報工学部	—	情報、工業
理工学部 数学科	数学	数学、情報
理工学部 メカトロニクス工学科	—	工業
理工学部 環境創造工学科	—	工業
理工学部(上記以外の学科)	理科	理科、工業
農学部	理科	理科、農業

研究科・専攻	校種と免許教科	
	中学校教諭専修免許状	高等学校教諭専修免許状
法学研究科	社会	公民
経営学研究科	—	商業
経済学研究科	社会	公民
理工学研究科 応用化学専攻	理科	理科
理工学研究科 数学専攻	数学	数学
理工学研究科(数学専攻・応用化学専攻以外)	—	工業
農学研究科	理科	理科、農業

令和5年度 教員免許状授与結果一覧表

学部/研究科	学科/専攻	授与人数 実数	中学校教諭一種						高等学校教諭一種						中学校教諭専修						高等学校教諭専修						計 合計	
			社会	数学	理科	英語	地理歴史	公民	数学	理科	情報	英語	商業	工業	農業	社会	数学	理科	公民	数学	理科	商業	工業	農業				
法学部	法学科	11	11	0	0	0	11	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	32
	小計	11	11	0	0	0	11	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	32
経営学部	経営学科	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	国際経営学科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
経済学部	経済学科	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	産業社会学科	3	1	0	0	0	1	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
外国語学部	国際英語学科	18	0	0	0	13	0	0	0	0	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	31
	小計	18	0	0	0	13	0	0	0	0	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	31
人間学部	人間学科	21	8	0	0	9	13	7	0	0	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	48
都市情報学部	都市情報学科	5	0	0	0	0	4	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	
理工学部	数学科	46	0	0	0	0	4	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	105
	情報工学科	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	電気電子工学科	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	材料機能工学科	7	0	0	0	5	0	0	0	6	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14
	応用化学科	6	0	0	0	3	0	0	0	6	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10
	機械工学科	3	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
	交通機械工学科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	メカトロニクス工学科	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	社会基盤デザイン工学科	3	0	0	0	2	0	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
	環境創造工学科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	建築学科	5	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
	小計	75	0	0	0	12	0	0	0	46	18	15	0	0	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	151
農学部	生物資源学科	8	0	0	0	6	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16
	応用生物化学科	11	0	0	0	9	0	0	0	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24
	生物環境科学科	9	0	0	0	7	0	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	21
小計	28	0	0	0	22	0	0	0	27	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	61	
経済学研究科	経済学専攻	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	小計	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
理工学研究科	数学専攻	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
	応用化学専攻	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	メカトロニクス工学専攻	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
小計	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	
農学研究科	農学専攻	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	小計	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
総合計	小計	174	20	44	34	22	25	22	46	45	20	29	6	16	12	1	2	2	1	3	4	0	1	0	0	0	355	

公立学校教員採用選考試験校種別合格者数一覧 ※既卒者は教育委員会への調査結果による (人)

年度(採用年度)	現役・既卒の別	小学校	中学校(中・高)	高等学校	特別支援	計
令和6年度(2024年度)	現役	0	11	20	0	31
	既卒	2	12	13	4	31
	合計	2	23	33	4	62
備考	【現役合格者(31人)内訳】	・愛知県(10人)…中学校(数学)1人、中学校(理科)1人、 中学校(英語)3人、高等学校(工業)2人、 高等学校(商業)1人、高等学校(農業)1人、 高等学校(英語)1人 ・名古屋市(2人)…中学校(理科)1人、高等学校(工業)1人				
	【既卒合格者(31人)内訳】	・岐阜県(5人)…中学校(理科)1人、高等学校(数学)1人、 高等学校(工業)1人、高等学校(農業)1人、 高等学校(地理)1人、 ・三重県(1人)…高等学校(工業)1人 ・富山県(1人)…中・高(数学)1人 ・長野県(2人)…高等学校(数学)1人、高等学校(英語)1人 ・静岡県(2人)…中学校(理科)1人、高等学校(数学)1人 ・神奈川県(2人)…中学校(英語)1人、高等学校(数学)1人 ・福井県(3人)…高等学校(工業)3人 ・茨城県(2人)…中学校(理科)1人、高等学校(工業)1人 ・兵庫県(1人)…高等学校(商業)1人				

学芸員資格を取得できる学部・学科(2024年度入学生)

学部	学科
法学部	法学科
経営学部	経営学科、国際経営学科
経済学部	経済学科、産業社会学科
外国語学部	国際英語学科
人間学部	人間学科
都市情報学部	都市情報学科
情報工学部	情報工学科
理工学部	数学科、電気電子工学科、材料機能工学科、 応用化学科、機械工学科、交通機械工学科、メカトロニクス工学科、 社会基盤デザイン工学科、環境創造工学科、建築学科
農学部	生物資源学科、応用生物化学科、生物環境科学科

学芸員資格取得者数の推移

年度	学部	法	経営	経済	外国語	人間	都市情報	理工	農	合計
平成25年度(2013年度)			1	1		6	2	3	9	22
平成26年度(2014年度)				2			1	3	22	28
平成27年度(2015年度)			1	1		5		1	11	19
平成28年度(2016年度)		2	2			6	2	6	31	49
平成29年度(2017年度)		2	3			4		8	17	34
平成30年度(2018年度)		3	1				3	3	29	39
令和元年度(2019年度)		1	1			3	6	2	32	45
令和2年度(2020年度)		1		2	2	4	4	3	33	49
令和3年度(2021年度)				1		2	2	4	26	35
令和4年度(2022年度)						2		4	16	22
令和5年度(2023年度)		2			1	4	2	5	20	34

進路・就職支援体制

2024年(2023年度)学部卒業生就職・求人状況(2024年5月1日現在)

全国私大トップクラスの実績

就職率
99.5%

(全国平均 98.1%)

※① 就職率…就職希望者に対する就職者の割合
② 全国平均…文部科学省・厚生労働省調査5月24日発表

実就職率
96.5%

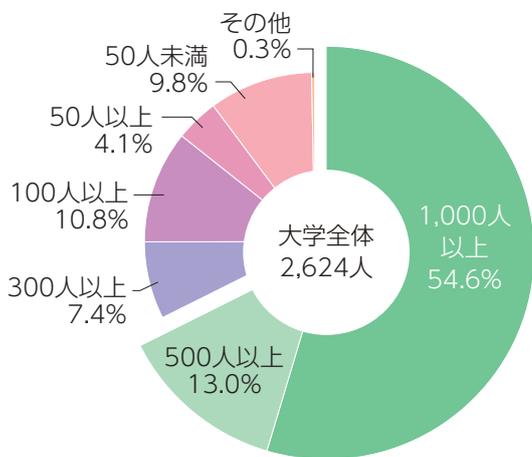
〈2023年〉95.8% 全国私大No.1
〈2022年〉95.5% 全国私大No.1

※①実就職率…卒業生から大学院進学者を除いた者に対する就職者の割合
②2022、2023年の順位は、「サンデー毎日」学部卒業生2000名以上の大学から抽出

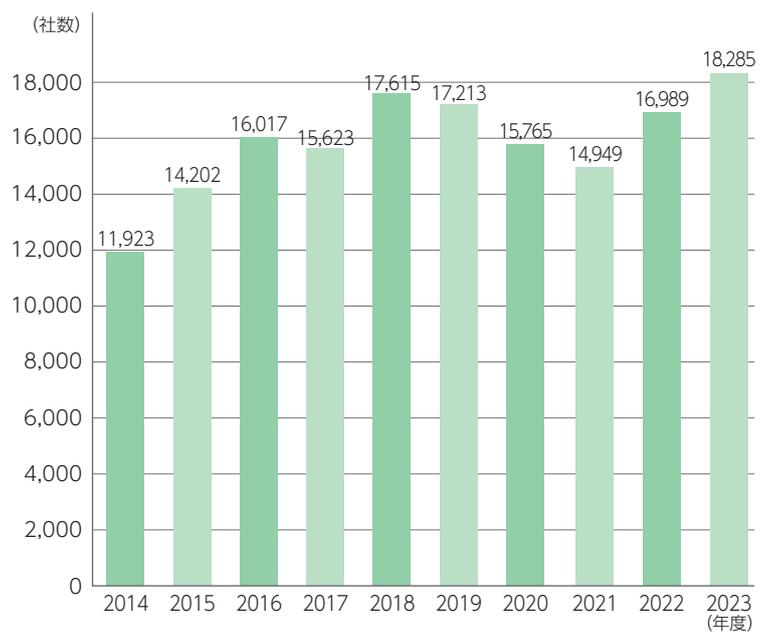
従業員数別就職状況

67.6%の学生が大企業へ就職!

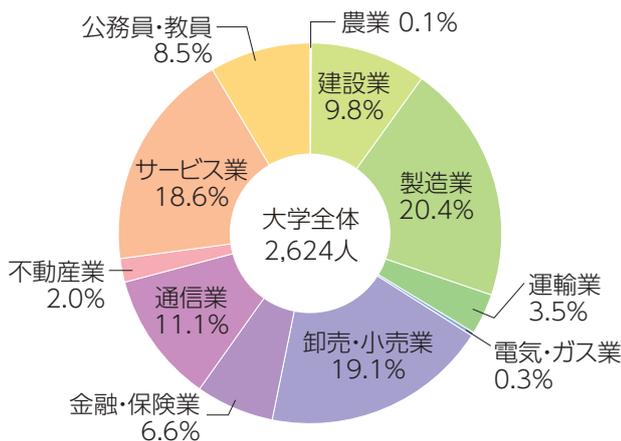
就活生の半数以上が従業員数1000人以上の大企業に就職。



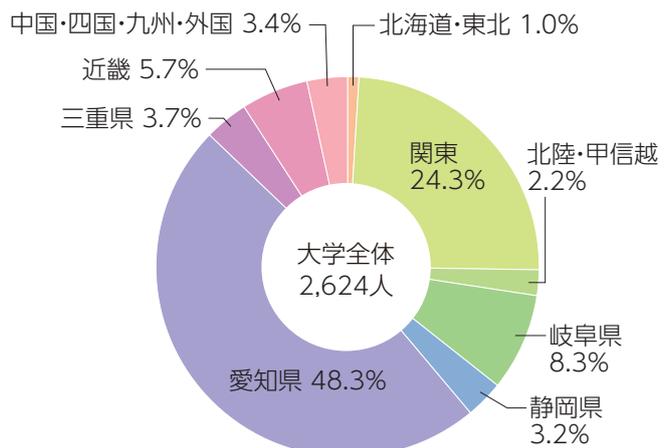
求人社数の推移



業種別就職状況



地区別就職状況(本社所在地)



進路・就職支援体制

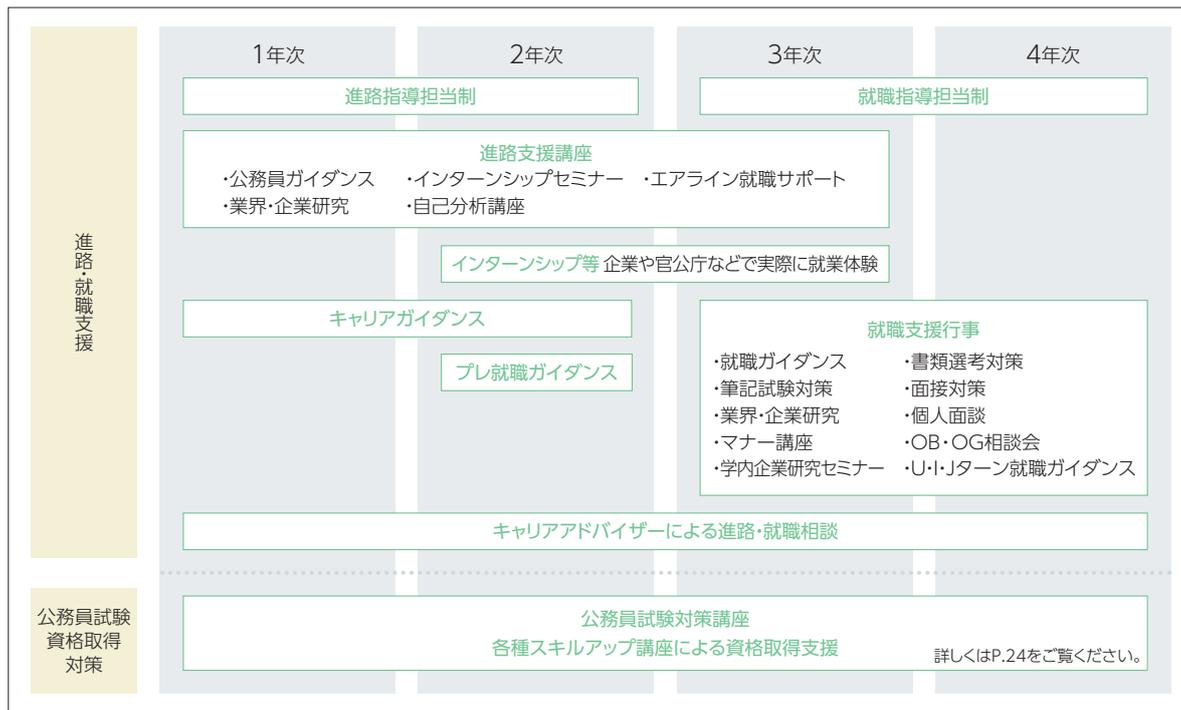
学生生活を「就職」「資格」の両面からトータルサポート。

大学は将来の進路を決める大切な時期。だからこそ自分の将来像を早めに明確にし、その実現に向けたテーマを持って、4年間を送ることができるかがキーポイント。

キャリアセンターは、進路決定・就職活動の支援や公務員試験対策・各種資格取得の支援を実施しており、低学年から学生の希望進路の決定と実現をトータルにサポートします。



学生の未来づくりをトータルに支援するキャリアセンター



学生一人ひとりの理想の進路・就職の実現

※プログラムの内容は変更することがあります。

入学から卒業までを見通した系統的な支援講座を開設して学生をサポート

1・2年次

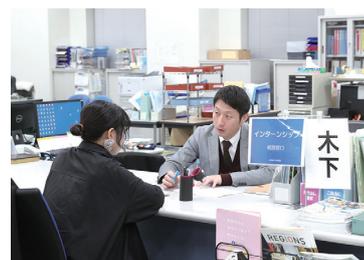
自己理解を深め、社会全体を広い視野で立体的に捉えることが就職活動には必要です。キャリアセンターでは1・2年次から「キャリアガイダンス」を中心に自身のキャリアを考える機会、他部署と連携してキャリアを切り拓く汎用的スキル向上の機会などを多数提供しています。また、早期化する就職活動に備え、2年次には、「プレ就職ガイダンス」を実施し、最新の就職環境や選考トレンドなどを知ることを通じて、自立的なキャリア選択をサポートしています。

3・4年次

3年次からはさらに実践的な就職支援が始まります。「就職ガイダンス」からスタートし、「個人面談」による指導、「筆記試験対策講座」「履歴書・エントリーシートの書き方講座」「学内企業研究セミナー」など、多彩な行事が開催されます。特に、「インターンシップセミナー」「学内企業研究セミナー」では年間を通じて800社以上が参加し、就職支援の大きな柱になっています。またキャリアセンターに常駐するキャリアアドバイザーは、模擬面接や履歴書添削等の相談を常時受け付けており、就職活動中の学生や就職活動をこれから始めようとする学生の強い味方になっています。

就職アドバイザー制度(OB・OG紹介制度)

卒業生や就職が内定した4年次で構成される「就職アドバイザー」が、就職活動中の学生をサポートしています。企業で実際に働いている先輩や、最近まで就職活動をしていた先輩学生から、進路先の選び方や就職活動の効果的な進め方、ウェブや情報誌からは得られない職場環境の情報など、体験を通じたアドバイスを受けることができます。



エアライン就職サポート【M-CAP】CA/GS/パイロット/整備士/総合職

全学部・全学年対象です。【M-CAP】は、エアライン業界（CA、グランドスタッフ、パイロットなど）にチャレンジしたい人のための就職サポート。航空会社や外部のキャリア講師などの協力の下、低年次から就職活動年次まで徹底的にサポートします。エアライン業界を目指す人はもちろん、「人と接することが好き」「ホスピタリティに興味がある」学生にも最適な「JALホスピタリティ講座」も開講。各学年に合わせた多彩なプログラムを展開しています。

▶過去内定実績

全日本空輸(ANA)、日本航空(JAL)、フジドリームエアラインズ(FDA)、カタール航空、キャセイパシフィック航空、スターフライヤー、ANA中部空港、ドリームスカイ名古屋、ANAエアポートサービス、ANA成田エアポートサービス、JALスカイ、中日本航空、航空大学校 ほか



【M-CAP】のプログラム紹介はこちらから
<https://www.meijo-u.ac.jp/mcap/>

インターンシップ

名城大学では、インターンシップ・仕事体験を学生が自身の就職・進路について考える機会として位置付け、主に年2回の長期休暇(夏季と春季)を利用して、全ての学生に積極的な参加を推奨しています。また、インターンシップを成長機会として活用できるよう、学生には学内事前研修を通じて、参加目的の設定や事前準備、実習中の取り組み方、就活マナーへの理解を深めた上で、実習に臨ませています。



公務員試験・資格取得対策講座

キャリアセンターでは、公務員試験・資格取得対策講座として、有名専門学校との提携講座を『名城大学キャンパス内(インスクール)』において廉価で実施しています。受講生にとって『通学時間・費用』が節約できます。高難易度の国家資格からパソコン・英語関連資格、公務員試験対策など多種多様な講座を開講し、受講生のニーズに応えています。また、合格奨励制度などの支援も充実しており、毎年多数の学生が受講しています。

2024年度 開講講座一覧

公務員	情報・語学	実務・技術	就職対策	ナゴヤドーム前キャンパス
THE公務員 地方上級・国家一般(行政職)完全マスター(3年生対象)※模試含む THE公務員 地方上級(政令市・県庁)【教養区分】(3年生対象)※模試含む THE公務員 理系(技術職・工学の基礎)完全マスター(3年生対象)※模試含む THE公務員 理系(技術職・農学の基礎)完全マスター(3年生対象)※模試含む THE公務員 市町村・警察・消防 完全マスター(3年生対象)※模試含む THE公務員 市町村・警察・消防 速習マスター(3年生対象)※模試含む *1・2年生から「ウィックスタート公務員基礎&SPI(1・2年生対象)」 公務員 模擬試験(国家一般・国税・地方上級志望型) ※模試のみ(講座非受講者対象) 公務員 模擬試験(警察官・消防官・市町村職員志望型) ※模試のみ(講座非受講者対象) 公務員 模擬試験(技術職対応)※模試のみ(講座非受講者対象)	基本情報技術者 ITパスポート MOS365&2019(Word) 夏期集中コース MOS365&2019(Excel) 夏期集中コース MOS365&2019(Word) 春期集中コース MOS365&2019(Excel) 春期集中コース TOEIC®L&R 試験対策講座(前期月曜) TOEIC®L&R 試験対策講座(後期火曜) TOEIC®L&R 試験対策講座(夏期集中)	食品表示検定中級 危険物取扱者(乙種第4類) 建築士1級(中級) ※4年生対象 建築士1級(中級) ※4年生対象(再受講)2023年度以前の受講者対象 建築士1級(中級) 後期・web配信のみ ※4年生対象 通関士【通信教育講座】 ※天白・ドーム共通	SPI試験対策講座(秋・11月コース) SPI試験対策講座(冬・2月コース)	THE公務員 市町村・警察・消防 完全マスター(3年生対象)【ドーム前】※模試含む THE公務員 市町村・警察・消防 速習マスター(3年生対象)【ドーム前】※模試含む *1・2年生から「ウィックスタート公務員基礎&SPI【ドーム前】(1・2年生対象)」 簿記3級(秋スタート11月受験コース)【ドーム前】 MOS365&2019(Word) 【ドーム前】 MOS365&2019(Excel) 【ドーム前】 TOEIC®L&R 試験対策講座(前期)【ドーム前】 TOEIC®L&R 試験対策講座(後期)【ドーム前】 TOEIC®L&R スコアアップコース(春期集中)【ドーム前】 旅行業務取扱管理者【ドーム前】 旅行業務取扱管理者(再受講者) 【ドーム前】 世界遺産検定2級【ドーム前】 秘書検定2級・準1級【ドーム前】 通関士【通信教育講座】 ※天白・ドーム共通 マナー・プロトコル検定3級【ドーム前】 SPI試験対策講座(秋・11月コース)【ドーム前】 SPI試験対策講座(冬・2月コース)【ドーム前】
行政書士 宅地建物取引士(A) 宅地建物取引士(B) 宅地建物取引士(C) 宅地建物取引士(A)(再受講者) 宅地建物取引士(B)(再受講者) 宅地建物取引士(C)(再受講者) 司法書士 入門① 司法書士 入門② 司法書士 入門①(再受講者) 司法書士 入門②(再受講者) 司法書士(書式基礎)				
簿記3級(春スタート6月受験コース) 簿記3級(秋スタート11月受験コース) 簿記2級(夏スタート11月受験コース) 簿記2級(冬スタート6月受験コース) 2級ファイナンシャル・プランニング技能士				
			その他 公務員講座(除く1年生対象講座)受講生対象の※「OHASHI QUEST」(無料)あり ※「OHASHI QUEST」(全15回 予定) 公務員試験の徹底的な対策(苦手分野の克服・小論文・面接 等)のほか公務員OB・OGから実体験談を聞く・相談するなど幅広い視野で学習しながら理解を深めるプログラム ※開講講座は毎年見直し、充実を図っていますので、年度により異なる場合があります。 ※最少開講人数に達しない場合、その他諸事情により開講できない場合があります。	

就職実績

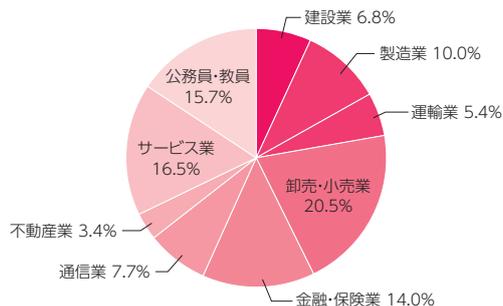
2023年度学部卒業生

※就職進路より抜粋

法学部

▶主な就職先

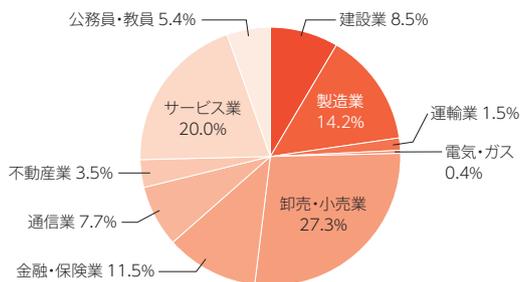
愛知時計電機/あいちフィナンシャルグループ/伊藤ハム/小島プレス工業/システナ/十六銀行/積水ハウス/タカラスタンダード/東海ソフト/東海旅客鉄道(JR東海)/日テレアックスオン/日本郵便/パッファロー/日立システムズ/本田技研工業/マキタ/みずほ証券/ミネパミアツミ/名港海運/メタウォーター/ヤマモリ/厚生労働省 岐阜労働局/財務省 名古屋税関/法務省出入国在留管理庁/岐阜地方裁判所(裁判所事務官)/国税局(国税専門官)/愛知県庁/三重県庁/豊橋市役所/愛知県警察本部



経営学部

▶主な就職先

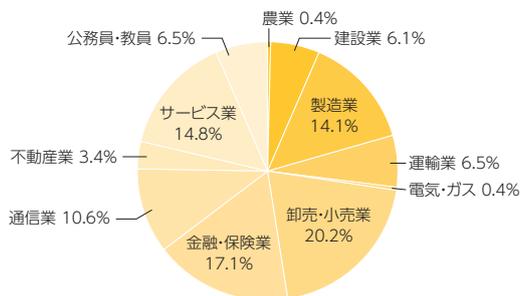
アイカ工業/あらた/一条工務店/伊藤園/イノアックコーポレーション/大垣共立銀行/加藤産業/クロスプラス/KDDI/サンゲツ/CKD/静岡銀行/システムリサーチ/ダイドー/中電シーティーアイ/東海旅客鉄道(JR東海)/東京センチュリー/トヨタ自動車/日東工業/PALTA C/ピーエス三菱/百五銀行/フォスター電機/メイダー/矢崎総業/リコージャパン/名古屋市長市役所/桑名市役所/愛知県警察本部/愛知県教育委員会



経済学部

▶主な就職先

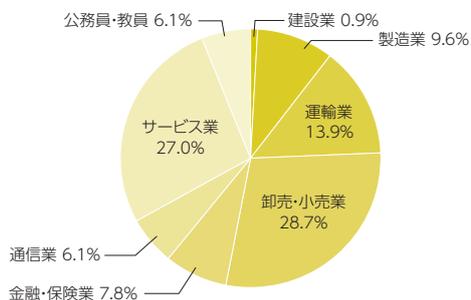
あいおいニッセイ同和損害保険/アドヴィックス/黄桜/岐阜信用金庫/近畿日本鉄道/フリナップ/三協立山/Sky/スズキ/高砂熟学工業/タカラスタンダード/瀧定名古屋/東海東京フィナンシャル・ホールディングス/東海旅客鉄道(JR東海)/東邦液化ガス/トエネック/トムス・エンタテインメント/名古屋鉄道/日本郵政/日本食研/PALTAC/フランスベッド/雪印メグミルク/リゾートトラスト/三重県庁/岡崎市役所/名古屋市長市役所/警視庁/名古屋市長市役所/兵庫県教育委員会



外国語学部

▶主な就職先

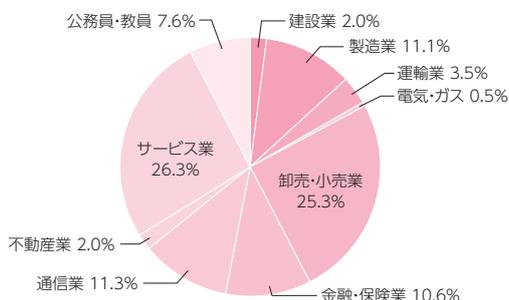
イオンモール/エイチ・アイ・エス/ANA中部空港/ANA成田エアポートサービス/大垣共立銀行/キャセイパシフィックエアウェイズリミテッド/JR東海リテイリング・プラス/JALスカイ/新東工業/双日マシナリー/中部国際空港旅客サービス/中部テレコミュニケーション/トヨタ自動車/豊通システム/なごや農業協同組合/日本通運/ニトリ/日本航空/日本ビジネスシステムズ/萩原電気ホールディングス/富士ソフト/フジパングループ本社/星野リゾート・マネジメント/村田機械/名鉄観光サービス/理研計器/安城市役所/瀬戸市役所/鳥羽市役所/愛知県教育委員会



人間学部

▶主な就職先

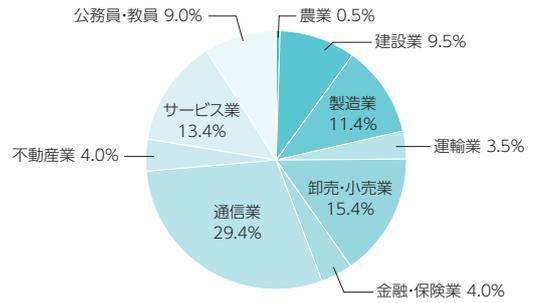
ANA中部空港/オークマ/大塚商会/岡崎信用金庫/河村電器産業/三十三銀行/ジェイアール東海ホテルズ/十六銀行/スズキ/中部国際空港旅客サービス/トヨタ自動車/豊田鉄工/長島観光開発/日東工業/日本生命保険相互会社/日本赤十字社/富士フィルムビジネス/ペーショングループ/船井総合研究所/三重交通/ヤマハ発動機/ユナイテッドアローズ/リゾートトラスト/良品計画/春日井市役所/豊田市役所/名古屋市長市役所/福井市役所/愛知県警察本部/三重県警察本部/岐阜県教育委員会



都市情報学部

▶主な就職先

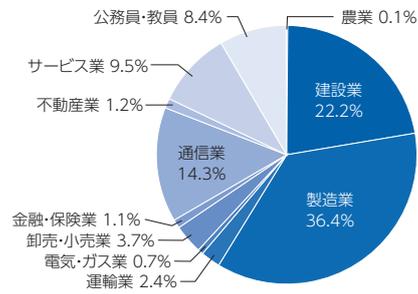
旭化成ホームズ/旭情報サービス/伊藤忠テクノソリューションズ/ANAエアポートサービス/ATグループ/NSD/ジェイアール東海高島屋/システムリサーチ/十六銀行/スズケン/住友不動産販売/大和ハウス工業/竹中工務店/中電シーティーアイ/トーエネック/トヨタシステムズ/トヨタ紡織/名古屋銀行/ニトリ/フジパングループ本社/三菱電機ソフトウェア/山善/リンナイ/法務省/愛知県庁/大垣市役所/津市役所/浜松市役所/独立行政法人水資源機構/国立大学法人職員(名古屋工業大学)



理工学部

▶主な就職先

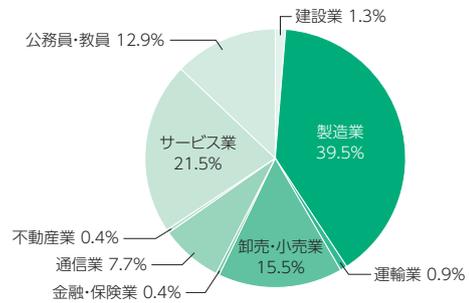
アイシン/旭化成ホームズ/一条工務店/伊藤忠テクノソリューションズ/鹿島建設/キヤノン/近畿日本鉄道/ジェイテクト/JERA/清水建設/Sky/スズキ/住友電装/住友林業/積水ハウス/ソニーグローバルマニュファクチャリング&オペレーションズ/大成建設/大同特殊鋼/大和ハウス工業/竹中工務店/中部電力/中部電力パワーグリッド/DMG森精機/TDK/デンソー/東海理化電機製作所/東海旅客鉄道(JR東海)/東京エレクトロングループ/TOPPANホールディングス/豊田合成/トヨタシステムズ/豊田自動織機/トヨタ車体/トヨタ紡織/中日本高速道路(NEXCO中日本)/名古屋鉄道/西日本電信電話(NTT西日本)/西日本旅客鉄道(JR西日本)/日本ガイシ/日本工営都市空間/ノリタケカンパニーリミテド/パイロットインキ/浜松ホトニクス/日立システムズ/ホシザキ/マキタ/マツダ/三菱自動車工業/三菱電機/未来工業/ヤマザキマザック/LIXIL/良品計画/リンナイ/YKK AP/国土交通省中部地方整備局/愛知県庁/岐阜県庁/名古屋市役所/愛知県教育委員会



農学部

▶主な就職先

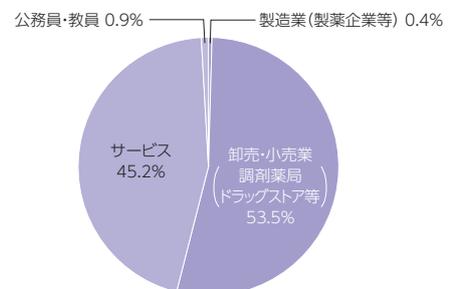
アビ/天野エンザイム/イチビキ/イビデン/井村屋/片倉コープアグリ/キーコーヒー/興和/住友電装/セイコーエプソン/太陽化学/中電シーティーアイ/トヨタシステムズ/日本アクセス/一般財団法人日本食品分析センター/富士フィルムワコーケミカル/明治/メニコン/持田製薬/森永乳業/ヤクルト本社/山崎製パン/YKK/厚生労働省(食品衛生監視員)/国土交通省中部地方整備局(農学)/農林水産省 名古屋植物防疫所/国立大学法人職員(静岡大学)/岐阜県庁(農学・森林科学)/名古屋市役所(行政・応用化学)/愛知県教育委員会



薬学部

▶主な就職先

IQVIAサービシーズジャパン/愛知医科大学病院/JA愛知厚生連 安城更生病院/JA愛知厚生連 海南病院/JA愛知厚生連 江南厚生病院/アポクリート/ウエルシア薬局/岡崎市民病院/岐阜県総合医療センター/岐阜市民病院/杏林堂薬局/キョーワ薬局/大同病院/公立陶生病院/興和/独立行政法人国立病院機構/シミツ/スギヤマ薬品/総合メディカル/中京病院/中部薬品(V-drug)/名古屋大学医学部附属病院/豊橋市民病院/名古屋市立大学病院/日本赤十字社 伊勢赤十字病院/フォーブレイン/藤田医科大学病院/三重県立総合医療センター/持田製薬/愛知県庁(薬剤師)



国際交流

■ 海外協定締結先一覧(2024年5月1日現在)



▶ 交換留学

本学と協定を締結している海外の大学と相互に学生を派遣する留学制度で、本学へ授業料を納入することで交換留学先の授業料が免除されます。留学期間は半年または最長1年間で、現地の学修成果は、学部ごとの審査に基づき、本学の単位として認定されます。(ただし、単位認定を保証するものではありません。)参加学生を経済的に支援するため奨学金制度(給付型)も充実させています。

■ 交換留学協定先の一例

協定先大学
クィーンズランド工科大学(オーストラリア)
アウクスブルク大学(ドイツ)
オスロ大学(ノルウェー)
ニューヨーク市立大学ハンター校(アメリカ)
ユタ工科大学(アメリカ)
北京第二外国語大学(中国)
真理大学(台湾)
東亜大学校(韓国)

■ 奨学金制度 (いずれも返金不要)

派遣交換留学奨学生	受入れ交換留学奨学生(寮費相当額)
渡航地域により 月額4万円~6万円	月額2.5万円

▶ 海外英語研修

長期休暇期間を利用した2週間~5週間の語学研修です。英語力の向上はもとより、異文化理解も深めることにより、グローバル社会を生き抜く力を身につけます。プログラムと奨学金制度の拡充を行い、より参加しやすい研修となりました。

■ 2023年度 参加人数

夏期英語研修	春期英語研修
39名	82名
3ヶ国 4プログラム	5ヶ国 7プログラム

■ 奨学金制度 (返金不要)

	海外英語研修派遣支援 A奨学生
給付金額	最高20万円
給付人数	年間180名

▶ グローバルキックオフプログラム

海外の学生との交流や文化体験などを通じて、海外初心者の世界への第一歩を後押しする超短期プログラムです。2023年度は韓国でプログラムを実施しました。

▶ 海外ボランティア・インターンシッププログラム

海外でボランティアやインターンシップを行うプログラムです。2023年度には、フィリピン・セブにおいて、NGO施設の孤児院でボランティア活動や、マクタン・セブ国際空港などでインターンシップを行いました。プログラムを通して、視野を広げ、国際感覚を磨くとともに、主体性など社会人基礎力も身に付けます。

▶ 国際専門研修

専門領域に根差した国際交流経験と英語の実践的な運用を行う機会を設けることを目的として、各学部・研究科の教員が企画・運営を行う本学ならではのプログラムです。渡航費用や実施費用の一部を大学が支援することで、学生の費用負担を抑えながらも質の高いプログラムを展開しています。

外国人留学生国籍別在籍者数推移 (各年度5月1日現在)

外国人留学生(人)

年度	合計	中国	台湾	韓国	ベトナム	ミャンマー	ネパール	モンゴル	タイ	フィリピン	マレーシア	フランス	モロッコ	インドネシア	パキスタン	ウズベキスタン	バングラデシュ	アメリカ	スリランカ	エジプト	ルウェー	オーストラリア	ポーランド	ドイツ	メキシコ
2015	258	221	12	2	7	4	6					1	1	2	1	1									
2016	223	184	12	4	5	5	4				1	1	1	5	1										
2017	184	139	14	2	13	5	1		1		1			5	1		2								
2018	164	125	13	4	8	5	1				1			4	1		2								
2019	142	103	12	2	8	3	1	1	2		1			4	1		2	2							
2020	100	74	6	1	8	1	1	1	1		1			3			2		1						
2021	104	57	9	2	12	4		1	3		1			3		1	1		1	1	8				
2022	76	45	6	2	13	3			2					2		1	1		1						
2023	76	37	8	4	13	1								2		1	1	4	1		1	1	1	1	
2024	89	37	19	7	11	2								2		1	1	1						3	5

※2021年度:入国予定者および入国せずオンライン等で授業を受けている学生含む

外国人留学生在籍者数 (2024年5月1日現在)

※()内は女子内数 (人)

区分	学部・学科	年次				計	中国	台湾	ベトナム	インドネシア	ミャンマー	バングラデシュ	韓国	ウズベキスタン	アメリカ	ドイツ	メキシコ
		1	2	3	4												
学部	法学部	法学科	4(1)	2(1)	3(2)	4(1)	13(5)	9(4)					1	1			
	経営学部	経営学科	3(1)	1(1)	1	2	7(2)	3	1	2(1)		1(1)					
		国際経営学科	2(1)		1	1(1)	4(2)	1	1	5(3)		1(1)					
	経済学部	経済学科		1	1(1)	1	3(1)	2(1)					1				
		産業社会学科	1			1(1)	2(1)	1		1(1)							
	理工学部	数学科															
		情報工学科															
		電気電子工学科															
		材料機能工学科															
		応用化学科															
		機械工学科															
		交通機械工学科															
		メカトロニクス工学科															
		社会基盤デザイン工学科															
		環境創造学科															
	建築学科																
	情報工学部	情報工学科															
	農学部	生物資源学科	1				1			1							
		応用生物化学科															
	生物環境科学科																
薬学部	薬学科																
都市情報学部	都市情報学科				2(1)	2(1)	1				1(1)						
人間学部	人間学科																
外国語学部	国際英語学科																
学部 合計		11(3)	5(2)	8(5)	12(4)	36(14)	17(5)	2	10(6)	1	2(2)	1(1)	2	1			

区分	課程・研究科	年次				合計	中国	台湾	ベトナム	インドネシア	ミャンマー	バングラデシュ	韓国	ウズベキスタン	アメリカ	ドイツ	メキシコ
		1	2	3	4												
大学院	博士課程	法学研究科															
		経営学研究科															
		経済学研究科															
		理工学研究科				2	2	2									
		農学研究科															
		薬学研究科(4年制)	1(1)				1(1)				1(1)						
	修士課程	都市情報学研究科															
		総合学術研究科															
		法学研究科															
		経営学研究科	1	5(3)			6(3)	4(2)		1(1)			1				
		経済学研究科															
		理工学研究科	4	6(2)			10(2)	10(2)									
		農学研究科		1			1	1									
大学院 合計		6(1)	12(5)		2	20(6)	17(4)		1(1)	1(1)		1					

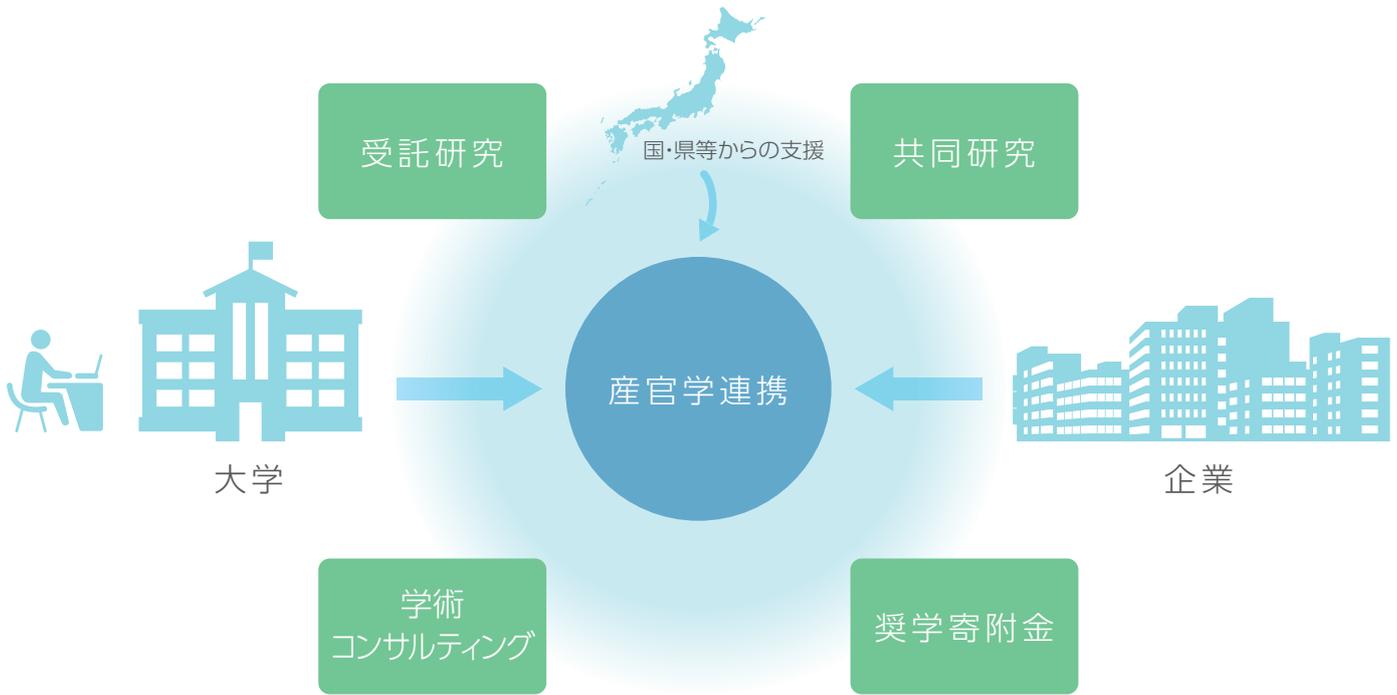
区分	学部・研究科	計	中国	台湾	ベトナム	インドネシア	ミャンマー	バングラデシュ	韓国	ウズベキスタン	アメリカ	ドイツ	メキシコ
研究生	大学院												
	学部												
研究生 合計													
科目等履修生	学部	経営学部	13(9)	2(1)	9(7)				2(1)				
		人間学部	6(5)	1(1)	5(4)								
		外国語学部	14(8)		3(2)					2(1)		1	3(2)
	科目等履修生 合計		33(22)	3(2)	17(13)				4(2)		1	3(2)	5(3)

産官学連携

■ 名城大学における産官学連携

名城大学は、社会貢献を教育と研究に並ぶ大学の使命の一つとして位置づけ、産官学連携による社会貢献に積極的に取り組んでいます。名城大学の教育・研究で得られた知の成果を広く社会に還元し、我が国の産業の持続的発展及び文化の発展に寄与します。本学は、10学部9研究科を擁する文理融合型総合大学であり、幅広い研究領域と研究シーズを備えています。

大学研究室が産業界の力になります。



受託研究

民間企業等から委託を受けて研究を実施し、成果を委託者に報告します。

共同研究

民間企業等の研究者と共通の研究課題について、分担して研究を実施します。

学術コンサルティング

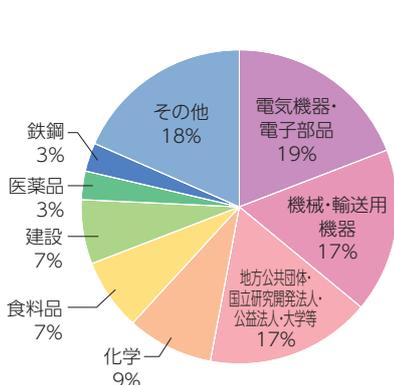
民間企業等から委託を受けて、教育・研究及び専門知識に基づいた指導や助言を行います。

奨学寄附金

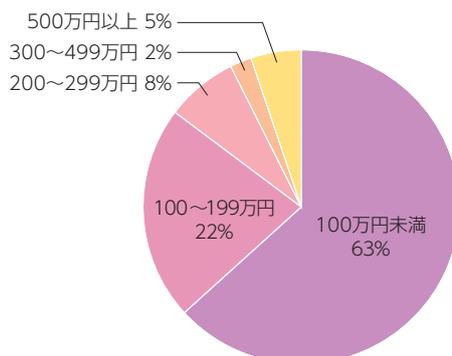
民間企業等から教育・研究を奨励する目的とする経費に充てるべきものとして受け入れ、指定の対象や目的に沿って使用します。

■ 2023年度 産官学連携データ (2024年3月31日現在)

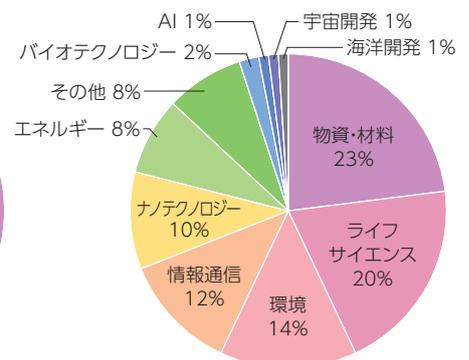
業種(企業数)



年間研究資金受入額



研究分野(研究課題数)



■ LED共同研究センター

名城大学は青色発光ダイオード(青色LED)を発明し、2014年にノーベル物理学賞を受賞した故赤崎勇終身教授・特別栄誉教授をはじめ、LEDに関する研究者により、数多くの研究成果を創出しています。

2011年4月、これまで蓄積した研究成果を広く社会に還元するため、「LED共同研究センター」を設立しました。

同センターでは、最先端の施設設備を用いて、新たな事業の開拓を狙う企業との共同研究や、LED関連技術の知見・ノウハウを習得することを目的とした企業への技術指導など、社会のニーズに対応する革新的な技術開発を行い、産官学連携による産業活性化の一翼を担う研究開発拠点として研究活動を推進しています。



■ 特許保有件数

名城大学パテントポリシーを定め、研究成果の特許化を推進しています。本学では、特許をはじめとする知的財産権を、研究活動から創出された大学の重要な資産と位置づけています。これにより、研究者の創造的研究を促進するとともに、企業等へのライセンス活動を通じて、社会への技術移転を推進しています。また、特許化のサポートのため、URA(リサーチ・アドミニストレーター)を配置しています。

特許保有件数(2024年3月31日現在)

	件数
国内	204
海外	69
合計	273

2023年度に権利化された特許権一覧

代表発明者所属	発明の名称	出願国
理工学部	発光素子の製造方法、及び発光素子の水素の抜き出し方法	米国
	空気浄化装置、及び空気浄化方法	日本
	形状記憶樹脂を用いた展開構造物	日本
	太陽電池モジュールの発電量推定方法	日本
	半導体成長用基板、半導体素子、半導体発光素子および半導体素子製造方法	日本
	窒化物半導体素子	日本
	段差走破性能を向上させる変形車輪機構	日本
	KeepAlive付通信装置	日本
	積層体および積層体の製造方法	台湾
	皮膚の血管網を可視化する装置、方法およびプログラム	韓国
	通信装置	日本
	トマトパウダー、トマトパウダーの製造方法、及びトマトパウダー抽出物の製造方法	日本
	半導体発光素子	日本
	カーボンナノ粒子の製造方法	日本
	グラフェンの製造方法	日本
	皮膚の血管網を可視化する装置、方法およびプログラム①	韓国
皮膚の血管網を可視化する装置、方法およびプログラム②	韓国	

代表発明者所属	発明の名称	出願国
理工学部	凹凸転写方法	日本
	窒化物半導体多層膜反射鏡の製造方法	日本
	アプリケーションソフトウェアおよび情報処理方法	日本
	三次元モデルデータ生成装置、コンピュータプログラム、及び三次元モデルデータ生成方法	日本
	半導体発光素子および半導体発光素子の製造方法	日本
	半導体発光素子	日本
	医療用処置具	韓国
	垂直共振器型面発光素子	日本
	土中異物除去装置及び異物検出方法	日本
	評価システム、コンピュータプログラム、および評価方法	日本
	窒化物半導体	日本
	皮膚の血管網を可視化する装置、方法およびプログラム	米国
農学部	コウジ酸非生産生物によるコウジ酸の生産	日本
	微生物分析方法	日本
	微生物の識別方法	米国

学術研究

■ 学外研究資金データ

2023年度の名城大学における外部資金導入総額(国および民間企業等)は約8億3千6百万円です。
 この中には各省庁実施事業の競争的研究資金制度等で採択された資金が含まれています。

用語説明

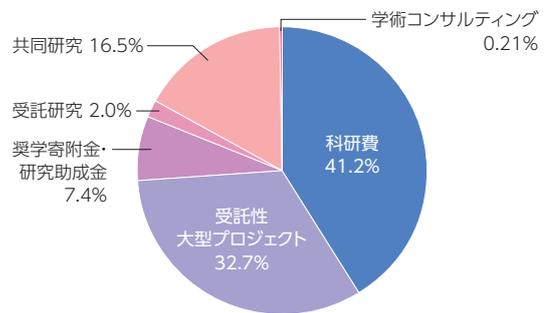
- 科研費……………文部科学省および日本学術振興会が管理する学術研究を推進するための研究資金
- 受託性大型プロジェクト……………各省庁等からの競争的研究資金制度および委託による研究
- 奨学寄附金・研究助成金……………使用用途が、主として研究活動に指定された寄附金・研究内容の向上、達成を目的として支給される助成金
- 受託研究……………民間企業等から受託して行う研究
- 共同研究……………民間企業等から研究者および研究経費を受け入れて、本学の教員が該当企業等の研究者と共通の課題について共同して行う研究
- 学術コンサルティング……………民間企業等から委託を受けて、教育・研究および専門知識に基づいた指導や助言を行う

2023年度 研究資金データ

(千円)

研究資金種類	件数	金額
科研費(※1,4)	168	344,760
受託性大型プロジェクト(※1)	32	273,396
奨学寄附金・研究助成金	69	61,690
受託研究(※1,2,3)	23	16,814
共同研究(※1,3)	107	138,033
学術コンサルティング(※1)	6	1,792
合計	405	836,485

※1 間接経費、一般管理費を含む。 ※2 受託事業を含む。 ※3 LED共同研究センター利用を含む。
 ※4 件数は繰越、延長を含む。金額は交付内定時のものとし、繰越延長は含まない。



2023年度 受託性大型プロジェクト一覧

実施機関	管理法人(再委託元)	プロジェクト名	研究課題	学部・研究科	研究代表者名	選定年度
内閣府	国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)	戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)第3期/人協調ロボティクスの拡大に向けた基盤技術・ルールの整備	住宅・ビル等の人協調ロボティクスの社会実装技術開発	理工学部	大原 賢一	2023年度選定
文部科学省	国立大学法人東海国立大学機構(名古屋大学)	革新的パワーエレクトロニクス創出基盤技術研究開発事業(パワーデバイス領域)	課題a-cを活用したデバイス作製技術、回路システム領域との連携	理工学部	竹内 哲也	2021年度選定
文化庁	—	令和5年度大学・研究機関等との共同研究事業	「文化統計の体系化に関する調査・研究」に関する業務	経済学部	勝浦 正樹	2023年度選定
経済産業省	公益財団法人中部科学技術センター	成長型中小企業等研究開発支援事業	自動運転領域における低コストな3次元地図/3Dモデルデータ構築技術の研究開発	理工学部	田崎 豪	2022年度選定
	公益財団法人岐阜県産業経済振興センター	成長型中小企業等研究開発支援事業	省エネ・創エネ型高濃度窒素含有廃水浄化技術の開発と事業化	理工学部	竹内 哲也	2022年度選定
	公益財団法人岐阜県産業経済振興センター	成長型中小企業等研究開発支援事業	流動培養技術(微粉体麹化)を用いた食品廃棄物の高付加価値化(アップサイクル化)による機能性食品開発	農学部	加藤 雅士	2023年度選定
国土交通省 国土技術政策総合研究所	国立大学法人京都大学	国土交通省「河川防砂技術研究開発公募」/令和5年度 越水時における河川堤防表土部の侵食量を評価する技術の開発	越流侵食に対する河川堤防性能評価手法の高度化に関する技術研究開発	理工学部	岡本 隆明	2023年度選定
環境省	—	革新的な省CO2型感染症対策技術等の実用化加速のための実証事業	高効率・長寿命深紫外LEDの技術開発と細菌・ウイルス不活化および脱炭素効果の実証	理工学部	竹内 哲也	2021年度選定
	日本エヌ・ユー・エス株式会社	ジフェニルアルシリン酸等の健康影響に関する調査研究委託業務	ジフェニルアルシリン酸による神経症状発症メカニズムの解明に関する研究	薬学部	根岸 隆之	2015年度選定
国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)	—	研究成果展開事業/研究成果最適展開支援プログラム(A-STEP)産学共同(本格型)	高臨場感VR/ARディスプレイのための高輝度フルカラーモノリシックLEDの開発	理工学部	岩谷 素顕	2020年度選定
	—	研究成果展開事業/研究成果最適展開支援プログラム(A-STEP)産学共同(本格型)	高機能シス型アスタキサンチンエステル製剤の実用化研究	理工学部	本田 真己	2023年度選定
	—	研究成果展開事業/大学発新産業創出プログラム 大学・エコシステム推進型(STAR)スタートアップ・エコシステム形成支援	Tokai Network for Global Leading Innovation(Tongali)	—	大野 栄治	2021年度選定
	—	研究成果展開事業/大学発新産業創出プログラム 大学・エコシステム推進型(STAR)スタートアップ・エコシステム形成支援 EDGE-PRIME	Tokai Network for Global Leading Innovation(Tongali)	—	大野 栄治	2023年度選定
	—	大学発新産業創出基金事業(基金)/スタートアップ・エコシステム共創プログラム	Tokai Network for Global Leading Innovation(Tongali)	—	大野 栄治	2023年度選定
	—	国際科学技術共同研究推進事業/地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム(SATREPS)/低炭素社会の実現に向けた高度エネルギーシステムに関する研究	Thailand4.0を実現するスマート交通戦略/研究題目2公共交通の接続向上及びStreet for allを実現するスマート交通街区デザイン	理工学部	中村 一樹	2018年度選定
	—	ムーンショット型研究開発事業 通常型/2050年までに、AIとロボットの共進化により、自ら学習行動し人と共生するロボットを実現	一人に一台寄り添うスマートロボット/スマートロボット用ミドルウェアの構築	理工学部	大原 賢一	2021年度選定
	—	国際科学技術共同研究推進事業/戦略的国際共同研究プログラム(SICORP)/e-ASIA共同研究)先端融合	臨空スマートシティ:2050年に向けた地域経済システムのためのビジネス-ライフ再生的革新ゲートウェイハブ/DXユーザーインターフェースの開発	情報工学部	川澄 未来子	2023年度選定
	—	国際青少年サイエンス交流事業(さくらサイエンスプログラム)/Aコース:科学技術体験コース	名城大学薬学部の薬学研究と日本のくすりの文化を学ぶ	薬学部	高谷 芳明	2023年度選定
	—	国際青少年サイエンス交流事業(さくらサイエンスプログラム)/B.共同研究活動コース	持続可能な社会に向けたナノ材料に関する共同研究	理工学部	丸山 隆浩	2023年度選定

実施機関	管理法人(再委託元)	プロジェクト名	研究課題	学部・研究科	研究代表者名	選定年度
国立研究開発法人 新エネルギー・産業 技術総合開発機構 (NEDO)	————	燃料電池等利用の飛躍的拡大に向けた共通課題解決型産学官連携研究開発事業／水素利用等高度化先端技術開発	交流磁場誘起レーザー変位計を用いた金属異物非接触マイクロ断層検出システムの開発	理工学部	佐伯 壮一	2020年度選定
	————	NEDO先導研究プログラム／エネルギー・環境新技術先導研究プログラム	移動体への光無線給電システムの研究開発	理工学部	上山 智	2022年度選定
	————	NEDO先導研究プログラム／エネルギー・環境新技術先導研究プログラム	超高出力・多波長・集積型深紫外半導体レーザーの研究開発	理工学部	岩谷 素顕	2023年度選定
	————	官民による若手研究者発掘支援事業／マッチングサポートフェーズ	IoTに向けたイベントドリブ型ネットワークによる高速高精度分布センシング	理工学部	畑 良幸	2022年度選定
	脱炭素産業熱システム技術研究組合(DITS)	グリーンイノベーション基金事業／製造分野の熱プロセスの脱炭素化	製造分野の熱プロセスの脱炭素化	理工学部	武藤 昌也	2023年度選定
	自動車用内燃機関技術研究組合	グリーンイノベーション基金事業／CO2等を用いた燃料製造技術開発プロジェクト	乗用車および重量車の合成燃料利用効率の向上とその背反事象の改善に関する技術開発	理工学部	宇佐美 初彦	2022年度選定
国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構(AMED)	学校法人藤田学園 藤田医科大学	革新的技術による脳機能ネットワークの全容解明プロジェクト	精神疾患のヒトゲノム変異を基盤とする神経回路・分子病態に関する研究／モデル動物の作製と神経科学的検討	薬学部	野田 幸裕	2019年度選定
	国立大学法人東海 国立大学機構(名古屋大学)	難治性疾患実用化研究事業	microRNA病態に基づいたレット症候群の治療薬開発	薬学部	野田 幸裕	2021年度選定
国立研究開発法人 宇宙航空研究開発 機構(JAXA)	————	第3回地球観測研究公募共同研究	長期衛星搭載降水レーダデータによって精緻化する降水気候値の時間変化と空間的な不確実性	理工学部	広瀬 正史	2022年度選定
国立研究開発法人 産業技術総合研究所	————	————	草刈りロボット遠隔操作システムの開発	理工学部	大原 賢一	2023年度選定
福井県	公益財団法人若狭 湾エネルギー研究 センター	ローカル水素サプライチェーン構築に向けた技術研究事業	セラミックの水分解を利用した水素製造	理工学部	土屋 文	2020年度選定
公益財団法人若狭 湾エネルギー研究 センター	————	公募型共同研究／基礎研究	イオンビームを用いた充電時におけるリチウム電池内の正・負極間のリチウムイオン移動解析技術開発	理工学部	土屋 文	2023年度選定
学校法人藤田学園 藤田医科大学	————	藤田医科大学研究開発支援	ドップラーひずみ速度マイクロ断層可視化法とディープラーニングに基づく、自家培養軟骨移植診断ロボットシステムの開発	理工学部	佐伯 壮一	2023年度選定

※2023年度に契約を締結したもの、または研究費の受け入れがあったものを掲載しています。

2023年度 科研費交付者一覧

所属部局	研究種目・方式	研究代表者名	研究題目
法学部	基盤研究(C)	近藤 敦	国と自治体の多文化共生の比較研究—インターカルチャリズムとしての多文化共生学—
		久米 祐介	英語tough構文とその関連構文の通時的・共時的研究
		北見 宏介	合衆国の政府弁護士とその行動に関する規範の研究：法曹倫理規範の公法学的検討として
		佐藤 純恵	所得への下方ショックが教育投資を通じて世代の経済格差拡大へ与える影響に関する分析
		松本 俊太	アメリカ連邦議会内の政党組織の発達とその帰結：「疑似的な議院内閣制」への変化
		高松 淳也	日本の公共交通の持続可能性向上に向けた総合的研究
経営学部	基盤研究(C)	桑島 薫	保護施設の種類学 - 社会的保護から捉えるポスト家族の可能性
		五十畑 浩平	フランスの高等教育におけるデュアルシステム—その多様性の解明— フランスの高等教育におけるデュアルシステム—その飛躍的発展の要因を解明する—
		東田 明	サステナビリティ経営のためのマネジメントコントロールシステムの究明
		橋場 俊展	従業員による発言を担保する先進的マネジメントの理論的・実証的研究
		田代 樹彦	日本特有の経営者業績予想開示システムの変容と意義
経済学部	基盤研究(B)	山岡 隆志	カスタマージャーニーの質と顧客経験の関係性に着目した包括的研究
	基盤研究(C)	李 秀澈	原子力リスク分析に基づいた東アジアの原発安全協働体制構築
		門 亜樹子	バルベラック道徳思想のスコットランド啓蒙における継承と展開の研究
		川森 智彦	外部機会付きコンテストの研究
		蟹 雅代	研究開発投資の調整過程に関する実証的検証
		壺内 慎二	役員報酬の構成・決定プロセスの開示が企業価値に与える影響の実証分析
		野口 光宣	ブロックチェーン合意形成プロトコルのゲーム理論的安定性について
		勝浦 正樹	わが国における文化芸術統計の体系化・理論的枠組みの構築と体系的統計データ集の作成
		堀田 一弘	ディープラーニングによる植物画像認識の高精度化と時空間的要因解析
		新学術領域研究 (研究領域提案型)	堀田 一弘
基盤研究(S)	竹内 哲也	ワイドギャップ半導体における不純物ドーピング伝導制御からの脱却	
基盤研究(A)	岩谷 素顕	遠紫外線C波AlGaIn系電子線励起レーザー	
理工学部	基盤研究(B)	小高 猛司	自然災害時に脆弱化する「粘土もどき細粒土」人工地盤の安定性評価法と対策法の確立
		松田 和浩	ロッキング機構と各種ダンパーの併用による損傷制御型木質高層建物の開発
		内田 儀一郎	低温プラズマ高速反応流れ場を用いたナノ複合材料膜の超精密構造制御
		伊藤 昌文	安定同位体を用いたプラズマ支援バイオリファインリー科学的創成
		來海 博央	高ひずみ感度を有する超高解像度ワンショットラマン分光イメージングへの挑戦
		金子 真	One Hour Cell Exerciseの細胞接触面積増大現象の力学・細胞生理学視点からの解明
	基盤研究(C)	池本 有助	共鳴モード場に基づくテッセラティ・水中ロボットの身体設計論の確立
		岡本 隆明	RIM法による土石流内部の流木流下過程の解明と橋梁閉塞対策に関する特進研究
		柴田 将敬	変分的手法の発展と非線形偏微分方程式や凸幾何学への応用 変分的手法の発展と非線形偏微分方程式や凸幾何学への応用 ※R5年度～
		橋本 英哉	例外型単純Lie群G2の作用する空間の幾何構造
		長郷 文和	幽霊指標の解析によるノットコンタクトホモロジーのトポロジカルな性質の完全解明
		白黒 淳一	衛星測位のマルチパスに注目した都市環境の特徴抽出による測位の高精度化
		大原 賢一	可変プロペラアームを有するマルチコプタに関する研究

学術研究

所属部局	研究種目・方式	研究代表者名	研究題目
理工学部	基盤研究(C)	宮田 喜久子	CubeSatの熱伝達の不確定性低減と温度制約を考慮した運用計画立案手法の提案
		土屋 文	反跳粒子検出法を用いたリチウムイオン二次電池内の過渡的リチウム蓄積量評価法の確立
		竹田 圭吾	イオンビームオペランド計測による充放電中のリチウム電池内のリチウムイオン移動解析
		清水 憲一	大気圧ラジカル支援ミストCVDによる酸化亜鉛薄膜の合成とラジカル反応機序の解明
		中條 涉	高輝度放射光による短繊維GFRPのひずみ・結晶化度測定と疲労寿命評価手法の確立
		小林 健太郎	複数のLED光変調サブキャリアの空間コヒーレンス合成による高速可視光通信
		原田 守博	分散協調制御と無線分散ネットワークの技術融合に関する研究
		鈴木 温	豪雨に対する都市強靱化のためのポーラスコンクリート舗装の雨水流出抑制機能の評価
		寺西 浩司	世帯マイクロシミュレーションを用いた減災型集約都市構造への転換施策評価
		道正 泰弘	建設用3Dプリンターのためのセメント系材料の開発およびプリンティング方法の確立
		田浦 大輔	環境配慮型材料としてのフライアッシュのコンクリート材料への大量利用に関する研究
		堀田 一弘	外部刺激を駆動力として伸縮運動する二重らせん高分子の創製と応用
		増山 岳人	報酬関数の外挿による非同一な動作主体間での模倣学習
		太田 貴之	大電力パルススパッタ法を用いたカーボンイオンの高効率生成メカニズムの探求
		菅野 望	ヒドラジン誘導体/四酸化二窒素推進剤の自己着火に及ぼすエアロゾル凝集過程の検討
		武藤 昌也	個別の燃焼場特性に基づいたデータベース構築による高精度燃焼流動場予測
		山崎 彬人	パーソナルモビリティを対象とした搭乗者の視認対象物の可視化と周辺環境認知状態推定
		松本 幸正	GTFSを用いた階層型地域公共交通網の評価と地域への相応しさのAIによる判定
		米澤 貴紀	蓬左文庫蔵「伊藤満作家資料」の基礎的研究
		才田 隆広	単分子層モデル電極を用いた酸素還元反応に対する活性サイトおよび活性支配因子の特定
		今井 大地	次世代光源開発に資する窒化物系混晶半導体サブギャップ領域の光・熱物性制御指針解明
		西山 桂	毒劇物フリーな蓄光バイオマーカー (粒径20 nm) の開発と農作物罹病部の発光標識
		松村 昌紀	第二言語の多義語と類義語を包含する知識ネットワークの変容における創発的特質の解明
		齊藤 公明	超汎関数空間論に基づく確率解析による量子情報解析の新展開
		大西 良博	Gauss-Manin 接続を応用した偏微分方程式系による多変数 σ 函数の特徴づけの研究
		松原 剛	回転翼機の損傷許容設計法の基になる微小欠陥を想定した多軸実動荷重疲労評価法の開発
		仙場 淳彦	面内超弾性および面外高強度を実現する可変強化配向性複合材料の構築と検証
		成田 浩久	デジタルツインを革新する人から人への技能伝承を指向した技能データベース構築
		中西 淳	系の力学的特性を利用した劣駆動系ロボットの効率的な運動学習制御
		益田 泰輔	系統制約を考慮した電力市場制度設計と市場を介した制約違反対策
		井上 真澄	シミュレーションによるボルテックス・フォノン協調型スイッチング・デバイスの開発
		石川 靖晃	特異形態を有するコンクリート構造における合理的なプレストレス評価手法の開発
		市之瀬 敏勝	柱と杭が二方向に偏心する基礎の力学と設計法
	鈴木 昌弘	竜巻による列車転覆リスク評価のための空気力解明	
	三宅 克英	草食性陸ガニを用いた新規リグニンバイオマス分解システムの開発	
	田崎 豪	物体姿勢に関する分類結果を利用したロボットによる未知物体整理	
	遠藤 祐輝	ウェアラブルデバイスを用いた下肢行動態センシングによる座位行動の減少方策の開発	
	伯田 恵輔	耐量子計算機暗号の多項式数論における安全性評価手法の確立	
	大知 聖子	感情史のアプローチによる中国北朝墓誌の分析と文化的社会集団の復元	
	田中 清喜	再生核ヒルベルト空間の解析	
本田 真己	カロテノイド異性化反応の能動的制御技術の開発と加工への応用		
佐藤 布武	三陸沿岸漁村における明治以降の複層津波復興景観		
萩原 拓也	移転・分離を伴う漁業集落計画に関する研究		
村上 祐一	電界印加による冷凍保存下における固体食品の低温殺菌メカニズムの検討		
農学部	学術変革領域研究(A)	塚越 啓央	不均一生育温度に対する根の成長レジリエンスを司るVLCFAシグナル
	基盤研究(B)	新妻 靖章	海鳥類を利用した日本周辺の水銀暴露ホットスポット海域の解明
		平野 達也	イネ子実の登熟に対するソース機能増強を旨とした茎部蓄積デンプンの分解機構の解明
		大浦 健	ハロミックスPAHsの環境動態ならびに生体影響評価
		太田垣 駿吾	高需要バラ切り花品種の分子育種に向けたトゲ形成遺伝子と花弁形状制御遺伝子の同定
		藤原 和樹	植物病原細菌におけるアプシジン酸応答機構の解明
	基盤研究(C)	近澤 未歩	腸管IgA抗体の特異性制御を介した多糖の機能性解析と疾患予防効果の検証
		楳崎 友子	絶滅危惧種アオミガメの摂餌生態に関連した海洋ゴミ誤飲のリスク評価
		村野 宏達	弱酸基を持つ有機化合物の腐植物質への吸着に負電荷支援型水素結合が果たす役割の解明
		香村 恵介	運動発達の見える化を可能にする簡便な幼児の運動能力測定法の開発と効果検証
		兒島 孝明	固相培養条件下の麹菌における遺伝子の動的発現制御機構の解明とその応用
		加藤 雅士	糸状菌における鉄恒常性維持の主要転写因子HapXと相互作用する因子の機能解析
		松儀 真人	アンチセントロピペ制御を基点とする特異有機合成反応群の開発
		長澤 麻央	意欲障害モデルを用いた脳機能障害の栄養学的予防法の確立
		細田 晃文	銅耐性・還元細菌の育種による銅鉱物廃材の再資源化を目指した研究
		日野 輝明	都市内の河川敷と周辺緑地に生息する哺乳類の多様性に及ぼす連結化と分断化の評価
		藤 茂雄	ニンジン種子胚と胚乳細胞における植物ホルモン関連遺伝子の機能解析
		上船 雅義	植物の食害特異的な光シグナルが創出する生物間相互作用に関する基盤的研究
		濱本 博三	藻類由来高分子質を用いる酵素酸化反応システムの開発
		平見 慎太郎	棚田保全活動の社会的な評価形成過程とその持続可能性
挑戦的研究(開拓)		新妻 靖章	マイクロプラスチック汚染による海鳥類の健康被害リスクマップの構築
若手研究	森 智基	ツキノワグマによる集落周辺の利用形態の解明および軋轢リスク減策への提案	
	黒川 裕介	ガスフィルムとROL/パリアの耐水性性質は同時に新たな育種目標となり得るのか?	

所属部局	研究種目・方式	研究代表者名	研究題目
薬学部	基盤研究(B)	大津 史子	Withコロナにレジリエントに対応できるVR教材と学修DXプラットフォームの開発と評価
		打矢 恵一	肺MAC症の増加要因と抗菌薬に対する治療抵抗性の解明
			肺MAC症における薬剤耐性菌の迅速検出法の開発と新規抗菌薬の探索
		平松 正行	グリシンペタインのGAT2を介する認知症予防効果の検証
			認知症予防効果におけるペタイン-GAT2連関の分子機構解明
		岡本 誉士典	脂質メディエーターを介した乳がんの新規形成メカニズムの解明
		奥田 知将	ウイルスベクターに適した粉末製剤設計による経肺・経鼻投与型遺伝子吸入粉末剤の開発
		山田 修平	ヘパラン硫酸生成酵素の変異による遺伝病の発症機構の解明
		柳澤 聖	悪性胸膜中皮腫を対象とする新たな分子標的治療法開発
		能勢 充彦	甘草配合漢方剤の安全使用に向けた薬物動態データベースの構築
		野田 幸裕	脳発達過程における免疫活性化に伴う高次脳機能の病態解明
		西川 泰弘	無保護アミノ酸を利用する高効率ペプチド合成法の開発
		坂井 健男	環化-転位-環化カスケードを基盤とする縮環アルカロイドの合成研究
		原 脩	分子間Wacker型反応による位置選択的ヘテロ原子の導入法に関する研究
	基盤研究(C)	水野 初	1細胞オルガネラインジェクション誘導体化による高感度細胞内局在分子分析法の開発
		丹羽 敏幸	小児・高齢患者を指向した嚥下補助・計数調剤機能を有するキセログレル小球製剤の開発
		今西 進	質量分析による環境中ラン藻類迅速同定・分類法の開発
		岡宮 隆吉	独自PTSDモデル動物を基盤とした新規治療薬と発症予測バイオマーカーの開発
		吉見 陽	多階層(遺伝子-タンパク質-代謝物)の網羅的解析によるクロザピンの作用機序解明
		衣斐 大祐	幻覚薬の抗うつ関連行動における神経・分子基盤の解明
		根岸 隆之	有機ヒ素化合物の構造・細胞種・脳部位・毒性相関解析による脳神経系影響機序解明
		吉田 圭佑	Dixiamycin類の全合成および新規N-N結合形成反応の開発
		神野 透人	TRPA1依存的な侵害刺激の種差を生み出す分子構造の解明
		村田 富保	レギュカルチンの多機能性を基軸とした疾患発症メカニズムの解明と疾患治療法の開発
		水本 秀二	UDP代謝酵素の変異に起因する遺伝性神経・免疫・骨疾患における発症機序の解明
		亀井 浩行	統合失調症患者の効果的な社会参加を促すための認知機能評価の開発
加藤 美紀	がん細胞内異物解毒酵素のGSK3を介する新規発現調節機構の解明		
湯川 和典	放射状グリア細胞体トランスロケーションと脳梁形成におけるプレキシシンA3の役割解明		
若手研究	稲垣 孝行	喀痰からクラリスロマイシン耐性非結核性抗酸菌を直接検出する等温増幅法の開発	
	都築 孝允	運動が有する肥満・糖尿病の改善効果を増強するフィトケミカルの探索	
	青木 明	褐色脂肪細胞とベージュ脂肪細胞のミトコンドリア機能を促進する新たな治療法の探索	
	酒井 隆全	医療ビッグデータを複合的に用いた妊婦の医薬品安全性に関するエビデンスの創成	
都市情報学部	基盤研究(B)	田口 純子	オンラインゲームと社会を結びPBLを通じたメンタライジングの発見と支援
	基盤研究(C)	柄谷 友香	被災者主導の住宅移転再建メカニズムの解明と復興市街地の空間的・社会的評価
		杉浦 真一郎	2025年問題を見据えた地域包括ケアをめぐる圏域再編のあり方に関する地理学的探究
	若手研究	大野 栄治	住民参加型再エネ事業のための新たな環境経済評価手法の開発
森 龍太		旅行費用法に基づく仮想行動法による観光地全体のレクリエーション価値の計測の精緻化	
人間学部	基盤研究(C)	大野 沙知子	自動運転の社会的形成に関する分析とまちづくり手法の提案
		西村 善矢	交渉の産物としての文書：中世初期カンパニア地方の農地契約文書に関する比較研究
		伊藤 俊一	13~14世紀の気象災害と農業生産の変容-環境応答の歴史学の構築に向けて
	若手研究	畑中 美穂	新型コロナウイルス禍による救急活動のストレス：パンデミックに備えたストレス対策の提案
笠井 尚		学校図書館の空間整備と運営改善を図る総合的研究	
外国語学部	基盤研究(B)	原田 知佳	自閉スペクトラム症グレーゾーン者のサポートに資する社会心理学的アプローチ
		西山 亮二	認知活動活性操作パラダイムによる意味短期記憶保持メカニズムの解明
		西尾 由里	小・中・高・大へ接続する包括的発音に関する到達目標及び評価のガイドライン構築
	基盤研究(C)	津村 文彦	アジア・太平洋地域におけるイレスミ研究の再構築：感覚・情動・力から照射する身体
		岩井 眞實	日本の伝統演劇における「夢」の表象の研究：比較演劇の観点から
		豊田 周子	東アジア女性による日本語詩歌創作とその主体性に関する研究——台湾と朝鮮を中心に
	挑戦的研究(萌芽)	Rogers James	On the Creation of Software to Improve Japanese Learners' Academic English
		池 沙弥	Multimodal Discourse Analysis of Linguistic Landscapes: Life 'with Corona'
若手研究	Murray Aya	On the Efficacy of Process Drama as a Method of Teaching Collocations to Japanese University Students	
教職センター	特別研究員奨励費	西尾 由里	化石化した英語音声に対する超音波舌画像視覚データの効果
		柳沢 秀郎	キューバヘミングウェイ博物館写真真実資料検索データベース構築プロジェクト
	基盤研究(C)	宮下 大夢	アジア太平洋地域における虚数予防ガバナンスの形成
		安達 孝信	自然主義文学運動におけるパリ郊外の表象—印象派美術との共闘
情報工学部	基盤研究(B)	平山 勉	教師視点を生かしたコピキタス映像記録視聴システムを活用した授業実践能力育成支援
		木村 美奈子	幼児期における自己映像理解のゆらぎ—その遍在的理解から統一的理解への発達
	基盤研究(C)		幼児期における自己映像理解の発達モデルの構築
		曾山 和彦	教師が日常的に活用できる高校生の「かかわりの力」育成プログラム開発
若手研究	柳田 康幸	クラスター型デジタル空気砲による香り空間制御技術の研究	
	寺本 篤司	画像生成AIとの循環的・敵対的学習に基づく画像所見生成AIの開発	
	吉川 雅弥	AI知財保護・汚染モデル除去を指向した連合学習の実行プラットフォーム	
野崎 佑典	エッジデバイスを指向した耐タンパなAIの開発		

文部科学省経常費補助金事業(2022年度~2024年度)

■ 私立大学等研究設備整備費等補助金 研究設備(私大研)

設備名	学部・研究科等名	申請年度
走査型プローブ顕微鏡	理工学部	2023年度

学術研究

■ 総合研究所

産官学の共同による学際的な研究を推進。

総合研究所は学部学科や産官学の枠を超えて学際的な共同研究を推進するため、1994年に開設されました。研究所では研究テーマを「自然・環境部門」「人文・社会システム部門」「人間科学部門」「物質科学部門」の4領域とし、相互に連携しつつ、最高水準の研究成果をめざします。また、研究成果を広く社会へ還元するため、「総合研究所紀要」の発行や、セミナー・シンポジウムの主催などを通して、取り組みの内容を積極的に公開しています。また、学術研究奨励助成制度として、「プロジェクト部門」と「研究センター部門」、「大学領域指定研究支援部門」に分け、研究助成を行っています。最新の情報は本学ウェブサイトをご覧ください。

2024年度 総合研究所 研究課題一覧(2024年5月1日現在)

所属部署	申請代表者名	研究課題	申請代表者名	研究課題
法学部	足立 和彦	ギ・ド・モーパッサンのリアリズム美学の生成と発展	長谷川 乃理	韓国における商法典の成立と改正
	伊川 正樹	譲渡所得課税に関する日米法比較	前田 智彦	法使用行動に対する評価の規定要因の実証的研究 -サーベイ実験によるアプローチ-
	伊藤 亮吉	目的犯と処罰の前置化における理論的基盤の確立に関する研究	松田 恵美子	社会秩序維持方法追究のために制定法、道徳的規範、個人の自律力の相互関連を検討する
	飯屋 篤子	不正行為における被害法益と損害についての研究	柳澤 武	雇用社会における年齢規範の生成と変動 -日米の比較研究-
	近藤 敦	移民統合法制の比較研究	米田 勝朗	本学女子駅伝部員における適切なトレーニング方法、コンディショニング(栄養摂取・休養の取り方)方法の考究、構築に関する研究
	二本柳 誠	未遂犯処罰について -早すぎた構成要件実現を中心に		
経営学部	桑島 薫	女性を対象とした社会福祉施設の「記録ファイル」の視点と意味に関する実践人類学かつ社会福祉学かつ社会学的視点による質的研究	鳥居 弘志	高付加価値商品・サービスのマーケティング
	高山 晃郎	発展途上国の金融市場の進展に関する研究	東田 明	パラドックスを考慮した環境経営の究明
	田中 武憲	次世代技術が愛知のモノづくりに与える影響と課題解決のための地域連携モデルの構築	榎野 均	本学アメリカンフットボール部員における適切なトレーニング方法、コンディショニング(栄養摂取・休養の取り方)方法の考究、構築に関する研究
経済学部	伊藤 志のぶ	現代日本における地方活性化の諸問題と企業・行政システム	佐土井 有里	技術形成の国際比較(東南アジア・中国を中心に)
	李 秀澈	日中韓におけるカーボンニュートラルに向けた脱炭素政策の経済・産業への影響分析	杉本 大三	アジア諸国における農業・食料政策の変容と農業・農村
	太田 志乃	CASE変革期に問われる異分野技術・中小ベンチャー企業のあり方	谷村 光浩	「量子都市ガバナンス(Quantum Urban Governance)論」の構築
	勝浦 正樹	世帯属性による家計消費・生活行動の因果構造に関する実証的研究	名和 洋人	アメリカ経済政策史
	小泉 和也	本学ラグビー部員における適切なトレーニング方法、コンディショニング(栄養摂取・休養の取り方)方法の考究、構築に関する研究	山本 雄吾	公共交通における官・民パートナーシップのあり方
	斎藤 智美	ユーロの国際通貨としての発展		
人間学部	伊藤 康児	学校・家庭・地域社会における学習のシステムとプロセス	谷口 義則	日本列島における淡水魚類に対する温暖化の影響予測に関する研究
	加茂 省三	ヨーロッパ社会と国家によるグローバル影響の史的展開	畑中 美穂	災害救援者の惨事ストレスに関する研究
	塩崎 万里	学校における心の健康教育プログラム開発のための戦略的研究	船田 秀佳	英語、中国語、日本語の認知言語学的及びコミュニケーション的研究
	志村 ゆず	高齢者の回想法に関する研究		
都市情報学部	稲葉 千晴	20世紀における世界各地の紛争と平和の再検討	鈴木 千文	歌声のビブラートに着目したデフォルメの工学的解明に関する研究
	大野 栄治	温暖化影響および温暖化対策の経済評価	張 昇平	AIによる水環境と水環対策の評価
	鎌田 繁則	公的介護保険の導入と介護サービス供給体制に関する理論的・実証的研究	福島 茂	グローバル経済化のもとでのアジア大都市圏の居住形態とその形成メカニズム
	柄谷 友香	「中核被災者」を主体とした被災限界からの自律再建メカニズムの解明	宮本 由紀	地方自治体の子育て支援政策に関する実証分析
	杉浦 伸	数理計画学、オペレーションズ・リサーチの都市情報学、サービスサイエンスへの適用	森 龍太	環境変化に起因した行動変容の補足および評価のあり方に関する研究
	杉浦 真一郎	高齢者福祉・介護保険行財政の地理学的研究	山谷 克	デジタル信号の幾何学的構造を利用した数理モデルに基づく信号伝送アルゴリズムの開発
	鈴木 淳生	非完備市場モデルによる金融派生証券の評価	若林 拓	道路網の信頼性解析の効率化の研究
理工学部	赤堀 俊和	固溶化処理した歯科用セミアプレシヤ合金のミクロ組織と特異強化機構の関係	谷田 真	人間と構築環境との相互関係性に関する研究
	芦澤 怜史	屋外作業ロボットののためのロボットアーム動作計画および作業のためのエンドエフェクタによるハンドリングの研究	中條 渉	イメージセンサとLEDアレイによる双方向マルチアクセス可視光通信の高速化
	池邊 由美子	化学的溶液法を用いた超伝導フィラメントの作製と評価	塚田 敦史	車いすユーザの力学的シーティングシミュレーション
	石川 靖晃	コンクリート構造物の建設シミュレーターの開発	土屋 文	水素同位体イオン照射下におけるシリコン炭化物の動的照射誘起効果
	伊藤 昌文	プラズマバイオの基礎と応用に関する研究	道正 泰弘	持続可能な建築資材および工業副産物のリサイクルシステムに関する研究
	岩下 健太郎	連続繊維複合材を用いた補修・補強材料の開発	中島 公平	e-fuelを用いたニストロクDIEエンジンの潤滑評価
	宇佐美 初彦	樹脂/金属複合体の開発とその摩擦摩耗特性の評価	永田 央	光合成を規範とした物質変換システムの構築
	内田 儀一郎	高容量Liイオン電池実現のためのナノ構造負極材の開発研究	中村 一樹	カーボンニュートラルな交通を促進するウォークアブルシティの将来ビジョン評価

所属部署	申請代表者名	研究課題	申請代表者名	研究課題
理工学部	榎本 暁	日本人英語学習者による英語聴解における問題点とその訓練法に関する研究	成塚 重弥	グラフェンの電気配線への応用に関する研究
	遠藤 祐輝	近赤外線分光法による筋機能評価に関する研究	西村 尚哉	構造運動体の衝突安全性評価に関する研究
	大藏 信之	渦輪の変形崩壊過程における渦構造	橋本 英哉	例外的単純Lie群とSpinor群を用いた幾何学
	太田 貴之	プラズマを用いた高機能材料の合成プロセスに関する研究	原田 守博	流域における水循環の再生と水災軽減
	大塚 貴弘	鋼構造部材の座屈挙動に関する研究	日比野 隆	バイオエネルギー生産に寄与する微生物群の探索とその機能解析
	大知 聖子	中国北朝期における出土資料を用いた社会集団の分析	平岩 陸	粘弾塑性サスペンション要素法によるコンクリートの破壊挙動および収縮挙動に関する研究
	大原 賢一	農業自動化のための自律移動システムの開発	平松 美根男	カーボンナノ構造体の形成メカニズムの解明と成長の制御に関する研究
		RRI標準仕様に基づいたロボットシステム実装に関する研究	広瀬 正史	衛星搭載降水レーダーによる降水気候の抽出と評価
	小澤 哲也	グラスマン多様体の位相	藤井 幸泰	画像計測を用いた地質および地盤情報の可視化と数値化に関する研究
	景山 伯春	微生物・植物の環境ストレス応答の分子基盤解析	古川 裕之	時間発展流れ場中における超臨界分岐と攪乱発達過程の特定に関する研究
	片桐 誠之	水処理・水資源循環利用技術の開発	ペトロス・アブラハ	電子ビーム励起プラズマによる超硬質薄膜創製法の開発
	加藤 幸久	成人病の運動療法 ーライフスタイル変容による行動療法ー	堀田 一弘	ディープラーニングの異分野への応用
	上山 智	ワイドギャップ半導体によるトンネル接合を用いた新規短波長デバイス開発	本田 真己	環境低負荷型有機触媒を用いた新規カロテンノイド加工技術の開発
	菅野 望	化石代替燃料の着火特性解明に向けた反応過程の検討	益田 泰輔	再生可能エネルギーが大量導入された将来の電力系統における計画・運用・制御
	來海 博央	ナノ・マイクロレベルでの材料特性評価技術の開発による高信頼性・高機能性材料の設計技術の確立	松田 和宏	低～高層木質建物の耐震技術開発
	葛 漢彬	土木鋼構造物の耐震設計法の開発に関する研究	丸山 隆浩	カーボンナノチューブの結晶成長に関する研究
	久保 貴	乱流中の多成分物質の拡散・混合に関する研究		カーボンナノチューブの生成効率の向上と応用
	熊谷 慎也	細胞への刺激付与による生体反応の制御に関する研究	三浦 彩子	東アジアの禅宗建築史及び庭園史に関する基礎的研究
	小高 猛司	各種ゾオマテリアルの変形・強度特性の解明と地盤挙動解析への適用に関する研究	溝口 敦子	土砂動態を考慮した戦略的河川管理の提案
	才田 隆広	種々の酸化物を用いた燃料電池用電極触媒の開発と活性発現要因の解明	三宅 克英	草食性陸ガコの生態と生理活性についての解析
	齊藤 公明	確率過程の構成的研究と量子情報解析への応用	宮嶋 孝夫	窒化物半導体を用いた超短パルスレーザの研究開発
	齊藤 毅	東海層群の花粉群集と古環境	武藤 厚	空間構造の耐震性能評価と向上策に関する研究
	佐伯 壮一	皮膚組織粘弾性と毛細血管における微小循環相互作用のマイクロ断層可視化解明	村上 祐一	高電界を用いた食品殺菌技術に関する研究
	佐藤 布武	散居集落における伝統的デザイン手法、景観構成要素の地域差に着目して	村瀬 勇介	多孔質触媒体における水分吸着モデル及び水分輸送マルチスケールモデルの理論解析と数値解析
	清水 憲一	優れた成型性および信頼性を有する純チタン箔材の開発	村田 英一	次世代電力用遮断機の最適設計および開発
	神藤 定生	分子配向型の酵素を導入したシアノバクテリアによる二酸化炭素からのエチレン生産		電子間相互作用を考慮に入れた熱電子銃の数値解析に関する研究
竹内 哲也	窒化物半導体レーザダイオードに関する研究	森口 舞	カリブ諸国におけるナショナリズムの研究	
竹田 圭吾	光・プラズマ技術を用いた微細加工・ナノ材料合成に関する研究	山崎 彬人	ドライバの視認対象物の可視化と周辺環境認知状態推定	
田崎 豪	カメラによるロボットの移動作業技術の開発	楊 剣鳴	バイオメタンガスエンジン発電機の安定化・効率化およびプロトタイプによる検証	
田中 義人	遺伝子組換え植物を用いた環境ストレス応答機構の解析	六田 英治	単原子電子源の超高輝度化とシームレス・ナノ電磁界シミュレーションによる単一生体分子顕微鏡の設計	
田中 正剛	基質の構造特異的にゾル-ゲル転移する自己組織化ペプチドの開発	渡辺 孝一	鋼製橋梁の安全性と修復性の向上に関する研究	
情報工学部	川澄 未来子	画像の色彩情報における美的感性の特徴量の抽出	中野 倫明	認知機能の測定・評価技術の開発と高齢者の健康寿命向上への応用
	鈴木 秀和	シームレスな通信接続性と移動透過性を実現する通信アーキテクチャに関する研究	野崎 佑典	AIデバイスのセキュリティ対策手法に関する研究
	高比良 宗一	数値線形代数に関連した量子アルゴリズムに関する研究	坂野 秀樹	柔軟な声質制御が可能な歌唱音声合成システムの構築
	田中 敏光	スマートグラスに適した指先を見る必要がない片手親指による文字入力システム	柳田 康幸	五感インタラクションによる現実空間と情報空間の融合
	寺本 篤司	人工知能を用いた医用画像処理に関する研究	山田 啓一	少数データからの画像認識モデルの学習
農学部	天野 健一	ライン光ピンセットによる粒子間相互作用と粒子表面構造の理解	中尾 義則	果樹の環境適応能力とその獲得機構
	磯井 俊行	糸状菌の植物バイオマス分解酵素の探索	長澤 麻央	畜産物の摂取を介したストレス制御法の探索
	上船 雅義	植物が創出する生物間相互作用ネットワーク	新妻 靖章	野生動物のエネルギー・ダイナミクスに関する研究
	氏田 稔	糖鎖遺伝子と糖質関連タンパク質の構造と機能	橋本 啓史	サンバを頂点とした里山生態系の保全に関する研究
	大浦 健	未規制リスク因子の環境動態解析ならびに生体影響評価	濱本 博三	機能性物質の特性をいかしたバイオ触媒型反応法の開発と生物活性化化合物合成への応用
	奥村 裕紀	脊椎動物受精の分子メカニズムの解明と人為的制御法の開発	林 利哉	食肉の機能改善に関する研究
	長田 典之	暖温帯林に共存する落葉広葉樹の展葉フェノロジーの温暖化応答予測	林 義明	未利用資源を用いた家畜の生産性向上と家畜の新たな活用法に関する研究
	加藤 雅士	有用糸状菌の転写、翻訳、タンパク質の局在化調節機構の解明とその応用	日野 輝明	土壌と地上の食物連鎖におけるボトムアップ効果とトップダウン効果の解明

学術研究

所属部署	申請代表者名	研究課題	申請代表者名	研究課題	
農学部	黒川 裕介	エチレンのイネ葉身/葉鞘長に及ぼす生理学的効果	平尻 慎太郎	農山村景観の保全・管理に向けた合意形成の経済評価	
	近藤 歩	乾燥適応型光合成CAMの多様性とその制御機構に関する研究	平野 達也	イネの生育と炭素および窒素代謝制御に関する研究	
	志水 元亨	糸状菌の新規PARGの探索およびその生理学的役割の解明	細田 晃文	微生物の酸化・還元能を利用した金属回収技術に関する研究	
	鈴木 康生	非生物ストレスによる、園芸作物の品質保持に関する研究	前林 正弘	弾性表面波によるハイドロゲルの弾性特性に関する研究	
	田村 廣人	人工化合物の環境動態および毒性発現機構に関する研究	松儀 真人	生物活性物質合成を指向した新反応開発	
		リボソームプロファイリングと転写翻訳制御機構に関する研究	湊 健一郎	食品因子の生活習慣病予防効果における網羅的解析	
	近澤 未歩	自然免疫系の制御を介した食による健康効果の解明	武藤 将道	比較発生学的手法による今梅雨類の系統進化的研究	
	塚越 啓央	植物の根圏形成を司る分子メカニズムの解明とその応用	村野 宏達	汚染土壌中の疎水性有機化学物質の存在形態に土壌有機物が与える影響の解析	
	津呂 正人	ラベンダーの形質改変と精油生成関連遺伝子の探索に関する研究	森田 裕将	ツバキ属植物を中心とした園芸植物の分類学的研究	
	藤 茂雄	植物ホルモン超感受性レセプターの開発	安原 和也	認知言語学の総合的研究、農学英語（科学英語）の教材開発に関する基礎研究	
薬学部	飯田 耕太郎	医療人の養成を目指す6年制薬学教育における新しい教育技法の開発とその評価に関する研究	田口 忠緒	学習意欲の高揚を目的とした効果的な薬学教育技法の開発に関する研究	
	井藤 千裕	植物資源から新規抗がん作用物質の発見と応用研究	武永 尚子	高反応性炭素-ヨウ素結合を利用した新規変換反応の開発	
	衣斐 大祐	抗精神病薬の慢性使用が認知機能に与える影響	田辺 公一	終末期がん患者における在宅療養と病院療養の緩和ケアの質評価と費用対効果	
	今西 進	タンパク質翻訳後修飾の網羅的解析および新規分析手法の開発	築山 郁人	抗がん剤、分子標的薬の最適投与設計を可能とする分子診断法開発基盤研究	
	植田 康次	生体関連元素・低分子の総体評価を基盤とした毒性・衛生化学	都築 孝允	運動による肥満・糖尿病の改善効果におけるレドックス制御機構の役割	
	打矢 恵一	サルモネラ菌の病原因子の機能解析と新規薬物療法への展開	豊田 行康	生体内のグルコースセンシングメカニズムの解明	
		非結核性抗酸菌の増加要因の解明と予防および治療への応用	西川 泰弘	カチオン性複素環を電子伝達に利用する新規合成手法の開発	
	梅田 孝	名城大学体育会運動部員のスポーツ医学手法を用いた強化、育成方法の考案と実践に関する検証	丹羽 敏幸	薬剤ナノ粒子設計のための製剤基盤技術の開発	
		本学運動部員における適切なトレーニング方法、コンディショニング（栄養摂取・休養の取り方）方法の考究、構築に関する研究	根岸 隆之	環境化学物質ばく露が脳の構造と機能に与える影響の包括的評価系の確立：遺伝子発現から高次脳機能まで	
	大津 史子	患者の自覚症状（訴え）及び患者背景からの医薬品副作用の推測に関する研究	能勢 彦彦	漢方剤の科学的解析-薬効の有用性評価とその作用機序の解明	
	岡本 浩一	製剤の肺内分布を考慮した遺伝子微粒子吸入剤開発	野田 幸裕	精神疾患における情動・認知障害と神経変性に関与する脆弱分子の探索・モデル動物と臨床からのアプローチ	
	奥田 知将	肺内ナノ粒子形成型吸引粉末剤の開発	橋本 和宜	糖尿病治療薬による副作用発現機構の解明	
	小田 彰史	残基の変異タンパク質立体構造に与える影響についての分子シミュレーション	長谷川 洋一	薬剤師需給及び薬剤師の専門性に関する研究	
	風岡 顕良	薬用植物および生薬の名物学・本草学研究 -日本および中国における生薬の基原の変遷	原 脩	低環境負荷型反応剤の開発と応用	
	加藤 美紀	薬物動態関連因子を介した薬物相互作用ならびに毒性発現に関する研究	半谷 眞七子	患者満足度の向上を目指したコミュニケーションスキルトレーニングの構築	
	金子 美由紀	本学バレーボール部員における適切なトレーニング方法、コンディショニング（栄養摂取・休養の取り方）方法の考究、構築に関する研究	日坂 真輔	脂質過酸化由来の修飾構造をバイオマーカーに用いた生薬及び漢方剤の科学的解析	
	亀井 浩行	精神疾患における認知機能評価法の構築	平松 正行	認知症モデル動物に発現する遺伝子の固定に関する研究	
	北垣 伸治	効率的な分子変換及びそれを実現する触媒の開発研究	間宮 隆吉	脳機能障害改善物質の探索と食品および医薬品への応用	
	栗本 英治	タンパク質の特性を応用したバイオ分子センサーの開発	水野 初	1細胞質量分析法によるオルガネラメタボロミクスの開発	
	小島 良二	腎臓疾患の発症・進展に関与する新規遺伝子の同定	水本 秀二	グリコサミノグリカン糖鎖の合成異常による遺伝病とがん・アルツハイマー病の解析	
	小森 由美子	蛇毒、および真菌由来酵素の生理作用に関する研究-細胞障害性を中心として-	村田 富保	多機能性タンパク質レギュラチンの病態生理的役割に関する研究	
		ヒト常在菌によるバイオフィルム形成に関する研究	守屋 友加	遺伝子診断に基づく小児薬物療法の最適化に関する研究	
	近藤 啓太	機械的乾式処理法による機能性微粒子製剤の粒子設計	柳澤 聖	クリニカルプロテオミクス解析による悪性腫瘍の新規分子診断・治療法の開発基盤構築	
	酒井 隆全	医療ビッグデータを用いた妊婦の医薬品安全性に関する薬剤疫学研究	山田 修平	ヒアルロニダーゼの医療応用を指向した生化学的研究	
	坂井 健男	電子求引的シクロペンタジエニド塩を用いた新規反応開発	湯川 和典	脳内ホメオスタシスにおけるミクログリア内セマフォリン信号伝達機構の役割解明	
	神野 透人	ゲノム編集による実験動物モデルの精緻化に関する研究	吉田 圭佑	キララなピリジンN-オキシド触媒の創製とエナンチオ選択的シリル化への展開	
	高谷 芳明	食品中の機能性分子の探索研究	輪島 文明	ヒト組織感染モデルを用いた治療効果を指標とする新たな治療薬評価系の開発	
	外国語学部	グレゴリー・マイネハン	英語教育教材づくりとプログラム開発	西尾 由里	言語能力及び異文化感受性における国際共修の研究
		鈴木 裕輔	戦後における石橋湛山の研究活動に関する総合的研究	藤原 康弘	国際英語論と批判的応用言語学に基づく英語教育・教員養成に向けて
		富岡 徹	日本人の身体・運動特性を鑑みた運動指導について	柳沢 秀郎	アーネスト・ヘミングウェイの「書き込み」資料に基づいた研究
	理工学研究科	飯島 澄男	ナノカーボン材料の生成と物性評価	金子 真	人工心臓と人工毛細血管を使った赤血球変形能評価
		金子 真	生体の高速周期運動の内眼による可視化と定量的評価		赤血球変形能と脳活性度に関する基礎的研究
	教職センター	片山 信吾	確かな実践力を育成する教員養成に関する総合的な研究	谷口 正明	アジア圏におけるSTEM教育に関する国際共同研究
		曾山 和彦	教職課程履修学生の自尊感情、ソーシャルスキルを高める体験型授業の検討		

2024年度 総合研究所研究センター

研究センター名	研究代表者名	選定年度〔継続年度〕	研究センター名	研究代表者名	選定年度〔継続年度〕
プラズマバイオ応用研究センター	理工学部 伊藤 昌文	2021年度～2023年度 〔2024年度〕	光デバイス研究センター	理工学部 竹内 哲也	2022年度～2024年度※
ダイバーシティ・リサーチ・センター	法学部 近藤 敦	2020年度～2022年度 〔2023年度～2024年度〕	ナノマテリアル研究センター	理工学部 丸山 隆浩	2022年度～2024年度※
自動車部品電動化戦略研究センター	経営学部 田中 武憲	2023年度～2025年度	自然災害リスク軽減研究センター	理工学部 小高 猛司	2022年度～2024年度※
カーボンニュートラル物質改質技術研究センター	理工学部 竹田 圭吾	2023年度～2025年度	次世代エネルギーマテリアルイノベーションセンター	理工学部 内田 儀一郎	2023年度～2025年度※
メディカルAI研究センター	情報工学部 寺本 篤司	2024年度～2026年度	健康・スポーツ医学科学研究センター	薬学部 梅田 孝	2023年度～2025年度※
疾患予防食科学研究センター	薬学部 村田 富保	2022年度～2024年度			※3年毎更新の継続事業

2024年度 総合研究所 学術研究奨励助成制度課題

1. 「研究促進事業費」

学部	研究代表者名	研究課題	学部	研究代表者名	研究課題
理工学部	村瀬 勇介	多孔質媒体における水分輸送モデル及び関連モデルの数値解析	農学部	前林 正弘	糖水溶液の粘度と水蒸気圧の精密測定による溶液構造変化の調査
	熊谷 慎也	細胞膜に対する大気圧プラズマ照射効果の解析		鈴木 康生	エタノールによる、果実の追熟メカニズムの解明
	赤堀 俊和	高密度格子欠陥を導入した生体構造用準安定β型チタン合金の創製	薬学部	小島 良二	タウ遺伝子アイソフォームの発現調節における分子シャペロンOsp94関与の分子メカニズム
農学部	奥村 裕紀	培養細胞に対するニワトリZP糖タンパク質の遺伝子発現調節機構の研究	都市情報学部	稲葉 千晴	日露戦争120周年：外交と軍事の再検討
	武藤 将道	不均一生育温度制御系デバイスを用いたVLCFAシグナルによる根の成長制御メカニズムの解明	情報工学部	高比良 宗一	実現が間近な量子コンピュータのための標準固有値問題に対する周回積分型解放の開発
	林 利哉	糸状菌の鉄恒常性維持機構におけるスーパーオキシドイースターゼSodAの新たな役割			

2. 「研究成果展開事業費」

学部	研究代表者名	研究課題	学部	研究代表者名	研究課題
理工学部	今井 大地	ワイドキャップ半導体薄膜におけるギャップ内微笑光吸収過程の定量評価手法構築	薬学部	水野 初	細胞内ミトコンドリアメタボロミクスの開発
	寺西 浩司	建設用3Dプリンターに用いるモルタルの高機能化および調合設計体系の構築		坂井 健男	触媒を用いない環境調和型カスケード反応を駆使したNeotuberostemonineの合成研究
農学部	塚越 啓央	不均一生育温度制御系デバイスを用いたVLCFAシグナルによる根の成長制御メカニズムの解明		山田 修平	腎糸球体たこ足細胞特異的Ext13 ノックアウトマウスの解析
	加藤 雅士	糸状菌の鉄恒常性維持機構におけるスーパーオキシドイースターゼSodAの新たな役割		間宮 隆吉	PTSD発症特異的分子特定とバイオマーカーへの応用
	濱本 博三	藻類由来高分子質を用いるヨウ素反応剤利用型反応システムの設計		根岸 隆之	有機ヒ素化合物によるアストロサイトの異常活性化の原因を探るトランスクリプトミクス

3. 「出版・刊行助成事業費」

学部	研究代表者名	研究課題(書名)
理工学部	大知 聖子	計量的分析を用いた北魏史研究

4. 「若手研究者支援事業費」

学部	研究代表者名	研究課題/書名/センター名	学部	研究代表者名	研究課題/書名/センター名
理工学部	近澤 未歩	T細胞非依存的に腸管IgA産生を誘導する食品成分の探索	情報工学部	野崎 佑典	エッジAIデバイスの認識阻害攻撃への対策手法の開発
	黒川 裕介	アマゾンを原産とする野生イネ [Oryza grandiglumis] の水中空気層(ガスフィルム)に着目した耐水性機構の解明			

5. 「領域指定研究基盤形成支援事業費」

学部	研究代表者名	研究課題(書名)
理工学部	才田 隆広	酸化物系触媒を用いた高分子材料の電気分解

6. 「領域指定研究支援事業費」 [事業期間:2年間]

学部	研究代表者名	研究課題/書名/センター名
理工学部	太田 貴之	エレクトロクロミック材料を用いた全個体型スマートガラスの作製 [1年目]
	土屋 文	二酸化炭素吸収セラミックスを利用したメタネーション技術開発研究 [2年目]
農学部	松儀 真人	空気で駆動する環境保全型酸化触媒システムの開発 [2年目]

教育活動

■ FD(Faculty Development)^(注) ～学生の主体的な学びを促す大学教育をめざして～

名城大学では、各学部等がそれぞれ展開するFD活動とともに、全学的なFD活動を推進しています。また、大学教育開発センターは、大学教育開発センター委員会と協働し、各学部等のFD活動を支援するとともに、このFD活動の中核を担い、教育内容および教育環境の改善、教育技法の改善・向上をめざし、学生による授業改善アンケート、FD・SDフォーラム、FD・SD学習会、新任教員FD・SD研修会、教育年報及びFD・SD活動報告書の発行、教育技法の改善等を目的としたセミナー等への派遣、教育功労賞表彰などを企画し、実施しています。

注:FD(ファカルティ・ディベロップメント)とは、中央教育審議会答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」(2012年8月)によると、教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取り組みの総称とされています。単に授業内容・方法の改善のための研修に限らず、広く教育の改善、更には研究活動、社会貢献、管理運営にかかわる教員団の職能開発の活動全般を指すものとしてFDの語を用いる場合もあります。

1 授業改善アンケート

2000年度から全学一斉に「授業改善アンケート」を実施しています。2003年度には東海三県の大学では初めて民間企業で顧客満足度を測るために用いる「CS分析」を本学教員が独自で開発した手法で授業評価に導入しました。2005年度には、学生がアンケートの項目の作成にかかわり、学生の視点から教育改善に必要な情報を得るための授業改善アンケートを実施しました。その後、2016年度からは、効率的な授業評価を行う手法の一策として、webを利用した授業改善アンケートを試行的に実施し、2017年度には本格的にwebアンケートの実施へと移行しました。

2 FD・SDフォーラム

学内外から講師を招き、基調講演やワークショップを行い、全学的な教育改善の動きを共有する場として位置づけています。

3 FD・SD学習会

今日、高等教育に係る教育改革については、中央教育審議会の答申をはじめとする多くの提言がなされています。本学では、このような情報を共有する場として、喫緊の課題をテーマに開催しています。また、新しい教育技法を体験的に学ぶ場とする企画も実施しています。

4 新任教員FD・SD研修会

主に新任の教員を対象として、FD・SD研修会を実施しています。大学における授業設計やシラバス作成方法など、新任教員に必要なテーマを企画し、教育の改善、向上に努めています。

5 教育年報及びFD・SD活動報告書の発行

教育年報では、本学における優れた教育実践やその成果を共有・蓄積し、広く教育の質の向上に資することを目的として、教育実践報告を掲載しています。また、FD・SD活動報告書により学内外に本学のFD活動及び教育に関わるSD活動について、情報発信に努めています。どちらも大学ウェブサイトを通じて広く公表をしています。

6 教育技法の改善等を目的としたセミナー等への派遣

全国の国公立大学において実施されたFDに関連した企画・研修会・講演会へ教職員・大学院生を派遣し、FDにかかわる取り組みに生かしています。



7 教育功労賞制度

教育功労賞制度は、教育改善に対する意識を高め、組織の活性化を図り、教育の質の向上に資することを目的として、教育活動および教育改善に貢献した教職員を学長が表彰する制度です。2023年度は、以下の取り組みを表彰しました。

区分	候補者名・グループ名	所属学部等	推薦対象となった活動・テーマ
教育功労賞	交換留学生受入れ 国際日本学・日本語プログラム	外国語学部 国際化推進センター	交換留学生受入れ 国際日本学・日本語プログラム
教育功労賞	新学部検討ワーキンググループ (PBL導入関係)	情報工学部	情報工学部設置に伴うPBL導入の検討
教育功労賞	都竹 愛一郎	理工学部	「モノづくり」を担う人材育成のための実感教育
教育功労賞	高井 宏之	理工学部	アジア4都市の超高層住宅に関する研究成果の社会への普及

■ 入学前教育

学校推薦型選抜等、早期の合格決定者を対象に大学への導入教育の一環として、入学前オリエンテーション及び入学前学習プログラム(MECプログラム)を実施しています。これは、高校までの学習歴等による入学生の学力のばらつきを解消およびそれに伴う学習転換期における円滑な大学教育との接続を支援し、学生の大学における学習意欲の向上をめざすものです。MECプログラムは2001年度から実施し、現在はオンライン授業を受講し、web上で課題を提出するプログラムとなっています。受講者は、各学科で指定されている講座の中から3講座を選択することができます。各講座は、「プレテスト」、「オンライン授業・演習」、「課題提出」、「添削結果の確認・オンライン授業復習」、「アフターテスト」の5つのステップで構成されています。



■ 入学後学習支援

これまでも各センターにおいて、学生生活の支援・相談、進路選択・就職活動の支援・相談、課外活動に関する相談、健康支援・相談、留学および留学生の支援・相談等のさまざまな学生への支援活動を展開してきましたが、大学教育開発センターは、より豊かな学生生活の実現を目的として、2014年度から入学後学習支援として、「名城サプリメント教育」と「学習サポートルーム」を開設しました。

1 名城サプリメント教育

高校課程の復習機会を提供することにより、基礎学力向上および大学の授業の理解度向上を目的として開設しています。

現在は、学生のニーズに応え、対面実施からスタディサプリを活用したオンデマンド開講に移行中であり、スタディサプリでは、学部・学科が指定した講座の中から、自分が苦手だと感じる講座を学生が選択して受講できるようになっています。

(2024年度は薬学部向け物理を対面で実施しています。)



2 学習サポートルーム

学習の意欲や方法に関して特に問題を抱え、積極的かつ効果的な形で正課の学習に参加できていない学生を対象に、直面する諸問題を一緒に考え、解決をアシストすることを通して、学生自身が自立した学習の意欲、方法を身につけ、充実した学生生活が送れるようサポートすることを目的としています。

また、学習サポートルーム内限定で、スタディサプリを活用した学習も可能です。



教育活動

■ 出前講義

本学では、知的財産の地域社会への還元および社会的貢献に寄与することを目的として、教職員が地域に出向いて授業を行う出前講義を実施しています。出前講義は全学部が対象であり、広範なテーマでの授業が可能です。

地域の方々には生涯学習の機会提供として、また、高校生には高校卒業後の進路をどのような分野で学んでいくかを考える機会として大学受験のモチベーションづくりに役立てられ、実施のご要望を毎年数多くいただいています。

最新情報、申込方法等については、本学ウェブサイトにてご案内しています。

■ 過去5年間の出前講義実施件数

年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
高校	51件	55件	60件	58件	66件
地域	27件	9件	14件	20件	25件

■ 2023年度 出前講義テーマ一覧(抜粋) (2024年3月末現在)

分野	学部等	講師	テーマ
政治	法学部	伊藤 亮吉	国民の司法参加と裁判員制度
経営	経営学部	田中 武憲	愛知と日本のものづくり
心理	人間学部	原田 知佳	怒りのコントロール～子育てに生かす心理学～
外国語	外国語学部	鈴木 裕輔	オリンピックとメディアの発達
		藤原 康弘	これからの英語教育
数学	理工学部	小澤 哲也	楕円
		村瀬 勇介	ゲームの必勝法を考えよう～「必勝」になるふしぎに触れる～
	教職センター	竹内 英人	親子さんすう・数学教室
電気・電子	理工学部	村田 英一	次世代薄型テレビ フィールド・エミッション・ディスプレイの最新動向
メカトロニクス		平松 美根男	役に立つプラズマ
建築		楊 剣鳴	ロボットの過去・現在・未来
環境	都市情報学部	武藤 厚	空間の構造デザイン～歴史的建築から現代のドームまで～
	人間学部	大野 栄治	住民参加型の再エネ事業とまちづくり
農学	農学部	谷口 義則	水辺の生態系を守るには?(英語による講義も可能)
		氏田 稔	血液型占いは当たるのか?
		津呂 正人	組織培養を用いた植物の大量増殖と遺伝子組換え
		林 利哉	ソーセージやチーズの科学
薬学	薬学部	松儀 真人	有機化学おもしろい!
		大津 史子	くすりとの正しいつきあい方
		小森 由美子	予防接種で感染予防
		高谷 芳明	身のまわりの天然資源に薬の素をさがそう
		田口 忠緒	放射線って何だろう? 放射線は怖いの?
		湯川 和典	ミクログリア細胞と脳の病気
平松 正行	身近なくすりに興味を持とう ー薬の作用と副作用ー		

■ 飛び入学制度

17歳で大学入学・20歳で大学院入学も可能

理工学部数学科では、特に強い勉学意欲を持って努力することができ、数学およびその関連分野において研究・教育を志す高校2年生の課程修了者(満17歳)を対象とする「飛び入学制度」を導入しています。数学分野での飛び入学制度は全国初の試みで、これまで、大学院生、教員等社会人として卒業生を送り出してきました。入学後は、数学科の教育課程での学習により数学の理解を深めるとともに、各学生の個性と研究テーマを大切に育てていけるように、学生、教職員、一般市民の皆さんとともに、公開セミナーや小中学生向けの講座での体験を通して、主体的な学びをすすめています。また、大学院への飛び入学制度を利用すれば、20歳の時点で大学院への進学も可能となります。

■ これまでの入学者数

年度	2001～2024年度
人数	27人

〈卒業生の進路〉

- ・名城大学大学院
- ・国公立大学大学院
- ・高校教員
- ・一般企業

■ 公開講座等

本学では、学術研究の成果を地域社会へ還元できるよう、本学専任教員を中心に、学外から著名な専門家を講師に招いて、多彩なテーマの公開講座を開講しています。また、実学重視の科目を配し、企業等と連携して寄附講座や連携講座を開講しています。社会の第一線で活躍する実務家、研究者、技術者等を招き講義を行うことで、学生の視野を広げ興味を奮い立たせることを目的としており、学生たちに大きな刺激を与えています。

2023年度に実施した寄附講座等

法学部

名城大学法学部の卒業生による進路支援講座「名城進路講座 大志を抱け」

開催日	テーマ	開催日	テーマ
4月11日	オリエンテーション・レポート作成法	6月6日	夢をつかむために
4月18日	自分を見つめる・名城大学のルーツ	6月13日	名城生の強みと弱み
4月25日	自分の人生をプロデュースしよう	6月20日	これまでの大学生活で取り組んだこと
5月2日	時間は有限である ～何を決め、何を捨てるか～	6月27日	連覇の裏側：目標の達成
5月9日	起業家・国家資格有資格者の失敗と現代社会の厳しい実態について	7月4日	スピーチトレーニング
5月16日	大学生の政治入門	7月11日	発表①
5月23日	外国生活や仕事で乗り越えてきたこと、今に生かしていること	7月18日	発表②・総まとめ
5月30日	"大志を抱け"で学んだこと、活かされたこと		

名城大学法学部の卒業生による進路支援講座「名城進路講座 考動力」

開催日	テーマ	開催日	テーマ
9月19日	オリエンテーション 進路選択と進路決定、進路へ向けた計画的な取り組み	10月17日	企業側から見た学生 業界研究・企業研究 起業家・経営者から見た学生 起業家・経営者が求める人材
9月26日	進路を決めるにあたってやるべきことは？ 今から始める就職活動	10月24日	民間企業のしごと 人事担当者は学生のどんなところを見ているか？ 営業職ってどんな仕事？ 会社にはどんな仕事があるのか？
10月3日	自分を未来へ導こう 今すぐ役立つ自己分析と自己PR術	10月31日	公務員の魅力 第1部 県庁・市役所職員 第2部 警察官
10月10日	コミュニケーション能力 自己PR実践講座	11月7日	豪華士業セミナー 法律を活かした仕事の実態 総まとめ

千賀修一先生寄附講座「千賀修一先生寄附講座「法律入門」

開催日	テーマ	開催日	テーマ
4月10日	開講にあたりー法律学の学びへの誘いー	6月5日	法律入門(司法書士の立場から、法律を学ぶことの意義について講義)
4月17日	法律入門(弁護士立場から、法律を学ぶことの意義について講義)	6月12日	法律入門(弁護士の立場から、法律を学ぶことの意義について講義)
4月24日	法律入門(元検事の立場から、法律を学ぶことの意義について講義)	6月19日	法律入門(弁護士の立場から、法律を学ぶことの意義について講義)
5月1日	法律入門(司法書士の立場から、法律を学ぶことの意義について講義)	6月26日	法律入門(土地家屋調査士の立場から、法律を学ぶことの意義について講義)
5月8日	法律入門(不動産鑑定士の立場から、法律を学ぶことの意義について講義)	7月3日	法律入門(弁理士の立場から、法律を学ぶことの意義について講義)
5月15日	法律入門(弁護士の立場から、法律を学ぶことの意義について講義)	7月10日	法律入門(元市長の立場から、地方自治の実情を学ぶことの意義について講義)
5月22日	法律入門(税理士の立場から、法律を学ぶことの意義について講義)	7月17日	将来の進路と職業及び実務における法学スキルについて
5月29日	法律入門(社会保険労務士の立場から、法律を学ぶことの意義について講義)		

愛知県土地家屋調査士会提供寄附講座「不動産登記と土地家屋調査士」

開催日	テーマ	開催日	テーマ
4月12日	ガイダンス・表題登記	6月21日	土地家屋調査士と相続1
4月19日	登記制度と不動産登記法	6月28日	土地家屋調査士と相続2
4月26日	建物に関する表題登記(普通建物)	7月5日	表題部に関する登記実務の流れ(他法令との関連)
5月10日	建物に関する表題登記(区分建物)	7月12日	土地の境界立会に関する実務
5月17日	土地に関する表題登記1	7月19日	デスクワークとフィールドワーク
5月31日	土地に関する表題登記2	7月25日	ドローン、3Dレーザーキャナを使用した最新測量
6月7日	測量に関する理論と実務1	7月26日	登記制度の遍歴
6月14日	測量に関する理論と実務2		

教育活動

理工学研究科

特別講義

開催日	テーマ
5月11日(木)	日本の電子産業を支える単結晶 ～単結晶の持つ周期構造と電磁波との相互作用～
5月25日(木)	「シリコン」の可能性 ～造り、創った20年 研究、開発、生産を渡り歩いて～
6月8日(木)	特許の基礎と実情
6月24日(土)	青色半導体レーザの研究開発の歴史と進展 ～ソニーにおける研究開発を通して～
7月6日(木)	IoTデバイス応用に向けたナノカーボンの材料開発
7月20日(木)	エネルギー問題とその解決に貢献するエネルギーデバイス
7月27日(木)	量子力学の原理を活用した計算技術

開催日	テーマ
5月6日(土)	社会における技術者の役割
5月27日(土)	持続性社会のための材料・製造技術
6月10日(土)	電池と軽量化技術 ～自動車の未来を造るために～
6月15日(木)	燃料電池の最近の進歩 燃料電池の課題と研究への期待
6月22日(木)	燃料電池開発の背景 燃料電池の概論
6月29日(木)	成形加工技術・材料の現状と将来 -自動車部品を事例に-
7月13日(木)	プリントエレクトロニクス ～印刷技術で電子回路を製造する～

(令和5年度実績)

社会連携センター

アステラス製薬株式会社提供講座「リーダーシップ開発プログラムiMPACT!」

開催日	テーマ	開催日	テーマ
5月29日(月)	リーダーシップイントロ-課題発表キックオフ-	6月19日(月)	進捗発表-ビジネス実践プラン発表
6月5日(月)	チームビルディング	6月26日(月)	最終プレゼンテーション チームと個人のリーダーシップ振り返り
6月12日(月)	問題・課題・解決策のインプット		

アビームシステムズ株式会社提供講座「リーダーシップ開発プログラムiMPACT!」

開催日	テーマ	開催日	テーマ
11月15日(水)	リーダーシップイントロ-課題発表キックオフ-	12月6日(水)	進捗発表とフィードバック
11月22日(水)	チームビルディング	12月13日(水)	最終プレゼンテーション チームと個人のリーダーシップ振り返り
11月29日(水)	問題・課題・解決策のインプット		

2023年度 公開講座一覧

学部主催の公開講座

学部等	講演テーマ	開催日	講師
法学部	独占禁止法入門	12月2日(土)	法学部准教授 川原 勝美
外国語学部	ドラマによる英語学習 (Drama Techniques in English Language Learning)	10月7日(土)	外国語学部教授 岩井 眞實 外国語学部准教授 アヤ・マレー 名城大学附属高等学校教諭 萩島 望
人間学部	人は地形に片思い?～プラタモリ制作現場から～	9月30日(土)	「プラタモリ」番組プロデューサー 亀山 暁 氏
都市情報学部	音風景、音環境を想う 長良川流域の持続可能な地域づくりと観光	6月9日(金) 11月3日(金)	都市情報学部教授 西野 隆典 NPO法人ORGAN理事長 蒲 勇介 氏
情報工学部	Raspberry PiとNode-REDで始めるIoTシステム開発入門	12月9日(土)	情報工学部准教授 鈴木 秀和 Node-RED User Group (日立製作所) 横井 一仁 氏 中京テレビ放送株式会社 上田 茂雄 氏
理工学部	超高層住宅の未来絵図-アジア4都市からみた日本	11月18日(土)	理工学部教授 高井 宏之 京都美術工芸大学教授 高田 光雄 氏 (株)市浦ハウジング&プランニング代表取締役社長 川崎 直宏 氏 千葉大学教授 鈴木 雅之 氏
農学部	<食と農の安全を考える> -身近な食材、見える安心- GLOBALG.A.P.とイオンアグリ創造の取り組み 食材の道のり レタス篇	6月3日(土)	イオンアグリ創造株式会社 総務部品質管理マネージャー 賀川 健 氏 日本マクドナルド株式会社 サプライチェーン本部 食品安全・品質システム部コンサルタント 森合 亮 氏 日本マクドナルド株式会社 サプライチェーン本部 食品安全・品質システム部最近マネージャー 渡邊 良輔 氏 デリカフーズ株式会社 東京営業所エリア営業部 課長代理 藤川 雅恵 氏
	<生物・人・自然の調和を考える>有機農業と環境	11月18日(土)	元愛知県農業総合試験場環境基盤研究部長 瀧 勝俊 氏 愛知県農業総合試験場 主任研究員 田中 雄一 氏
	<フィールドの科学>バラ科果実の品種育成と栽培を楽しむ	11月11日(土)	農学部准教授 太田垣 駿吾 名古屋大学生命農学研究所名誉教授 松本 省吾 氏
薬学部	<<すりと健康>> 脳の配線を作る分子の働きから、多様な疾患の病態と治療法を探る	9月3日(日)	薬学部教授 湯川 和典
	<<すりと健康>> <すりとぶんせき>薬の製造から病気の診断・治療まで <すりと私たちの健康>薬の適正使用と薬物乱用を考える	10月14日(土)	薬学部教授 水野 初 薬学部准教授 稲垣 孝行
大学院総合学術 研究科	認知症の予防と共生	9月19日(火)～ 10月20日(金)	名城大学特任教授 遠藤 英俊

研究所・センター主催の公開講座

学部等	講演テーマ	開催日	講師
社会連携センター	SDGsの前にIDGs? 私が変わると世界も変わる	3月3日(日)、 16日(土)	IDG Collective Story Hub 鬼木 基行 氏ら

地域との連携・共催講座

天白生涯学習センターとの共催講座

学部等	講演テーマ	開催日・期間	講師
農学部・薬学部× 天白区	【名城大学共催】 親子で楽しい理科学教室	6月3日(土) 6月17日(土) (全4回)	薬学部准教授 間宮 隆吉 農学部教授 上船 雅義

東区との共催講座

学部等	講演テーマ	開催日・期間	講師
外国語学部	【名城大学共催】 Let's Play バドミントン	5月13日(土)	外国語学部教授 富岡 徹
	【名城大学共催】 東アジアの社会・文化・政治 ①日台関係の結節点—女性・日本語・文学の視点から ②米国の東アジアと日本 ③韓流と世界	11月16日(木) 12月7日(木) 1月18日(木)	①外国語学部准教授 豊田 周子 ②外国語学部准教授 萩藤 大明 ③外国語学部教授 呉 大煥
都市情報学部	【名城大学共催】 都市情報学部がおくる「まちと情報」 ①未来のまちと情報 ②人と情報技術のつながり ③経済財としての情報	6月1日(木) 6月15日(木) 6月29日(木)	①都市情報学部助教 大野 沙知子 ②都市情報学部助教 鈴木 千文 ③都市情報学部教授 水野 隆文

日進市との連携講座

学部等	講演テーマ	開催日・期間	講師
理工学部	<子ども大学にっしん>3Dプリンタを使ったものづくりを体験しよう!	8月26日(土)	理工学部教授 大原 賢一
薬学部	【名城大学共催講座】 食と健康 ①食と健康のいままで ②食と健康の現在 ③食と健康のこれから	2月27日(火) 3月5日(火) 3月12日(火)	薬学部准教授 高谷 芳明

川谷市との連携講座

学部等	講演テーマ	開催日・期間	講師
農学部	【名城大学連携講座】 食と健康の科学	6月24日(土) 7月1日(土) 7月8日(土)	①農学部教授 林 利哉 ②農学部助教 近澤 未歩 ③農学部助教 長澤 麻央
外国語学部	【名城大学連携講座】親子で楽しむ英語絵本読み聞かせ講座	10月22日(日)	外国語学部教授 西尾 由里、西尾ゼミ生

氷見市・名城大学連携協議会事業

学部等	講演テーマ	開催日・期間	講師
理工学部	【名城大学連携講座】 世界を変える青色LED	12月23日(土)	理工学部教授 竹内 哲也

社会連携事業等

名城大学は、社会連携センターが中心となって大学と社会の資源をつなぎ、主体的に学び続ける「実行力ある教養人」の育成、「学問の探求と理論の応用」を通じた研究成果の教育と社会への還元、社会との「人的交流」を通じた地域活性化に貢献します。ナゴヤドーム前キャンパスには、誰もが自由に使えるオープンコミュニケーションスペース「社会連携ゾーンshake」があります。学生・教職員だけでなく、企業・自治体・NPOなど多様な方が年齢・職業を超えてフラットに集い、交流し、情報や学びを共有する場として活用いただいています。天白キャンパスにも、ものづくりを通じた実践的な学びや多様なプロジェクトを行う場として「起業活動拠点ものづくりスペース M-STUDIO」があります。新しいアイデアをカタチにする活動を通して、幅広い人々のクリエイティブな交流が生まれる場を目指します。

2023年度社会連携実績 254件※ ※社会連携センターがコーディネートした社会連携件数のみ

【主な実績(一例)】

1 学外機関と連携した正課内授業、ゼミ・研究活動

- 実務家講師による「食」をテーマとした製品・サービス開発講座イノベーションチャレンジプログラム(農学部正課授業)
- まちづくりや地域の第一線で活躍するゲストのトーク&対話を通して自分のこれからの学びや将来像を考えるプログラム(都市情報学部正課授業・1年次開講基礎科目)
- 蟹江町のふるさと納税の黒字化策提案(経営学部ゼミ活動)

2 学外機関と連携した学びの場づくり

- リーダーシップ開発プログラムiMPACT! (テーマ提供・協賛:アステラス製薬株式会社、アビームシステムズ株式会社)
- アントレプレナー(起業家)育成プログラムEXPLORER
- LINEヤフー株式会社と連携した学内ハッカソン「HACK U 名城大学」
- 集い創る、アイデア研究室。「PLATlab.」(テーマ提供:トヨタ自動車)
- 持続可能な地域づくりを考える奈良県山添村「ローカルベンチャーラボ”ヤマラボ”」

3 学外機関と連携したプロジェクト開発

- 名古屋市農業センターリニューアルに向けたPR活動プロジェクト
- 名古屋ダイヤモンドドルフィンズとの連携による、これからのプロスポーツビジネスのあり方を探求する「プロスポーツビジネス研究会」。地元バスケットチームのファン獲得を通じた地域共創をテーマにプロジェクト実施。
- 東区と連携した多文化共生事業

社会連携ゾーン shake

パートナーシップ団体数 169団体 (2024年3月31日時点)

学費・奨学金

■ 学費一覧

学部(2024年度入学生)

(円)

学年	1年次					2・3・4年次			
学部	入学金	授業料	実験実習費	施設費	年額合計	授業料	実験実習費	施設費	年額合計
法学部	200,000	665,000	—	180,000	1,045,000	665,000	—	180,000	845,000
経営学部	200,000	665,000	—	180,000	1,045,000	665,000	—	180,000	845,000
経済学部	200,000	665,000	—	180,000	1,045,000	665,000	—	180,000	845,000
外国語学部	200,000	940,000	—	250,000	1,390,000	940,000	—	250,000	1,190,000
人間学部	200,000	725,000	—	180,000	1,105,000	725,000	—	180,000	905,000
都市情報学部	200,000	835,000	—	310,000	1,345,000	835,000	—	310,000	1,145,000
理工学部	200,000	935,000	80,000	230,000	1,445,000	935,000	80,000	230,000	1,245,000
農学部	200,000	935,000	80,000	270,000	1,485,000	935,000	80,000	270,000	1,285,000
情報工学部	200,000	935,000	80,000	230,000	1,445,000	935,000	80,000	230,000	1,245,000

(円)

学年	1年次					2・3・4年次				5年次				6年次			
学部	入学金	授業料	実験実習費	施設費	年額合計												
薬学部	200,000	1,380,000	200,000	320,000	2,100,000	1,380,000	200,000	320,000	1,900,000	1,380,000	500,000	320,000	2,200,000	1,380,000	200,000	320,000	1,900,000

研究科(2024年度入学生)

(円)

学年		1年次					2年次				3年次			
研究科	課程	入学金	授業料	実験実習費	施設費	年額合計	授業料	実験実習費	施設費	年額合計	授業料	実験実習費	施設費	年額合計
法学研究科	修士課程	130,000	530,000	—	80,000	740,000	530,000	—	80,000	610,000	—	—	—	—
	博士後期課程	130,000	530,000	—	80,000	740,000	530,000	—	80,000	610,000	530,000	—	80,000	610,000
経営学研究科	修士課程	130,000	530,000	—	80,000	740,000	530,000	—	80,000	610,000	—	—	—	—
	博士後期課程	130,000	530,000	—	80,000	740,000	530,000	—	80,000	610,000	530,000	—	80,000	610,000
経済学研究科	修士課程	130,000	530,000	—	80,000	740,000	530,000	—	80,000	610,000	—	—	—	—
	博士後期課程	130,000	530,000	—	80,000	740,000	530,000	—	80,000	610,000	530,000	—	80,000	610,000
人間学研究科	修士課程	130,000	580,000	—	80,000	790,000	580,000	—	80,000	660,000	—	—	—	—
都市情報学研究科	修士課程	130,000	690,000	—	100,000	920,000	690,000	—	100,000	790,000	—	—	—	—
	博士後期課程	130,000	690,000	—	100,000	920,000	690,000	—	100,000	790,000	690,000	—	100,000	790,000
理工学研究科	修士課程・博士前期課程	130,000	640,000	120,000	100,000	990,000	640,000	120,000	100,000	860,000	—	—	—	—
	博士課程・博士後期課程	130,000	640,000	120,000	100,000	990,000	640,000	120,000	100,000	860,000	640,000	120,000	100,000	860,000
農学研究科	修士課程	130,000	620,000	120,000	100,000	970,000	620,000	120,000	100,000	840,000	—	—	—	—
	博士後期課程	130,000	620,000	120,000	100,000	970,000	620,000	120,000	100,000	840,000	620,000	120,000	100,000	840,000
総合学術研究科	博士前期課程	130,000	700,000	—	100,000	930,000	700,000	—	100,000	800,000	—	—	—	—
	博士後期課程	130,000	700,000	—	100,000	930,000	700,000	—	100,000	800,000	700,000	—	100,000	800,000

(円)

学年		1年次					2年次				3年次				4年次			
学部	課程	入学金	授業料	実験実習費	施設費	年額合計												
薬学研究科	博士課程(4年制)	130,000	640,000	120,000	100,000	990,000	640,000	120,000	100,000	860,000	640,000	120,000	100,000	860,000	640,000	120,000	100,000	860,000

(注) 1.入学手続時納入金は、入学金と1年次の「授業料・実験実習費・施設費」の2分の1の金額(前期分)を合計した額です。
2.授業料等の学費は、毎年次、前期(納期5月10日)・後期(納期10月10日)の2回分納方式です。

■ 奨学生制度

さまざまな奨学生制度が用意され、経済的な面からも学生をサポートしています。2023年度の学内奨学生制度における奨学費支出総額は、約2.3億円でした。

■ 名城大学学内奨学生(2023年度) ※各種奨学生制度は、事情により変更する場合があります。

1. 学業優秀にかかる奨学生(給付)

種類	資格	人数	給付額
入試成績優秀奨学生	一般選抜(A方式)において、各学部成績上位の合格者(対象者約400名)の内、入学した者	対象者全員	授業料年額の1/2 (入学年度のみ)
学業優秀奨励制度	新3年次生で、2年次までの学業成績および人物優秀者 (薬学科は新5年次生で、4年次までの学業成績および人物優秀者) 成績基準:次の(1)および(2)に該当する者 (1)2年次までに62単位以上(教職および学芸員に関する授業科目、自由科目を除く。)を、修得している者 薬学科は4年次までに150単位以上を、修得している者 (2)履修登録科目の平均点が80点以上の者	260人	3万円相当の金品
学業優秀奨学生	新4年次生で、3年次までの学業成績および人物優秀者 成績基準:次の(1)および(2)に該当する者 (1)3年次までに93単位以上(教職および学芸員に関する授業科目、自由科目を除く。)を、 修得している者で、卒業見込みの者(薬学科を除く) (2)履修登録科目の平均点が80点以上の者	各学科で1人 (薬学科は2人)	授業料年額の1/2

2. 修学援助にかかる奨学生(給付)

種類	資格	人数	給付額
修学援助A奨学生(※1)	学部生(1・2年次を除く)で修学の意思があるにもかかわらず、経済的理由により修学が困難な者。 家計基準:同一世帯の前年度所得合計額から別表(※)による控除後の合計額が200万円以下とする。 ただし、事業所得者の前年所得合計額がマイナスの場合は、0円として計上する。 成績基準:卒業に必要な単位数を修業年数で割った単位数の当該年次までの累計以上の修得者で、各学科の 上位2分の1以内。ただし、外国人留学生の場合は、全学部外国人留学生の上位2分の1以内とする。 ※別表は募集時期に本学ウェブサイトでご覧いただけます。	90人以内	年額一律30万円
修学援助B奨学生	学部生、大学院生で主たる家計支持者(学資負担者)の死亡、疾病、失業(自己都合を除く)、または、火災、風水害等の被害により家計が急変し、修学の意思があるにもかかわらず、経済的に著しく困難となった者。 家計基準:同一世帯の前年度所得合計額(学資負担者を除く)から別表(※)による控除後の合計額が200万円以下とする。ただし、事業所得者の前年所得合計額がマイナスの場合は、0円として計上する。 成績基準:学修意欲があり、学業を継続して確実に修了できる見込みがあること。 ※別表は窓口で申請書類とともにお渡しいたします。	該当する者全員	年額一律30万円
利子補給奨学生	経済的な理由により、本学と提携する銀行(三菱UFJ銀行)の教育ローンを利用した者。 最短修業年限に相当する年数を限度として給付。	該当する者全員	当該年度までの学費を限度とする借入額の支払利子に、教育ローン利用者の年収に応じた給付率(50%または100%)を乗じた額
大規模自然災害 経済支援奨学生	災害救助法が適用された(または外務省による国際緊急援助が行われた)大規模自然災害により家計が急変し、修学が困難になった学生および入学試験出願者。	該当する者全員	授業料・実験実習費・施設費の年額、または年額の1/2(被災状況による)。入学試験出願者は、入学検定料、入学金の全額も給付する。

※1 2022年度入学者までを対象とする。

学費・奨学金

3. その他の学内奨学生(給付)

種類	資格	人数	給付額
校友会奨学生	人物優秀者で学業成績または体育技能優秀者	校友会が指定	校友会が決定
社会人学生奨学生	社会人入学試験により入学した学部生	該当する者全員	授業料および 実験実習費年額の1/2
私費外国人留学生A奨学生	在留資格が「留学」の私費外国人留学生で、経済的に就学が困難であると認められる者	該当する者全員	授業料年額の3/10
派遣交換留学奨学生	海外協定校との交換留学制度に基づく留学を認められた者で人物・学業成績優秀者、または各該当言語の語学能力検定試験高得点取得者。 留学期間が3カ月以上1年以内を対象とする。留学期間が3カ月未満の場合は海外研修奨学生として取り扱う。	30人以内	[アジアへの交換留学] 月額4万円 [アジア以外への交換留学] 月額6万円
海外研修奨学生	本学の大学間学術交流協定(条件を満たす学部または研究科間を含む)に基づく海外研修者で、研修期間が7日以上のもの。ただし、人間学部の海外研修Iは除く。	該当する者全員	5万円
本学卒業等補助奨学生	①本学卒で研究科、他の学部へ入学する者 ②本学に籍を置いた者で退学ののち、再度入学する者	該当する者全員	入学金の額
海外英語研修派遣支援A奨学生	国際化推進センターが募集する海外英語研修プログラムまたは学部等と国際化推進センターによる連携海外英語研修プログラムに参加する者で、学部等の国際委員会が実施する選考により採用された者	毎年180人以内	20万円または 研修費用総額の1/2の いずれか少ない額
海外英語研修派遣支援B奨学生	国際化推進センターが募集する海外英語研修プログラムまたは学部等と国際化推進センターによる連携海外英語研修プログラムに参加する者	該当する者全員	5万円

各種奨学制度は、授業料および実験実習費の年額を超えない範囲で重複可能。

ただし、本学卒業等補助奨学生と校友会奨学生の特別奨学生は、授業料および実験実習費の年額の範囲を超えて重複可能。

4. 特に大学院生を対象とする奨学生(給付)

種類	資格	人数	給付額
大学院学業優秀奨学生	大学院生で、学業成績および人物優秀者	90人	年額一律30万円
大学院奨学生	各研究科の基準による	各研究科の基準による	各研究科の基準による
本学卒業等補助奨学生	①本学卒で研究科、他の学部へ入学する者 ②本学に籍を置いた者で退学ののち、再度入学する者	該当する者全員	入学金の額
赤崎勇賞	大学院博士後期課程又は博士課程在学生のうち、教育研究活動等に関する業績が特に優れている者(理工学研究科においては博士前期課程又は修士課程も含める)	各年度5名 (理工学研究科から4名+ 理工学研究科を含む 全研究科から1名)	一律20万円
日本学術振興会特別研究員奨学生	日本学術振興会特別研究員(DC1、DC2)に採用された者	該当する者全員	授業料・実験実習費・ 施設費の額

各種奨学制度は、授業料および実験実習費の年額を超えない範囲で重複可能。

ただし、本学卒業等補助奨学生と校友会奨学生の特別奨学生は、授業料および実験実習費の年額の範囲を超えて重複可能。

クラブ活動

■ 公認クラブ一覧 128 団体 (2024年6月1日現在)

体育会

42団体

合気道部
アメリカンフットボール部
居合道部
応援団(リーダー部、吹奏楽部、チアリーディング部)
空手道部
弓道部
剣道部
航空部
硬式庭球部
硬式野球部
ゴルフ部
自転車部
自動車部
蹴球部
柔道部
準硬式野球部
少林寺拳法部
女子駅伝部
水上競技部
スキー部
スキューバダイビング部
ソフトテニス部
ソフトボール部
卓球部
テコンドー部
軟式野球部
日本拳法部
バーベルトレーニング部
馬術部
バスケットボール部
バドミントン部
バレーボール部
ハンドボール部
フットサル部
舞踏研究会
洋弓部
ヨット部
ライフル射撃部
ラグビー部
ラクロス部
陸上競技部
ワンダーフォーゲル部

文化会

23団体

アカペラサークル[はもりね]
囲碁部
管弦楽団
ギターアンサンブル部
ギターマンドリン合奏団
喫茶愛好会
教職研究会
軽音楽部
劇団[獅子]
茶道部
サブカルチャー研究会
児童文化研究会[かざぐるま]
シネマ研究会
将棋部
証券研究会
新聞会
世界民族音楽研究会
旅研究会[一里塚]
美術部
放送部
漫画アニメSF研究会
モダンジャズ研究会
落語研究会

理工学部学生自治会

16団体

e-sports研究会
エコノパーククラブ
空手道部
建築デザインクラブ[tenon]
自動車技術研究会
社会科学研究会
写真部
ストリートダンスサークル
造芸部
鉄道研究会
名古屋学生の会
バドミントン部
フォーデュオサークル
マンガアニメ愛好会
木造建築研究会
ロボット倶楽部

農学部学生会

8団体

朝スポーツサークル
花卉クラブ
写真部
趣味の園芸愛好会
日本酒研究会
農学探究ゼミナール
ハイキング部
野生動物生態研究会

薬学部学生会

27団体

【文化局】
医療系研究会「オピス」
英語会話同好会
SRC同好会
管弦楽部
漢方医学研究部
奇術部
軽音楽部
茶道部
植物研究部
ストリートダンス部
箏曲部
天文部
美術部
フォークソング部
薬学研究部
【体育局】
硬式庭球部
硬式野球部
ゴルフ部
女子バレーボール部
ソフトテニス部
卓球部
男子バレーボール部
バスケットボール部
バドミントン部
フットサル部
ラグビー部
陸上競技部

ナゴヤドーム前キャンパス

12団体

音楽部[Bremen]
硬式庭球部
写真部[Freude]
ダンスサークル[liberte']
軟式野球部
バスケットボール部
バドミントン部
バレーボール部
ハワイアン民俗研究部[Meijo オハナ]
フットサルサークル[Golazo!]
文芸サークル
まちと学生をつなぐサークル[プラネット]

■ ボランティア協議会

ボランティア協議会は、名城大学の学生がボランティア活動を実践し、社会の一員として地域社会に貢献することを目的として2004年(平成16年)7月に発足しました。きっかけは一人の学生によるタバコの吸い殻拾い。この活動が徐々に広がり、学生のみならず教職員を巻き込んだ「クリーンアップ大作戦」へと発展、ボランティア協議会設立に至りました。現在は5つの活動を柱として活躍の場を広げています。

▶ 災害復興ボランティア

宮城県気仙沼市大島をメインに被災地にて奉仕活動をしています。災害・防災・復興について学びながら災害復興のお手伝いをしています。

▶ 環境ボランティア

学内および大学周辺地域における清掃活動やペットボトルのキャップを集めて発展途上国にワクチンを送る活動を行っています。

▶ 福祉ボランティア

高齢者施設でのレクリエーションの実施や、中部盲導犬協会と連携し、視覚障がい者の方々との交流を行っています。

▶ 地域安全パトロール

学生による大学周辺の地域防犯活動を週1~2回実施。太白警察署と連携したパトロールも実施しています。

▶ こどもボランティア

学び・体験・交流活動の場で、子どもたちが楽しむ居場所づくりを目指し、様々なイベントに参加しています。

キャンパスと設備

天白キャンパス

法学部、経営学部、経済学部、情報工学部、理工学部、農学部
法学研究科、経営学研究科、経済学研究科、理工学研究科、農学研究科、総合学術研究科

総合大学にふさわしい学びの環境が整ったメインキャンパス。

大学のシンボル「タワー75」、各講義棟や実験棟などに最新の教育機器を完備している。

■ 特徴ある施設等

情報処理室等

高度なAVシステム環境を有するとともに、基本的なパソコン操作の情報リテラシー講義から教育研究に必要な専門ソフトを使った専門講義まで対応し、講義時間以外では自学・自習ができるよう自由開放をしています。

設置場所・教室名等	端末台数(学生機のみ)
タワー75 6・7階 情報処理教室	704
共通講義棟東 情報処理教室	326
共通講義棟南 LL教室、LL自習室	205

バリアフリー設備

男女別多目的トイレ、エレベーター、連絡ブリッジ、自動ドア、引き戸、ローカウンター、難聴者システム、車椅子対応机・椅子、点字ブロック など

自然エネルギーの利用

自然換気・採光、太陽光発電、屋上緑化、壁面緑化、クールトンネル など

省エネルギー手法の採用

コージェネレーション、蓄熱システム、断熱塗料、空調照明制御、垂直ルーバー、高効率空調システム、BEMS、セントラル空調方式 など

■ キャンパスマップ

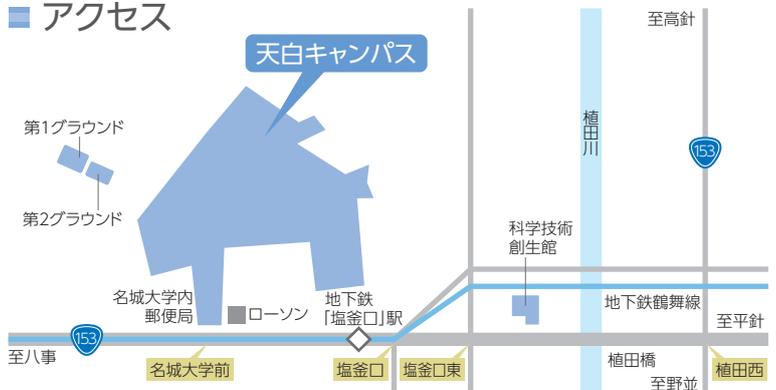


- ① タワー75:学務センター、教職センター、学術研究支援センター、キャリアセンター、国際化推進センター、情報センター、社会連携センター、研究室、大学院演習室、大学院研究室、自習室(大学院・学部学生)、情報処理教室、展望ラウンジ、カーサ(食堂)、オリーブ(食堂)、そらいろラウンジ(食堂)、スクエア(売店)、トラベルサロン(赤い風船(旅行代理店)、ATMコーナー)
- ② 共通講義棟北:名城ホール、講義室、演習室、グローバルプラザ、模擬法廷、学部事務室(法学部・経営学部・経済学部・農学部)、名城食堂(食堂)、ファミリーマート(売店)
- ③ 共通講義棟南:講義室、演習室、LL教室、学習サポートルーム、ピアサポートルーム
- ④ 共通講義棟東:講義室、演習室、情報処理教室、第2書庫
- ⑤ 研究実験棟I:実験室、研究室、農学部資料室
- ⑥ 6号館:共同練習場、スガキヤ(食堂)、グラン亭・ミラノ(食堂)
- ⑦ 7号館:クラブハウス、共同練習場、会議室
- ⑧ 8号館:クラブハウス、共同練習場、音楽練習室、会議室 ⑨ 9号館:実験室、研究室
- ⑩ 10号館:研究室、法学部資料室、経営学部・経済学部資料室
- ⑪ 11号館:演習室、研究室、理工学部事務室、実験室
- ⑫ 12号館:講義室、研究室、障がい学生支援センター、情報工学部事務室
- ⑬ 13号館:研究所、実験室、研究室 ⑭ 14号館:実験室
- ⑮ 研究実験棟II:研究室、実験演習室、理工学部学科事務室、ファミリーマート(売店)
- ⑯ 体育館 ⑰ 附属図書館
- ⑱ 本部棟:入学センター、保健センター、大学教育開発センター、総合企画部、総務部、渉外部、財務部、施設部、ちくさ正文館(書店)、ATMコーナー
- ⑲ 校友会館:校友会事務局、赤崎・天野ノーベル賞記念展示室、シャトー(喫茶店)、Green Bakery Book CAFE(喫茶店)、理容室
- ⑳ 温室 ㉑ 第1グラウンド ㉒ 第2グラウンド ㉓ 科学技術創生館
- ㉔ 研究実験棟III:研究室、実験室、演習室、ファミリーマート(食品自動販売機店)、理工学部情報工学部学科事務室
- ㉕ 研究実験棟IV:講義室、研究室、実験室、製図室、理工学部学科事務室

校舎等現有面積 (2024年5月1日現在)

校舎	現有面積	校舎	現有面積	校舎	現有面積
タワー75	20,919㎡	6号館	3,557㎡	14号館	851㎡
共通講義棟北	23,534㎡	7号館	1,763㎡	体育館	3,604㎡
共通講義棟南	11,238㎡	8号館	3,405㎡	附属図書館	10,825㎡
共通講義棟東	12,218㎡	9号館	3,158㎡	本部棟	4,914㎡
研究実験棟I	5,015㎡	10号館	5,289㎡	校友会館	1,917㎡
研究実験棟II	19,157㎡	11号館	5,907㎡	科学技術創生館	1,438㎡
研究実験棟III	12,243㎡	12号館	2,699㎡	その他	278㎡
研究実験棟IV	16,057㎡	13号館	1,524㎡	合計	171,510㎡

■ アクセス



地下鉄鶴舞線「塩釜口／名城大学前」駅下車、1番出口徒歩約4分

キャンパスと設備

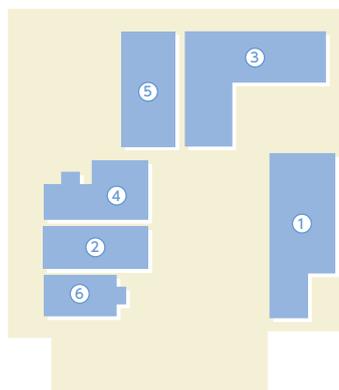


キャンパスと設備

八事キャンパス 薬学部 薬学研究科

丘の上のキャンパスは東海地方で最も伝統のある私大薬学部。
半世紀を超える伝統と実績を生かし、薬学教育の理想を追求する。

■ キャンパスマップ



校舎等現有面積(2024年5月1日現在)

校舎	現有面積
新1号館	10,122㎡
新2号館	7,425㎡
新3号館	5,447㎡
7号館	6,991㎡
体育館	1,398㎡
学生会館 城薬ホール	1,402㎡
その他	41㎡
合計	32,826㎡

マルチメディア教室	端末台数 (学生機のみ)
新1号館6F マルチメディア教室	148
新3号館4F マルチメディア教室Ⅱ	150

- ① 新1号館: ライフサイエンスホール、講義室、研究室、マルチメディア教室、医薬情報センター、モデル薬局、附属図書館(薬学部分館)、保健センター分室、学生相談室、ダイニング・ハープ(食堂)、樹里庵(喫茶店)、T-COURT(売店)
- ② 新2号館: 研究室、分析センター、ラジオアイソトープ実験施設、実験動物施設
- ③ 新3号館: 講義室、標本室、マルチメディア教室、研究室、教員室、ファミリーマート(売店)
- ④ 7号館: 分析センター第3分室、実習室、研究室
- ⑤ 体育館
- ⑥ 学生会館 城薬ホール: クラブハウス

■ アクセス



地下鉄鶴舞線・名城線「八事」駅下車、6番出口徒歩約6分

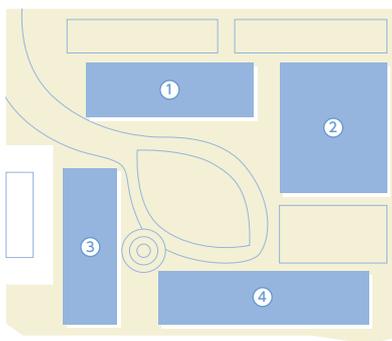


ナゴヤドーム前キャンパス

外国語学部、人間学部、都市情報学部 人間学研究科、都市情報学研究科

「キャンパスから地域へ、キャンパスから世界へ。」をコンセプトに2016年4月に誕生。
豊かな出会いと交流を生み出す開放的なキャンパスを実現しています。

■ キャンパスマップ



校舎等現有面積(2024年5月1日現在)

校舎	現有面積
北・東館	13,727㎡
西・南館	18,833㎡
合計	32,560㎡

コンピュータ教室	端末台数 (学生機のみ)
南館5F コンピュータ教室	217

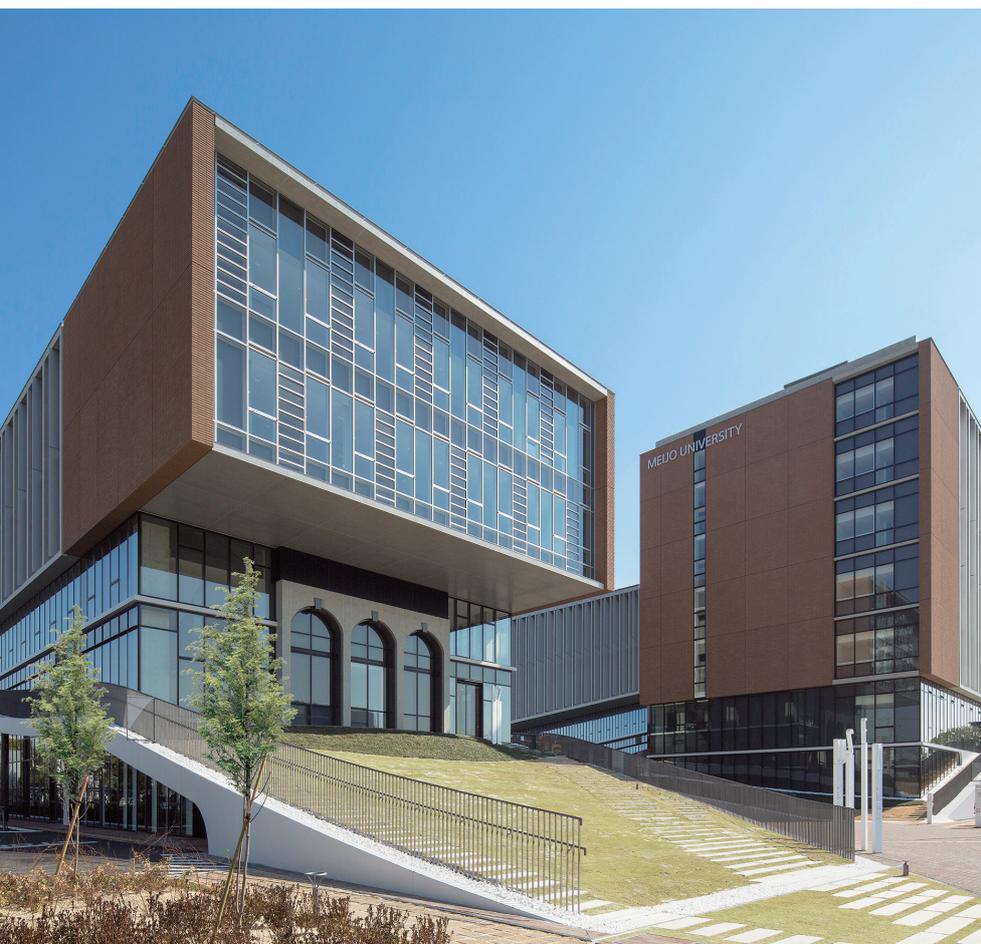
- ① 北館:M PATIO(食堂)、グローバルプラザ、ラーニングcommons[wake]、外国語学部資料室、講義室、演習室、研究室など
- ② 東館:図書館、ファミリーマート(売店)、保健室、学生相談室、フレンドリーサロン、学習サポートルーム、エクステンション学習室、教職学習室、マルチスタジオ、クラブハウス、体育館など
- ③ 西館:事務室、社会連携ゾーン[shake]、レセプションホール、会議室、演習室、講義室、人間学部資料室、ゼミ室、研究室など
- ④ 南館:DSホール、講義室、多目的室、コンピュータ教室、研究室、ゼミ室、都市情報学部資料室など

■ アクセス



JR中央本線・名鉄瀬戸線「大曽根」駅下車、徒歩約10分
地下鉄名城線「ナゴヤドーム前矢田」駅下車、2番出口徒歩約3分
ゆとりとライン「ナゴヤドーム前矢田」駅下車、徒歩約5分

キャンパスと設備



キャンパスと設備

春日井(鷹来)キャンパス

農学部附属農場

校舎等現有面積(2024年5月1日現在)

校舎	現有面積
本館	2,600㎡
教育研究館	1,495㎡
家畜舎	877㎡
セミナーハウス	501㎡
その他	1,507㎡
合計	6,980㎡



グラウンド等

校舎等現有面積(2024年5月1日現在)

校舎	現有面積
日進キャンパス(日進総合グラウンド)	2,925㎡
第1・第2グラウンド	967㎡
その他	1,935㎡
合計	5,827㎡



校地等現有面積(2024年5月1日現在)

校地	現有面積	校地	現有面積
天白キャンパス	129,366㎡	日進キャンパス	106,222㎡
八事キャンパス	17,553㎡	第1・第2グラウンド	46,331㎡
ナゴヤドーム前キャンパス	17,937㎡	クラブ寮敷地	1,514㎡
春日井(鷹来)キャンパス	136,860㎡	瀬戸校地(演習林)	31,795㎡
		可児校地(別法人に貸出中)	130,476㎡
総計 618,054(※2,535)㎡			

※は借用地を内数で示す。

附属図書館

知的空間としての学習・研究支援

附属図書館は「知」の発信拠点として本館と2つの分館で運営しています。
 天白キャンパスにある本館は、地下1階地上5階建てで書庫、視聴覚室、グループ学習室、多読図書室、閲覧室、学習室、グループ研究室、メディア室等を配置しています。
 八事キャンパスにある分館は、薬学の専門図書館としての機能を持たせるため、蔵書は薬学や医学の専門書を中心とした構成となっています。
 ナゴヤドーム前キャンパスにある分館は、語学、教育学、都市情報学に関する資料を中心に取り揃えています。また、最先端の情報通信技術と機器を導入し、学習研究活動を支援しています。ラーニングcommons等、アクティブな学びができる環境を整えています。また、2022年度から全館でSDGsコーナーを設置し、学生、教職員がSDGsの課題を自らの問題として捉え、学びを深めていく環境を整備しました。
 学術雑誌の電子化、電子書籍の普及等により、図書館を取り巻く環境が大きく変わろうとしています。当館では、これら電子媒体と冊子体との共存共栄を図りつつ、利用者側の目線に立った魅力ある図書館づくりに取り組んでいます。



(天白キャンパス)

開館時間

館名	平日	土曜日	日曜日・祝日
本館	9:00~21:00	9:00~18:00	休館
薬学部分館	9:00~21:00	9:00~18:00	休館
ナゴヤドーム前キャンパス図書館	9:00~21:00	9:00~18:00	休館

〔休館日〕

- 休講期(7月・8月・9月・1月・2月・3月)に日曜日、国民の祝日(分館を除く)
- 夏季および冬季の各休業日の一定期間
- その他必要に応じて定める臨時休館日

蔵書冊数(2024年3月31日現在)

和書	洋書	合計
844,337	388,001	1,232,338

図書受入冊数(2024年3月31日現在)

	2021	2022	2023
和書	12,470	13,334	10,117
洋書	1,637	1,582	2,003
合計	14,107	14,916	12,120

雑誌タイトル数(2024年3月31日現在)

和雑誌	洋雑誌	合計
15,096	6,929	22,025

雑誌受入種数(2024年3月31日現在)

	2021	2022	2023
和雑誌	1,682	1,759	2,064
洋雑誌	428	429	478
合計	2,110	2,188	2,542

本館

開館状況・館外貸出冊数

▼区分	年度▶	2021	2022	2023
開館状況	開館日数	281	275	275
	入館者数	152,815	182,266	218,317
	教職員	4,140	4,901	6,256
館外貸出冊数	学生	35,055	43,393	50,546
	学外者	24	14	635
	合計	39,219	48,308	57,437

相互利用件数

▼区分	年度▶	2021	2022	2023
相互貸借	受付	40	44	44
	依頼	72	58	63
文献複写	受付	219	337	146
	依頼	297	193	183

レファレンス件数

▼区分	年度▶	2021	2022	2023
所蔵調査		1,864	1,932	2,304
事項調査		1,596	1,310	1,562
利用指導		3,226	2,814	2,860

各施設利用件数

▼区分	年度▶	2021	2022	2023
視聴覚室		0	0	9
グループ研究室		0	0	2
グループ学習室		0	0	12

薬学部分館

開館状況・館外貸出冊数

▼区分	年度▶	2021	2022	2023
開館状況	開館日数	284	283	285
	入館者数	28,787	37,607	38,722
	教職員	500	2,924	112
館外貸出冊数	学生	2,129	137	3,634
	学外者	5	0	0
	合計	2,634	3,061	3,746

相互利用件数

▼区分	年度▶	2021	2022	2023
相互貸借	受付	0	0	0
	依頼	1	1	0
文献複写	受付	27	24	14
	依頼	429	207	153

レファレンス件数

▼区分	年度▶	2021	2022	2023
所蔵調査		578	718	549
事項調査		433	597	446
利用指導		432	707	496

各施設利用件数

▼区分	年度▶	2021	2022	2023
所蔵調査		578	718	549
事項調査		433	597	446
利用指導		432	707	496

ナゴヤドーム前キャンパス図書館

開館状況・館外貸出冊数

▼区分	年度▶	2021	2022	2023
開館状況	開館日数	275	275	276
	入館者数	48,231	53,533	59,836
	教職員	2,065	2,523	2,842
館外貸出冊数	学生	17,435	21,273	26,722
	学外者	18	20	276
	合計	19,518	23,816	29,840

相互利用件数

▼区分	年度▶	2021	2022	2023
相互貸借	受付	5	2	5
	依頼	28	30	48
文献複写	受付	20	30	33
	依頼	128	59	127

レファレンス件数

▼区分	年度▶	2021	2022	2023
所蔵調査		755	552	518
事項調査		240	122	223
利用指導		1,436	1,087	653

各施設利用件数

▼区分	年度▶	2021	2022	2023
グループ学習室		0	0	1

※2020年途中より、コロナのため閉室

※沿革については、図書館ホームページをご覧ください。https://www.meijo-u.ac.jp/library/outline/organization.html

※2020年途中より、コロナのため閉室

愛知県立愛知総合工科高等学校 専攻科

愛知県立愛知総合工科高等学校専攻科(2年制課程)は、愛知県が国家戦略特区の認定を受け、2017年4月から学校法人名城大学が指定管理法人となって運営している、全国初の「公設民営」の教育機関です。名城大学創設以来、取り組んできた工学教育の成果と学校経営のノウハウを最大限に活用し、機械、電気に関する高度な技術・技能を学ぶ“魅力ある学校づくり”を推進しています。



■ 専攻科の教育目標

「ものづくり愛知」の次世代を担う、生産現場のリーダーとなる人材を育成する

■ 専攻科の特色



- ・講義科目では、高度な研究力を有する大学の教授陣から、技術者、技能者としての知見を広め、生産現場の実践力となる基礎的な理論、技術論を学びます。
- ・実習科目では、現代の名工、ものづくりマイスター、技能五輪メダリスト、技能五輪選手指導者など、社会から高い評価を受けている民間企業の生産現場で活躍する技術者・技能者から直接指導を受け、“ものづくり愛知”を支える高度な技術・技能とともに、生産現場で必要とされる創意工夫の方法論を学びます。
- ・コース実習・総合実習では、民間企業出身の生産現場で活躍する技術者・技能者の先生と愛知県教育委員会からの派遣教員のチームによる授業が行われています。

高度な技術・技能を身につける“特色ある実習教育”

教育課程は、実習科目の割合が40%を占めています。実習には、それぞれの科・コースをユニットとする“コース実習”と、科・コースの枠組みを超えて設定された研究テーマに基づく製作実習を行う“総合実習”を開設しており、生産現場の動向・ニーズに対応した実習プログラムにより、高度な技術・技能を身につけていきます。



最先端の設備・環境

最先端の実習設備を完備し、きめ細やかな指導が行われています。「若年者ものづくり競技大会」への出場・入賞、技能検定2級の合格を目指します。



■ 学科・コース紹介

▶ 高度技術科(入学定員20名)

自動車・航空コース(入学定員10名)

自動車・航空機の構造や仕組み、自動加工技術など、運輸機械の製造に関わる高度な技術を身につけた産業人材の育成を目指します。

電気・制御コース(入学定員10名)

発電や送電を行う電力システムや電気機器の制御技術など、電気エネルギー産業に関わる高度な技術を身につけた産業人材の育成を目指します。

▶ 先端技術科(入学定員20名)

情報・ITコース(入学定員10名)

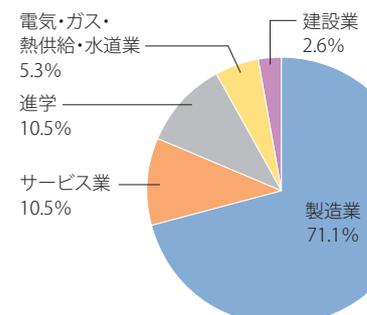
AIやIoTに代表される情報処理技術など、情報通信に関わる先端技術を身につけた産業人材の育成を目指します。

電子・ロボットコース(入学定員10名)

半導体や電子回路基板、信号処理、ロボット技術など、生産現場のデジタル化に関わる先端技術を身につけた産業人材の育成を目指します。

■ 修了後の進路

令和5年度修了生(38名)



附属高等学校

普通科 総合学科(両学科とも男女共学)

教育目的

教育基本法・学校教育法の精神に則り、知・徳・体の調和する人格の完成を目指す。
創設以来の伝統に基づき、穏健中正で実行力に富み、国家、社会の信頼に値する人材を育成する。

教育方針

「教育目的」を実現するために、更に次の3つの「教育方針」を定める。
1 礼節を重んじる 2 主体的な行動力を養う 3 多様な経験を積む

■ 本校の特色

平成18年度～(4期目, 通算19年目)

SSH(スーパーサイエンスハイスクール)指定校

令和2年度～令和5年度

WWL(ワールドワイドラーニング)連携校

令和3年度～

SGH(スーパーグローバルハイスクール)ネットワーク参加校

平成26年度～平成30年度

SGH(スーパーグローバルハイスクール)指定校

文部科学省から様々な指定を受け、高大協創による国際的科学リーダーの育成やグローバルな社会課題を発見・解決できる人材の育成に取り組んでいます。



■ 本校のあゆみ

1926	大正 15年	田中壽一氏により名古屋高等理工科講習所として開設
1928	昭和 3年	名古屋高等理工科学校に名称変更
1942	17年	名古屋市中村区新富町に校舎新築移転
1948	23年	学校教育法により名古屋文理高等学校として開校
1951	26年	名城大学附属高等学校と改称(設置学科:普通・商業・電気・機械)
1965	40年	1963年より始めた校舎の鉄筋工事完成
1978	53年	全館空調設備等総合整備完了 全天候型校庭舗装完工
1987	62年	開学60周年記念第二体育館(屋内温水プール)完成
1997	平成 9年	新校舎の完成
1999	11年	総合学科開設(設置学科:普通科・総合学科) 普通科特別進学クラスを共学化
2002	14年	ISO14001の認証を取得
2003	15年	普通科を共学化、高大一貫7カ年教育の普通科国際クラス設置
2004	16年	総合学科を共学化、全科男女共学となる 文部科学省主催 サイエンス・パートナーシップ・プログラム(SPP) 「トライボロジーとその現代社会における役割」採択
2005	17年	文部科学省主催 サイエンス・パートナーシップ・プログラム(SPP) 「人体の不思議と医療技術の進歩」バイオテクノロジーを利用した作物育種」採択
2006	18年	文部科学省所管 スーパーサイエンスハイスクール(SSH)採択校となる
2010	22年	第一体育館兼武道場完成
2011	23年	スーパーサイエンスハイスクール(SSH)2期目の採択校となる
2012	24年	文部科学省コアSSH「地域の中核的拠点形成」に採択
2014	26年	文部科学省所管 スーパーグローバルハイスクール(SGH)採択校となる
2016	28年	スーパーサイエンスハイスクール(SSH)3期目の採択校となる
2021	令和 3年	スーパーサイエンスハイスクール(SSH)4期目の採択校となる

■ 生徒数(2024年4月8日現在)

(人)

	普通科				総合学科		計
	特進クラス	スーパーサイエンスクラス	進学クラス	国際クラス	文系	理系	
1年	192	29	338	28	128	715(368)	
2年	162	30	316	21	82	30	641(308)
3年	129	41	302	27	133	40	672(331)

※()内の数字は学年毎の女子生徒数

▶ 特進クラス [国立大学進学を実現]

国立大学・難関私立大学への進学を目指すクラスです。学習に力を注ぐだけでなく、部活動への参加も推奨しています。机上の学びにとどまらず、SSH・SGHのノウハウを取り入れ、自身で課題を見つけて研究する科目「数理探究基礎」・「理数探究」[総合的な探究の時間]にも力を入れています。さらに、研究成果を発信するために各種研究会や海外研修に参加する機会があります。

▶ スーパーサイエンスクラス [国際的な科学リーダーを育成]

物理・化学・生物に加え、名城独自のスーパーサイエンス教科を学び、理工学系または生化学系への関心を高めます。「SSラボI・II」などの探究活動を通して、探究力や問題解決能力を養います。また、海外研修やタイへの修学旅行により、国際感覚を身につけます。3年間の活動を通して興味や関心を高め、学び続けることにより、国立大学および名城大学への進学を目指します。

▶ 進学クラス [名城大学進学の中核]

名城大学進学の中核を担っており、附属高校の生徒を対象にした特別推薦制度により、毎年200名程度が進学しています。また、国立大学や難関私立大学への合格者も増加しています。探究活動を実施することにより、学問に対する知的好奇心を深め、主体的な考動力を培います。

▶ 国際クラス [世界で活躍できる人材を育成]

SGHおよびWWLの中心クラスとして、「課題探究I・II」や海外研修などの探究活動、英語学習を通して、グローバルリーダーとして活躍できる語学力と幅広い教養、実践力を身につけます。校内での学びだけでなく、地域や企業、海外の学校や機関等、社会と連携した探究と実践を行い、研究発表大会等で成果を発表しています。難関私立大学文系学部や国際系学部への進学を目指します。

▶ 総合学科 [全国屈指の大学進学率]

大学進学に対応しており、進学率が高く、毎年卒業生の約9割が四年制大学に進学しています。社会とつながるキャリア教育・体験型の実技・実習を特徴とし、1年次の「産業社会と人間」の授業では、企業人・大学教員による講話、大学や企業の見学、調べ・まとめ学習のプレゼンテーションなどを行います。2年次には4つの系列(社会探究・地域交流・ビジネス・数理)に分かれて、それぞれの系列の目標に沿ったカリキュラムを実施します。3年次になると各系列で学んだことを生かし、「総合的な探究の時間」で4系列が混ざり合い、与えられた課題を解決する探究学習を行います。これらの主体的に活動する授業を通して、進路目標・キャリア目標の達成を目指します。

校友会

■ 名城大学校友会

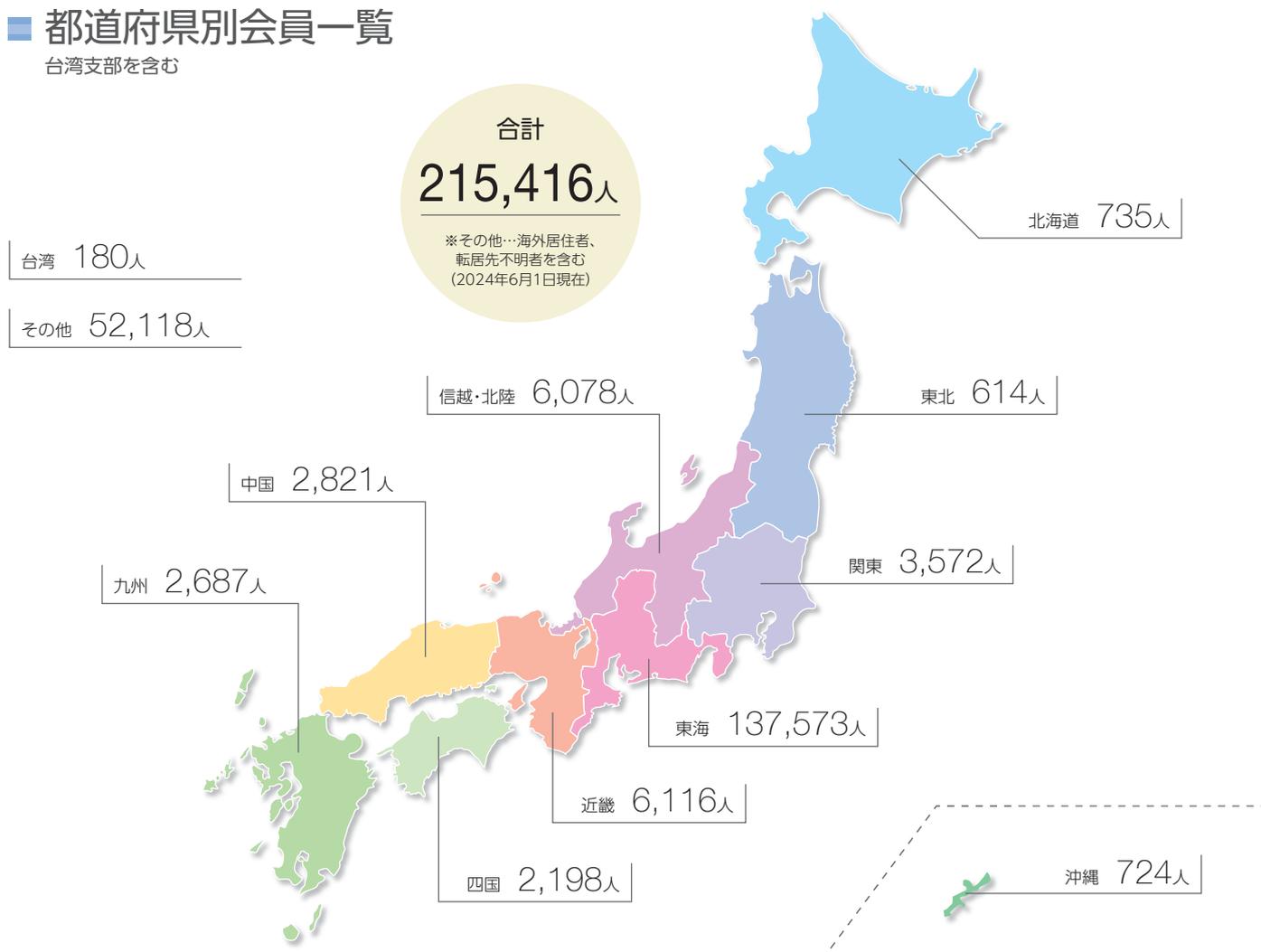
横の連携で後輩をバックアップ 卒業後もかたい絆で結ばれる37支部のヒューマンネット

名城大学校友会は、「会員相互の親睦と協力を基礎として、学術研究の奨励とその普及を図り、もって名城大学の発展に寄与すること」を目的として設立され、卒業生を会員、在学学生を準会員、教職員を特別会員として組織されています。2024年3月末日現在、会員数は21万5千人を超え、全国に36支部、海外に台湾支部を設置し、相互の連携と情報の交換に成果をあげています。さらに会員相互の連携を高めるため、ウェブサイトを開いてきめ細かい情報の発信に努めています。

また、全国各地で活躍する会員への支援、各同窓会事業への援助をはじめ、校友会報の発行や、特に準会員に対する援助として校友会独自の奨学生制度、学術・文化・スポーツ活動への援助や入学記念品・卒業記念品の配布等、幅広い活動を展開しており、地域とのつながりについても人的ネットワークの強みを発揮し、産官学各方面で活躍している数多くの卒業生会員が親身になって協力しています。

■ 都道府県別会員一覧

台湾支部を含む



都道府県別会員数 (台湾支部を含む)

(人)

北海道	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	新潟県	富山県	石川県
735	96	70	142	104	97	105	186	151	174	477	485	1,096	793	255	1,429	1,164
福井県	山梨県	長野県	岐阜県	静岡県	愛知県	三重県	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県	鳥取県	島根県	岡山県	広島県
1,410	210	1,820	22,744	5,093	96,709	13,027	1,308	743	1,380	1,664	419	602	298	212	804	1,035
山口県	徳島県	香川県	愛媛県	高知県	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	台湾	不明その他	合計	
472	682	585	557	374	745	236	378	275	342	278	433	724	180	52,118	215,416	

交通案内

▶ 天白キャンパス

法学部 経営学部 経済学部
 情報工学部 理工学部 農学部
 法学研究科 経営学研究科 経済学研究科
 理工学研究科 農学研究科 総合学術研究科

〒468-8502 名古屋市天白区塩釜口一丁目501番地
 TEL 052-832-1151 (代)

▶ 八事キャンパス

薬学部 薬学研究科

〒468-8503 名古屋市天白区八事山150番地
 TEL 052-832-1151 (代)

▶ ナゴヤドーム前キャンパス

外国語学部 人間学部 都市情報学部
 人間学研究科 都市情報学研究科

〒461-8534 名古屋市東区矢田南四丁目102番9
 TEL 052-832-1151 (代)

▶ 春日井(鷹来)キャンパス

農学部附属農場

〒486-0804 春日井市鷹来町字菱ヶ池4311番2
 TEL 0568-81-2169

▶ 日進キャンパス

日進総合グラウンド

〒470-0102 日進市藤島町長塚75番地
 TEL 0561-73-0810

▶ 瀬戸校地

演習林

瀬戸市三沢町一丁目272番地

▶ 名城大学附属高等学校

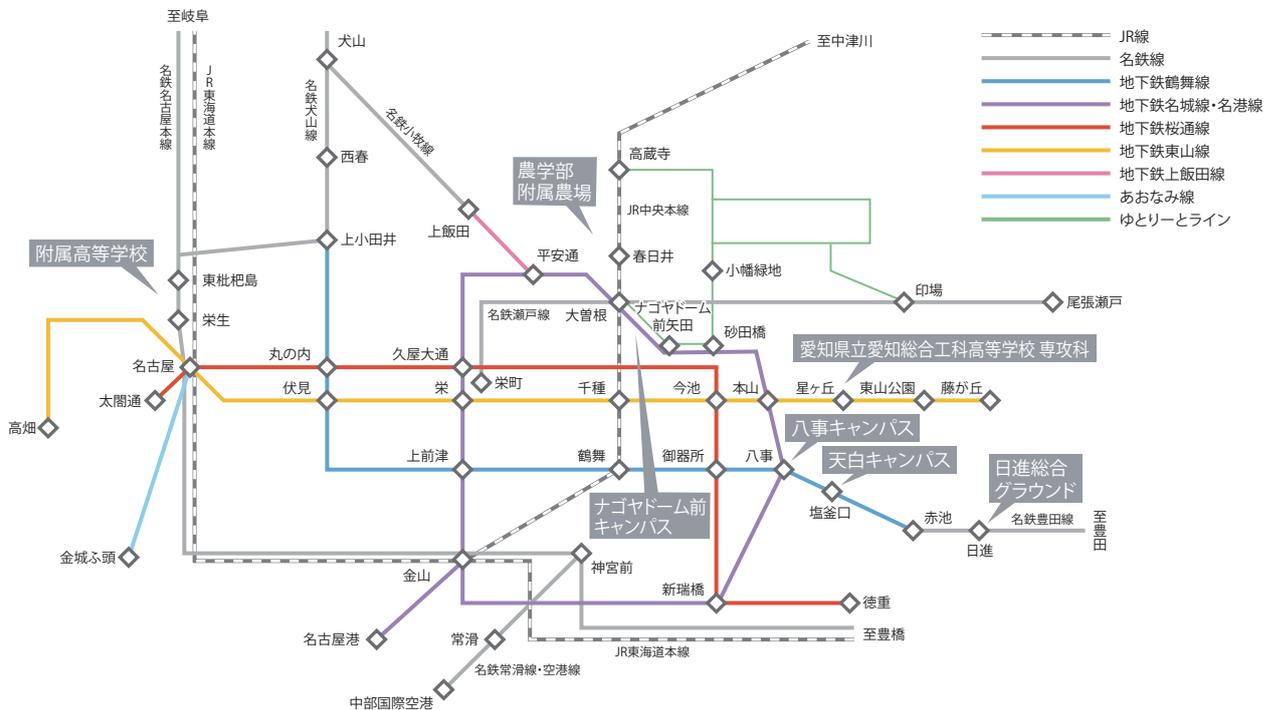
普通科 総合学科

〒453-0031 名古屋市中村区新富町一丁目3番16
 TEL 052-481-7436 (代)

▶ 愛知県立愛知総合工科高等学校 専攻科

〒464-0808 名古屋市千種区星が丘山手107
 TEL 052-788-7200

交通案内



天白キャンパス

▶ 地下鉄鶴舞線「塩釜口／名城大学前」駅下車、1番出口徒歩約4分

八事キャンパス

▶ 地下鉄鶴舞線・名城線「八事」駅下車、6番出口徒歩約6分

ナゴヤドーム前キャンパス

- ▶ JR中央本線・名鉄瀬戸線「大曽根」駅下車、徒歩約10分
- ▶ 地下鉄名城線「ナゴヤドーム前矢田」駅下車、2番出口徒歩約3分
- ▶ ゆとりーとライン「ナゴヤドーム前矢田」駅下車、徒歩約5分

春日井(鷹来)キャンパス(農学部附属農場)

▶ JR中央本線「春日井」駅下車、名鉄バス「小牧」行きで「総合体育館前」下車、北方向に徒歩約3分

日進キャンパス(日進総合グラウンド)

▶ 地下鉄東山線「星ヶ丘」駅下車、名鉄バス「五色園」行きで「五色園」下車、徒歩約10分

名城大学附属高等学校

- ▶ 名鉄名古屋本線「東枇杷島」駅下車、徒歩約5分
- ▶ 同「栄生」駅下車、徒歩約8分

愛知県立愛知総合工科高等学校 専攻科

▶ 地下鉄東山線「星ヶ丘」駅下車、2番出口徒歩約4分



名城大学

MEIJOth
MEIJO UNIVERSITY 1926 \rightarrow 2026

